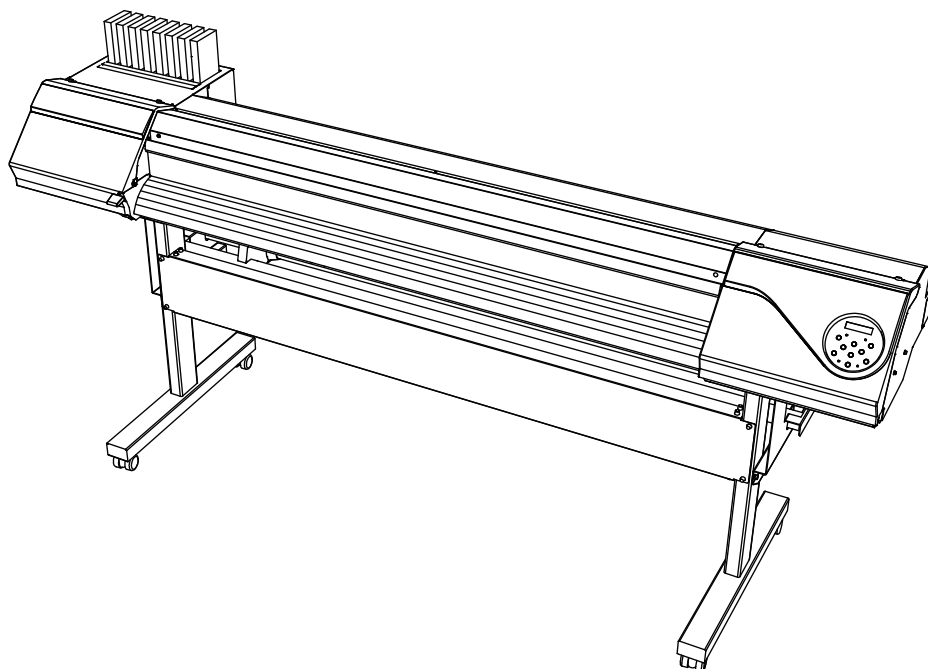
VersaCAMM

VS-640 VS-420
VS-540 VS-300
ユーザーズマニュアル

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

- ○ 本製品を、正しく安全にご使用いただくため、また性能を十分理解していただくために、この取扱説明書を必ずお読みいただき、大切に保管してください。
- ○ 本書の内容の一部または全部を、無断で複写・複製することはできません。
- ○ 本製品の仕様ならびに本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
- ○ 本製品および本書の内容について、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなど、お気づきの点がありましたら、当社あてにご連絡ください。
- ○ 本製品の故障の有無にかかわらず、本製品をお使いいただいたことによって生じた直接ないし間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。
- ○ 本製品により作られた製作物に対して生じた、直接ないし間接的な損害に対して、当社は一切の責任を負いません。

Roland DG Corporation

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本製品は GPL/LGPL 適用ソフトウエアを使用しており、お客様にはこのソフトウエアのソース・コードを入手、改変、再配布する権利があります。本製品に使用されている GPL/LGPL 適用ソース・コードの入手を希望されるお客様には、当社 Web サイトからのダウンロードにて提供しております。具体的な入手方法につきましては、以下をご参照ください。

URL: http://www.rolanddg.com/gpl/

当社は TPL グループより MMP 技術のライセンスを得ています。

目次

本書は VS-640/540/420/300 共通のセットアップガイドです。機種を区別する必要がある場合、本書内では各機種を次のように表記しています。

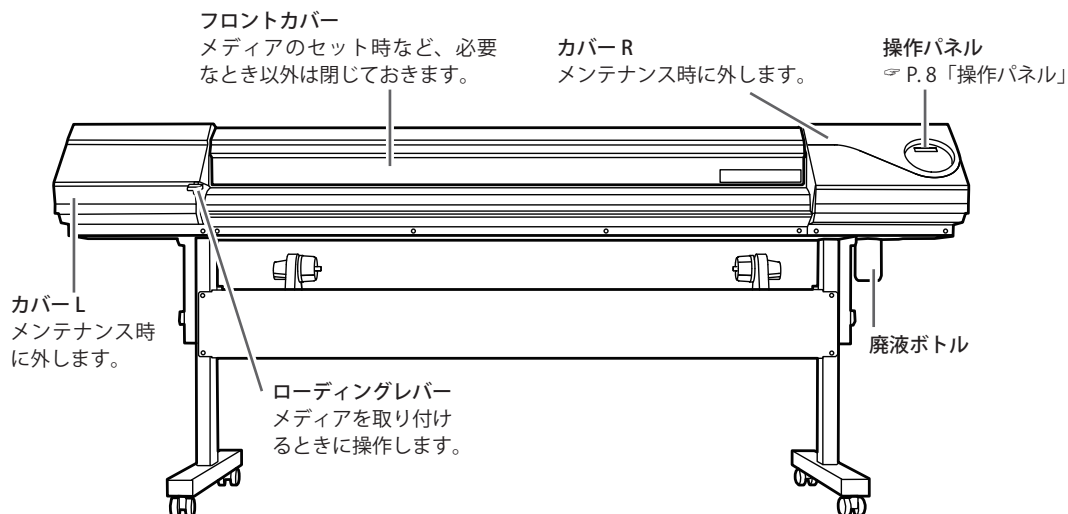
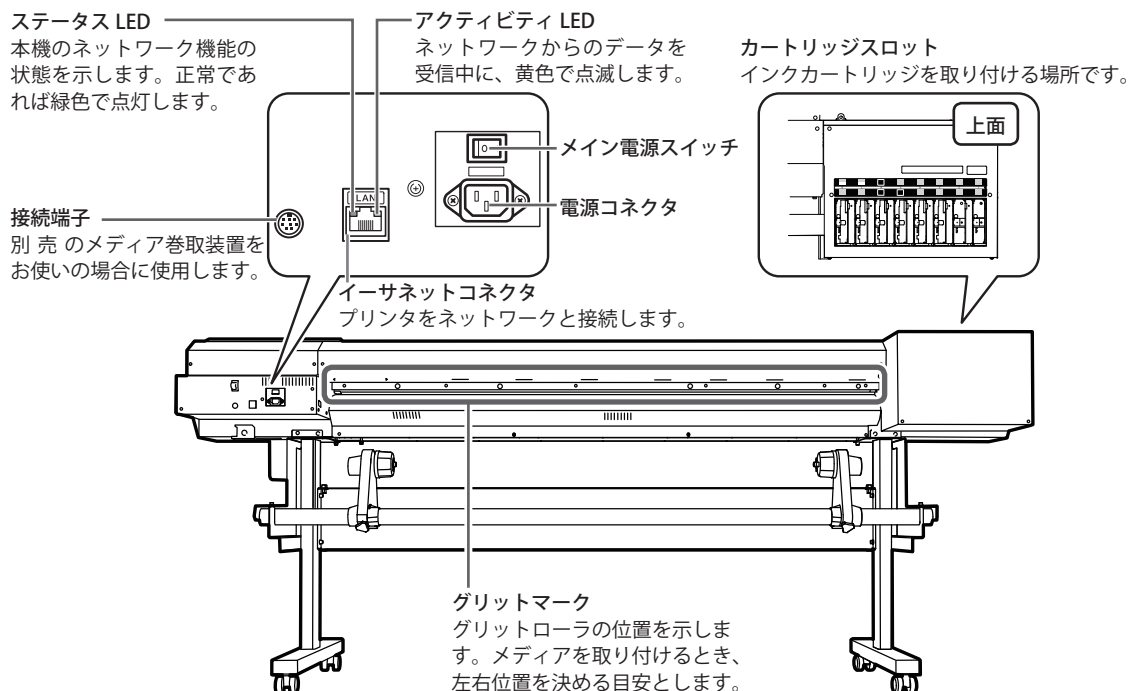
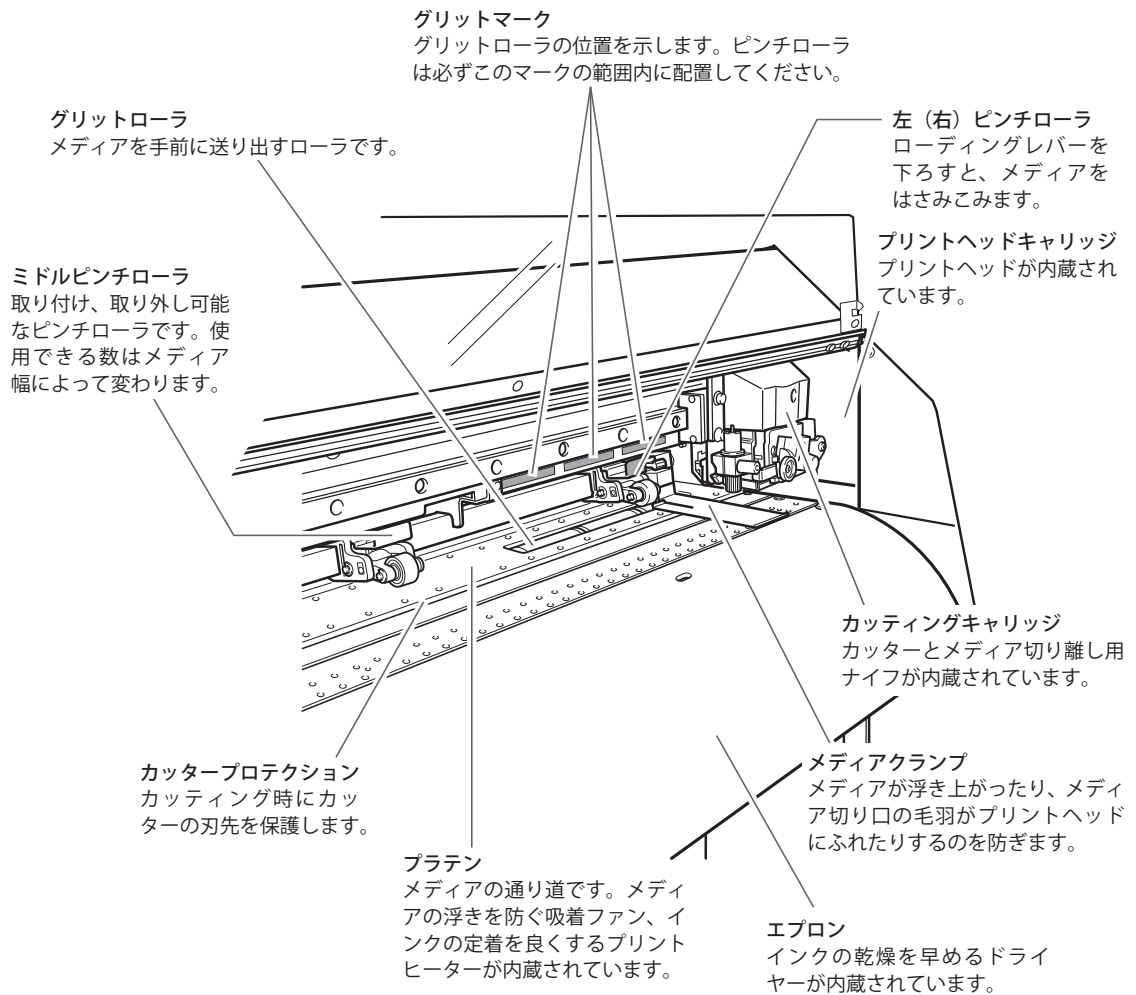
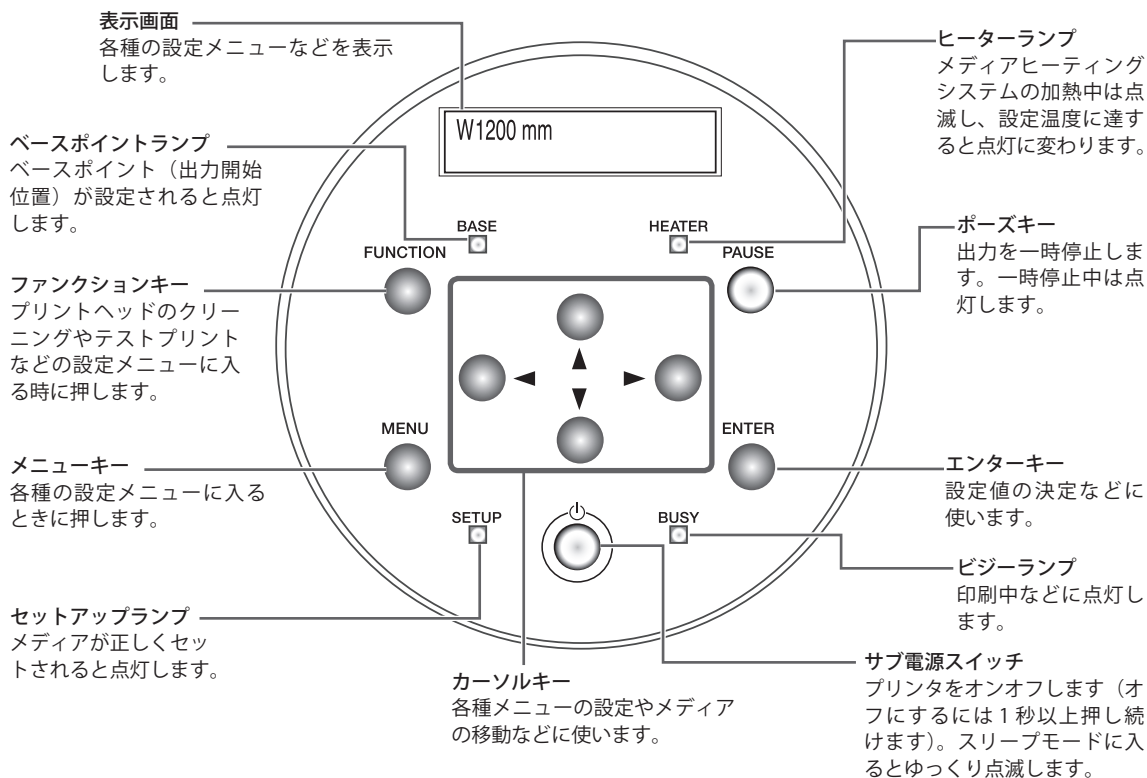
VS-640　・・・　64 インチモデル
VS-540　・・・　54 インチモデル
VS-420　・・・　42 インチモデル
VS-300　・・・　30 インチモデル

また、本書内のイラストはおもに VS-640 のものを使用しています。

第 1 章
本機のご紹介

各部の名称と機能

プリンタ本体

前面

背面

フロントカバー内部／プリントヘッド周辺

操作パネル

キーの表記について

本書では、操作パネルのキー、ランプを次の絵で表現します。

MENU	メニューキー
FUNCTION	ファンクションキー
ENTER	エンターキー
PAUSE	ポーズキー
▲ ▼ ◄ ►	カーソルキー
SETUP	セットアップランプ
BUSY	ビジーランプ
BASE	ベースポイントランプ
HEATER	ヒーターランプ

メニュー表

メインメニュー

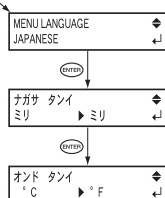
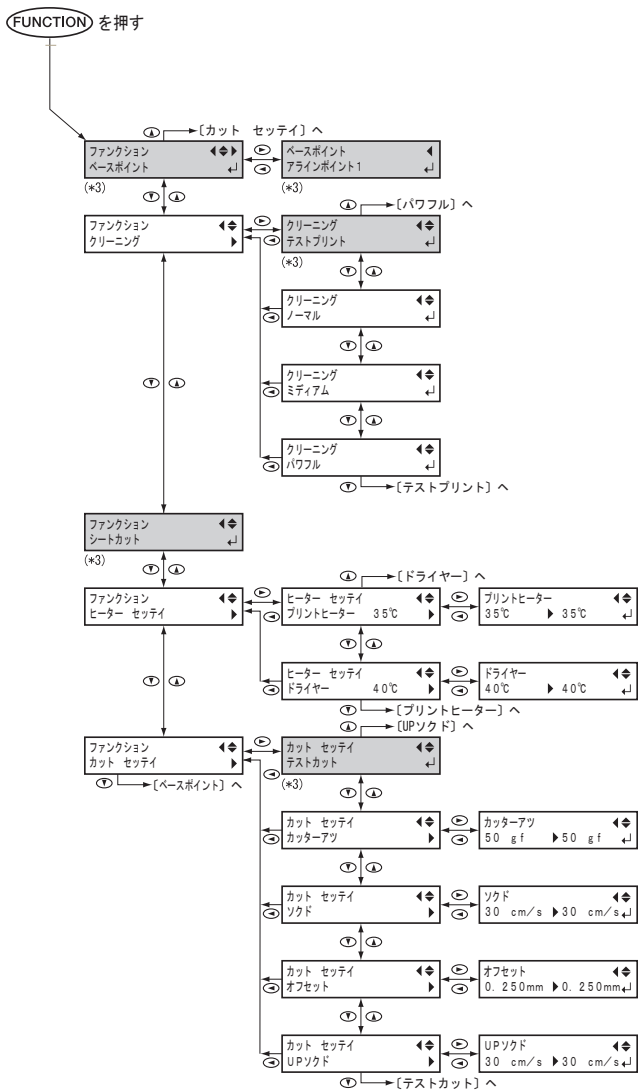
1
ご紹介

(*1) インクモードが CMYKLcLm のときのみ表示されます。
(*2) インクモードが CMYKLcLmWMT のときのみ表示されます。

前ページへ続く
〔ネットワーク〕へ
メニュー
システム ジョウホウ
システム ジョウホウ
モデル
モデル
VS-640
システム ジョウホウ
シリアル バンゴウ
シリアル バンゴウ
ZS00001
システム ジョウホウ
インク
インク
E-SOL Max 4ショク
システム ジョウホウ
ファームウェア
ファームウェア
Ver. 1. 00
〔MAC アドレス〕へ
システム ジョウホウ
ネットワーク
ネットワーク
IP アドレス
IP アドレス
255. 255. 255. 255
IP アドレス
255. 255. 255. 255
〔モデル〕へ
ネットワーク
サブネット マスク
サブネットマスク
255. 255. 255. 255
サブネットマスク
255. 255. 255. 255
ネットワーク
ゲートウェイ アドレス
ゲートウェイ アドレス
255. 255. 255. 255
ゲートウェイ アドレス
255. 255. 255. 255
ネットワーク
MAC アドレス
MAC アドレス
000086148C5F
〔IP アドレス〕へ
〔カンソウジカン〕へ
メニュー
ヒーターメニュー
ヒーター メニュー
インサツゴ カンソウオクリ
インサツゴ カンソウオクリ
ムコウ ムコウ
ヒーター メニュー
ヒーター アイドリング
ヒーター アイドリング
30℃ 30℃
ヒーターメニュー
カンソウジカン
カンソウジカン
10フン 10フン
〔インサツゴ カンソウオクリ〕へ
メニュー
インク ザンリョウ
1 2 3 4
5 6 7 8
〔セットアップジ セッテイ〕へ
メニュー
シート ザンリョウ カンリ
シートザンリョウ カンリ
メモ インサツ
シートザンリョウ カンリ
ザンリョウ セッテイ
ザンリョウ セッテイ
0. 0m 0. 0m
シートザンリョウ カンリ
セットアップジ セッテイ
セットアップジ セッテイ
ムコウ ムコウ
〔メモ インサツ〕へ
次ページへ続く

前ページへ続く
メニュー
カッティング メニュー
〔プリセット〕へ
〔ジドウカンキョウホセイ〕へ
〔テスト プリント 2〕へ
カッティング メニュー
インサツーカット イチアワセ
インサツーカット イチアワセ
テスト プリント
インサツーカット イチアワセ
セッテイ
F:+0.00 0.00m
S:+0.00 0.00m
インサツーカット イチアワセ
テスト プリント 2
〔テスト プリント〕へ
〔テスト プリント 2〕へ
カッティング メニュー
クロップカット イチアワセ
クロップカット イチアワセ
テスト プリント
クロップカット イチアワセ
セッテイ
F:+0.00 0.00m
S:+0.00 0.00m
クロップカット イチアワセ
テスト プリント 2
〔テスト プリント〕へ
〔SCANセッテイ〕へ
カッティング メニュー
キャリブレーション
キャリブレーション
FEEDセッテイ
FEEDセッテイ
0.00% 0.00%
キャリブレーション
SCANセッテイ
SCANセッテイ
0.00% 0.00%
〔FEEDセッテイ〕へ
カッティング メニュー
サキオクリ
サキオクリ
ムコウ ムコウ
カッティング メニュー
カットセッテイ ユウセン
カットセッテイ ユウセン
コマンド コマンド
カッティング メニュー
ジドウカンキョウホセイ
ジドウカンキョウホセイ
ユウコウ ユウコウ
〔インサツーカット イチアワセ〕へ

言語・単位選択メニュー

MENU
を押しながら、サブ電源をオン
MENU LANGUAGE
JAPANESE
ENTER
ナガサ タンイ
ミリ ミリ
ENTER
オンド タンイ
°C °F

ファンクションメニュー

(*3) メディアを取り付けていないとき（ SETUP 消灯時）には表示されません。

⚠安全にお使いいただくために

本機の取り扱いによっては、人に危害が及んだり、ものに損害を与えたりすることがあります。これらを未然に防ぐため必ず守っていただきたいことを、次のように説明しています。

⚠警告 と ⚠注意 の意味

⚠警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
⚠注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 * 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

(感電注意の図記号)	△は、注意(危険、警告を含む)を表しています。 具体的な禁止内容は、△の中に描かれています。 左図の場合は、「感電注意」を表しています。
(分解禁止の図記号)	⃠は、禁止(してはいけないこと)を表しています。 具体的な禁止内容は、⃠の中に描かれています。 左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
(電源プラグを抜く図記号)	●は、強制(必ずすること)を表しています。 具体的な強制内容は、●の中に描かれています。 左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜け」を表しています。

⚠正しく操作しないとけがをします

⚠警告

この説明書の操作手順を必ず守る。取り扱い方法を知らない人にはさわらせない。
取り扱いを誤ると、思わぬ事故の原因になります。

子供を近づけない。
子供にとって危険な場所や部品があり、けが、失明、窒息など重大な事故の恐れがあります。

酒や薬を飲んでいるときや、疲れているときは、作業しない。
適切な判断を要する作業があります。判断力が鈍ると、思わぬ事故の原因になります。

用途以外の使い方や、能力を超える無理な使い方をしない。
けがや火災の原因になります。

アクセサリ類（オプション品、消耗品、電源コードなど）は、本機に適合する純正品を使用する。
適合しないものは、思わぬ事故の原因になります。

清掃、メンテナンス、オプション品の着脱をするときは、電源コードを抜く。
通電したままでは、けがや感電の恐れがあります。

分解、修理、改造をしない。
火災、感電、けがの原因になります。修理は、専門のサービスマンにお任せください。

⚠注意

はさみ込みや巻き込みに注意。
うっかりさわると、手がはさまれたり巻き込まれる場所があります。注意して作業してください。

ネクタイ、ネックレス、だぶだぶの服を着けて作業しない。長い髪はきちんと結ぶ。
機械に巻き込まれ、けがをすることがあります。

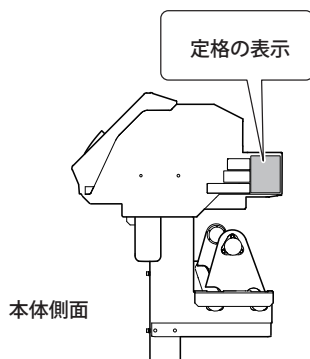
きれいに片づけられた、明るい場所で作業する。
暗く散らかった場所は、つまずいた拍子に機械に巻き込まれるなど、思わぬ事故の原因になります。

本機に乗ったり、寄りかかったりしない。
人が乗るようには作られていません。部品が外れて転落する恐れがあります。

カッターに注意。
本機はカッターを内蔵しています。カッターを取り扱うときは、けがに注意してください。

⚠ショート、感電、火災の恐れがあります

⚠警告

本機の定格（電圧、周波数、電流）に適合するコンセントに接続する。
電圧が違ったり、電流に余裕がないと、火災や感電につながります。

屋外、水のかかる場所、湿気の多い場所では使わない。ぬれた手で触らない。
火災や感電の恐れがあります。

内部に異物を入れない。液体をこぼさない。
通気口からコインやマッチを差し込んだり、飲み物をこぼすと、火災や感電の原因になります。もし内部に入ってしまった場合は、すぐに電源コードを抜き、当社コールセンターまでご連絡ください。

近くに燃えやすいものを置かない。近くで可燃性スプレーを使わない。ガスの充満する場所では使わない。
引火や爆発の恐れがあります。

⚠警告

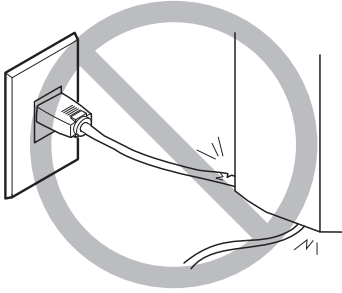
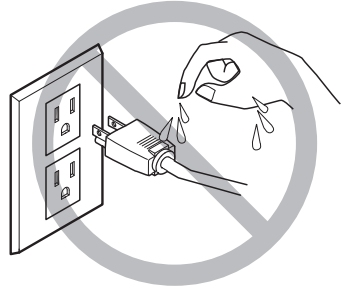
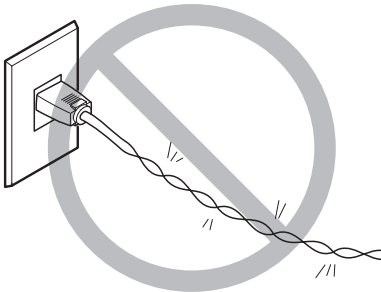
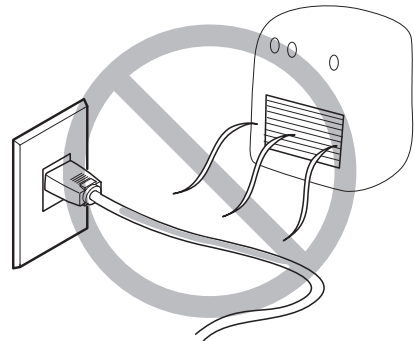
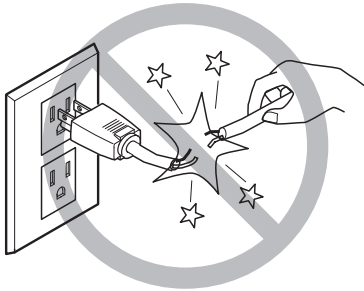
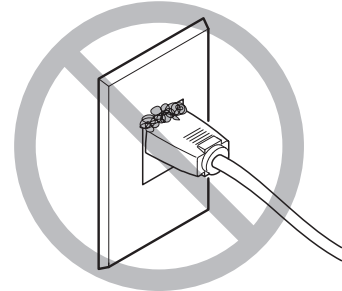
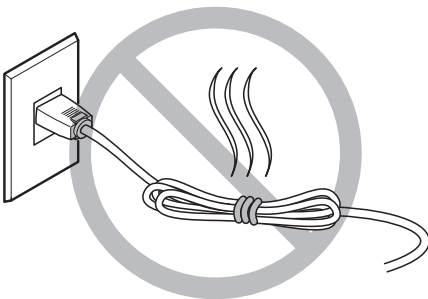
電源コード、プラグ、コンセントは、正しくていねいに取り扱う。傷んだものは使わない。
傷んだものは、火災や感電の原因になります。

延長コードやテーブルタップは、本機の定格（電圧、周波数、電流）より余裕のあるものを使う。
たこ足配線や長い延長コードは、火災の原因になります。

アースに接続する。
万一の故障で漏電したときに、火災や感電にいたるのを防ぎます。

電源プラグにいつでもすぐ手が届くようにしておく。
緊急時にすばやく電源プラグを抜くためです。コンセントのそばに機器を設置してください。また、コンセントにすぐ近づけるだけのスペースを空けてください。

火花、煙、こげた臭い、異音、異常な動作が発生したら、すぐに電源プラグを抜く。部品が損傷している場合は使用しない。
そのまま使うと、火災、感電、けがの恐れがあります。当社コールセンターへご連絡ください。

⚠電源コード、プラグ、コンセントのご注意

物をのせない、傷つけない

ぬらさない

無理に曲げない、ねじらない

熱を加えない

無理に引っぱらない

ほこりは火災のもと

束ねない、巻かない

⚠インク、洗浄液、廃液は引火します／人体に害があります

⚠警告

作業場所に火気を持ち込まない。
インクや廃液に引火する恐れがあります。

インク、洗浄液、廃液は、次の場所に保管しない。
○ 火気のある場所
○ 高温になる場所
○ 漂白剤などの酸化剤、爆発物のそば
○ 子供の手の届く場所
火災の恐れがあります。子供が誤って飲むと、健康障害の恐れがあります。

インクカートリッジを火の中に投げ入れない。
インクが流れ出て燃え広がり、近くのものに燃え移る恐れがあります。

インク、洗浄液、廃液は、目に入れたり、皮膚に付けたり、飲んだり、臭いをわざと吸い込んだりしない。
健康を害する恐れがあります。

⚠注意

作業場所は、換気する。
換気しないと、インクの臭いで健康を害したり、引火する恐れがあります。

インクカートリッジに衝撃を与えたり、分解したりしない。
インクが漏れ出すことがあります。

⚠飲んだり、気分が悪くなったりしたときは

○ 目に入ったときは、すぐに水で 15 分間以上洗い流す。目の刺激が続くときは、医師の診断を受ける。
○ 皮膚についたときは、すぐに石けんで洗う。刺激を感じたり炎症になりそうなときは、医師の診断を受ける。
○ 飲んだときは、無理に吐かせようとせず、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐かせようとすると、かえって窒息の危険がある。
○ 気分が悪くなったときは、空気のきれいな場所で安静にする。めまいや吐き気が続くときには医師の診断を受ける。

⚠ 本機は 200 kg あります。メディアは 40 kg あります

⚠警告

水平で安定した、本機の重量に耐えられる場所に設置する。

本機の総重量は 200 kg 以上に達します（54 インチモデル は 170 kg、42 インチモデルは 150kg、30 インチモデルは 130 kg）。適さない場所では、転倒、転落、崩落など重大な事故の恐れがあります。)。適さない場所では、転倒、転落、崩落など重大な事故の恐れがあります。

積み卸しや据え付けの作業は、6 人（30 インチモデルは 4 人）以上で行う。

少人数での無理な作業は、身体を痛めます。もし落下すると、けがの原因になります。

⚠警告

スタンドのキャスターは必ずロックする。

もしも転がりだすと、身体が押しつぶされるなどの重大な事故につながります。

ロールメディアの保管には、転がったり、落ちたり、倒れたりしないよう、十分な安全対策をとる。

メディアの下敷きになって大けがをする恐れがあります。

ロールメディアを取り扱うときは、2 人以上で持ち、落下に十分注意する。

重いメディアを無理に持ち上げようとすると、身体を痛めます。もし落下すると、けがの原因になります。

⚠ 火災、やけど、有害ガス発生の恐れがあります

⚠警告

高温注意。

ドライヤーなど熱くなる場所があります。火災ややけどに注意してください。

印刷していないときは、メディアを外すか、電源をオフにする。

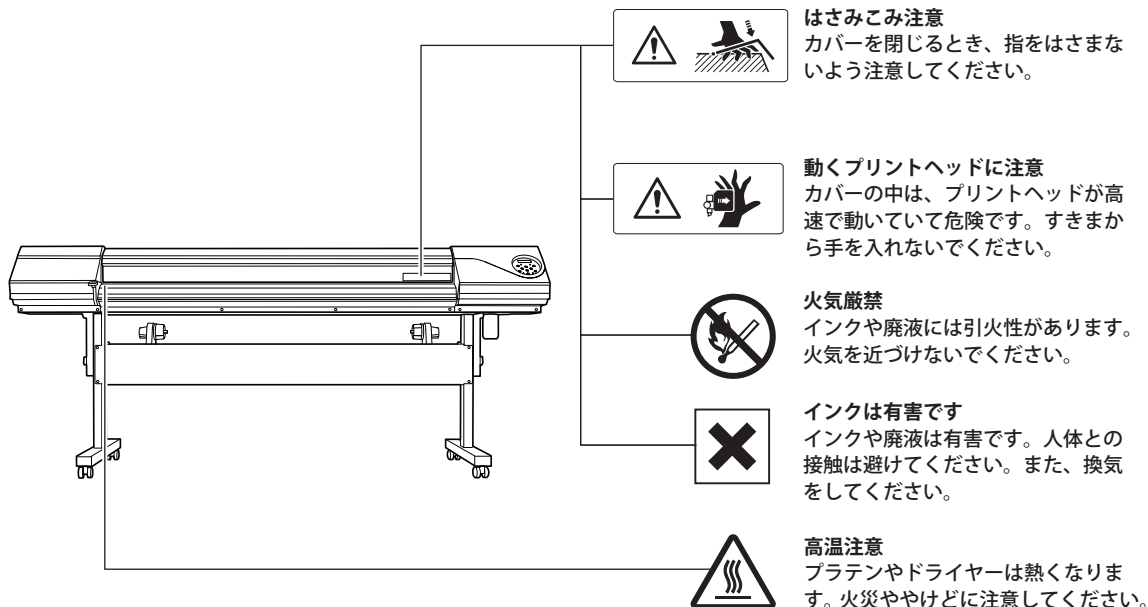
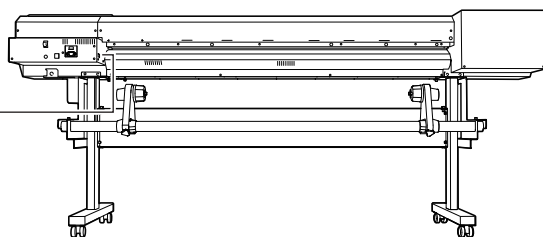
同じ場所を熱し続けると、メディアから有害ガスが出たり、発火する恐れがあります。

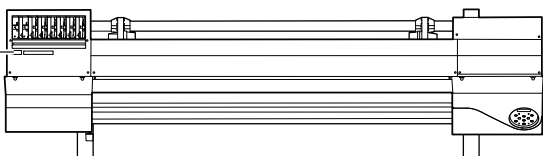
⚠警告

熱に耐えられないメディアは使わない。

メディアが変質したり、火災や有害ガス発生の恐れがあります。

警告ラベルについて

危険な場所がすぐわかるように、警告ラベルをはってあります。ラベルの意味は次の通りですので、必ずお守りください。また、ラベルをはがしたり汚したりしないでください。

高電圧注意
カバーを外すと、高電圧により感電することがあります。

火気厳禁
インクや廃液には引火性があります。火気を近づけないでください。

インクは有害です
インクや廃液は有害です。人体との接触は避けてください。また、換気をしてください。

取り扱い上のお願い

本機は精密機器です。性能を十分発揮するために次のことをお守りください。守られないと十分な性能を発揮できなかったり、誤動作や故障の原因になります。

プリンタ本体

本機は精密機器です

○衝撃や無理な力を加えないようていねいに取り扱ってください。
○カバーの中やインクカートリッジ挿入口など、機械の内部にむやみに手を入れないでください。

適切な場所に設置してください

○決まった温度と湿度の場所に設置してください。
○静かで安定している条件のよい場所に設置してください。

プリントヘッドはデリケートです

○むやみにさわったりメディアをこすらないでください。ていねいに扱わないと壊れます。
○プリントヘッドは乾燥すると壊れます。本機は自動で乾燥を防ぎますが、不適切な操作をするとこの機能の働かないことがあります。本書に従って適切に操作してください。
○インクカートリッジを抜いたまま放置しないでください。プリンタに残ったインクが固まり、プリントヘッドの目づまりすることがあります。
○プリントヘッドは消耗部品です。ご使用の頻度により定期的な交換が必要です。

本機は熱くなります

○通気のための穴を布などでおおったりテープでふさいだりしないでください。

インクカートリッジ

インクカートリッジには種類があります

○プリンタに適合した種類のものをお使いください。また、必ず当社純正品をお使いください。

衝撃を加えたり分解したりしないでください

○落としたり強く振ったりしないでください。衝撃で中の袋が破れ、インクのもれ出すことがあります。
○分解しないでください。
○インクを補充しないでください。
○インクが手や服などに付いたときは、なるべく早く洗ってください。放っておくと落ちにくくなります。

保管について

○温度が -20 ～ 40℃の風通しのよい場所に未開封のまま保管してください。

第 2 章
基本操作編

メディアを用意する

メディアの種類について

本書では、出力に使用する用紙を「メディア」と呼びます。本機で使用するメディアには大きく分けて次の２種類があります。

○ ロールメディア：紙管などに巻かれているもの

○ カットメディア：定型サイズのメディアなど、紙管などに巻かれていないもの

ロールメディア、カットメディア共に用途に合わせて様々な紙質の種類を選択できます。各メディアの詳細については、メディアの購入先にお問い合わせください。また、弊社ウェブサイトからの購入も可能です。

http://www.rolanddg.co.jp/

使用可能なメディアの条件

本機は、どんなメディアにでも出力できるわけではありません。メディアの選定にあたっては、必ずテストを行い、満足できる出力品質が得られるか事前に確認してください。

サイズ

幅（ロールメディア、カットメディア共通）
64 インチモデル：210 〜 1625 mm（8.3 〜 64 インチ）
54 インチモデル：210 〜 1371 mm（8.3 〜 54 インチ）
42 インチモデル：210 〜 1071 mm（8.3 〜 42 インチ）
30 インチモデル：210 〜 762 mm（8.3 〜 30 インチ）

A）カッティング可能なメディア厚み（ロールメディア、カットメディア共通）
0.08 mm 〜 0.22 mm（メディアの材質による）

B）台紙（剥離紙）を含む最大メディア厚み（ロールメディア、カットメディア共通）
印刷のみの場合：1.0 mm
カッティングする場合：0.4 mm

ロールメディアの最大外径
210 mm

ロールメディアの紙管内径
76.2 mm（3 インチ）または 50.8 mm（2 インチ）
※ 2 インチのメディアを使用するには、オプション品のメディアフランジが必要です。オプション品については、本機をお買い上げの販売店または弊社までお問い合わせください。

ロール最大重量

64 インチモデル：40 kg
54 インチモデル：30 kg
42 インチモデル：25 kg
30 インチモデル：25 kg
※ 巻取装置を使用する場合は、巻取装置の使用可能なメディアの条件に依存します。

その他の条件

次のようなメディアは使用できません。
○ メディアの巻き始めが紙管（芯）に接着されているもの
○ 強く反っていたり、巻き癖の強いもの
○ メディアヒーティングシステムの熱に耐えられないもの
○ 紙管（芯）が曲がったりつぶれたりしているもの
○ セット時にロールが自重で曲がってしまうもの
○ ロール自体がたわんでいるもの
○ ロールに巻きずれがあるもの

スイッチオン！

スイッチオン！

⚠警告　出力していないときは、メディアを外すか、サブ電源をオフにする。
同じ場所を熱し続けると、メディアから有害ガスが出たり、発火する恐れがあります。

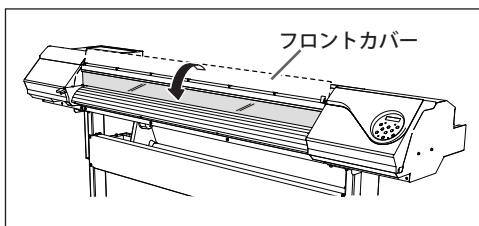
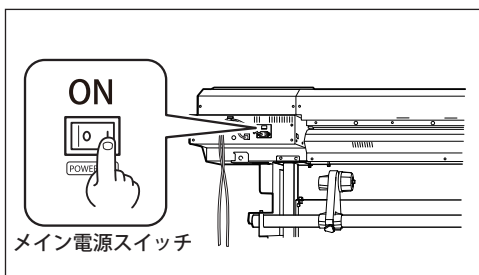
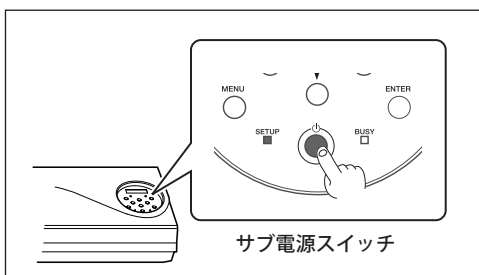
手順

❶

フロントカバーを閉じる。

❷

メイン電源をオンにする。

❸

サブ電源をオンにする。
※ インクカートリッジの取り付けや表示画面の言語設定などは「セットアップガイド」を参照してください。

スリープモード（省電力機能）について

本機は省電力機能を持っており、何の動作もしていない状態が一定時間続くとより消費電力の少ない「スリープモード」に切り替わります。スリープモードになる時間は、工場出荷時には 30 分に設定されています。 スリープモードになると、サブ電源スイッチがゆっくり点滅します。 操作パネルを操作したり、メディアをセットした状態でコンピュータから印刷データを送ったりすると、通常のモードに戻ります。
スリープモードの設定は変更できますが、消費電力の節約や過熱事故防止のため、省電力機能はオンのままにし、スリープモードへの移行時間も 30 分以下に設定することをおすすめします。

☞ P. 130「スリープモード（省電力機能）になるまでの時間を設定する」、P. 131「スリープモード（省電力機能）にならないようにする」

メディアの取り付け

ロールメディアの取り付け

⚠注意 **ロールメディアは正しくセットする。**
メディアが落下してけがをすることがあります。

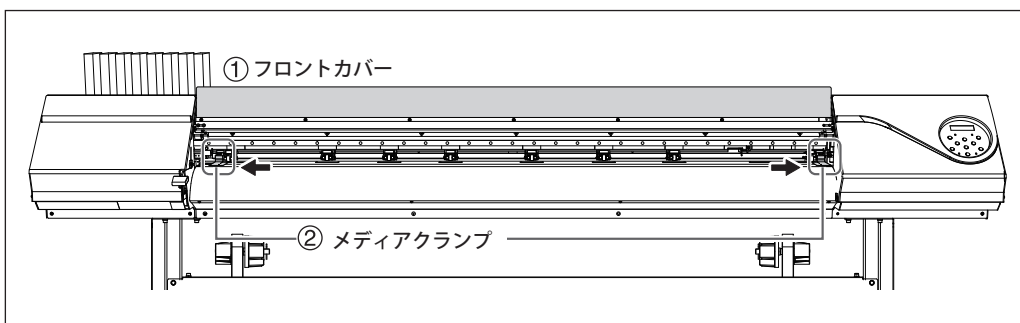
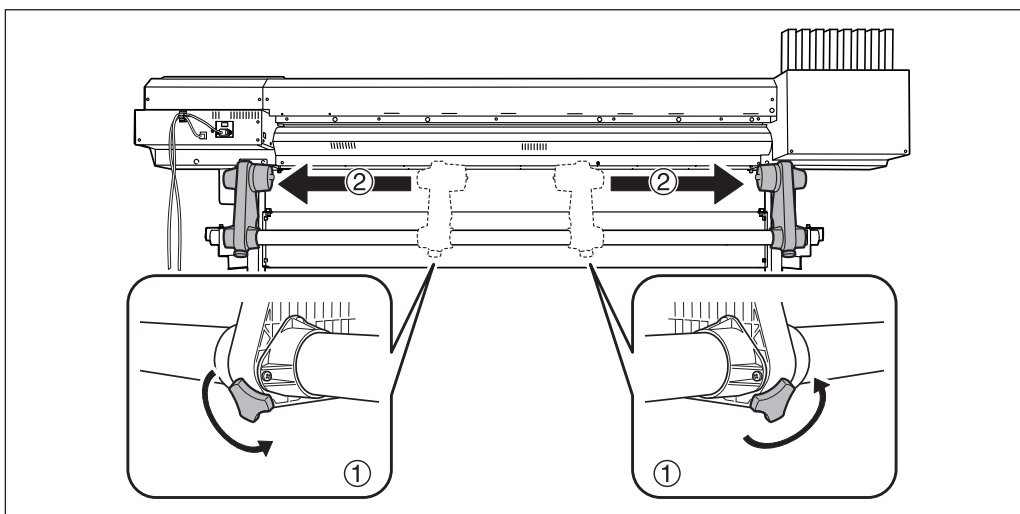
⚠注意 **ロールメディアは 40kg 程度ある。取り扱うときはけがに注意すること。**

⚠注意 **重さが 40kg（54 インチモデルは 30 kg、42 /30 インチモデル は 25 kg）を超えるメディアをセットしない。**
本機が重さに耐えられず転倒したりメディアが落下したりする恐れがあります。

2
基本操作

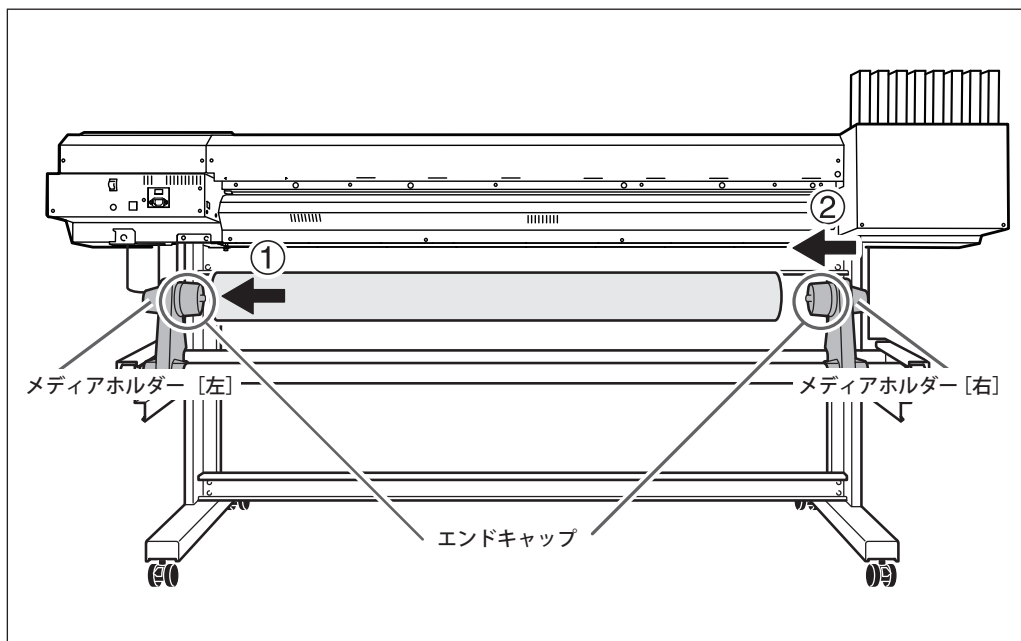
1. メディアをメディアホルダーに取り付ける。

※ 本機のメディアホルダーは、紙管内径 3 インチ専用です。2 インチのメディアを使用するには、オプション品のメディアフランジが必要です。オプション品については、お買い上げの販売店または弊社までお問い合わせください。

❶ ①フロントカバーを開ける。
②メディアクランプを左右に移動する。

❷ ①メディアホルダーの固定ネジを緩める。
②メディアホルダーを左右いっぱいまで寄せる。

3 **①メディアホルダー［左］のエンドキャップに、メディアの紙管をはめ込む。**

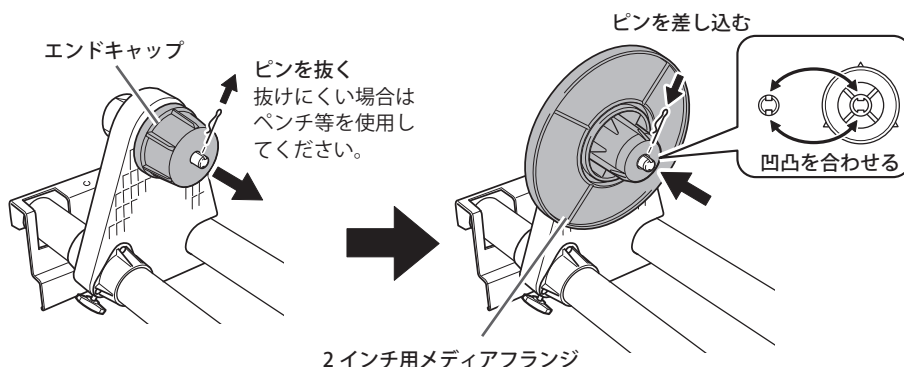
ここではまだメディアホルダーを固定しないでください。

②メディアホルダー［右］を動かして、エンドキャップをメディアの紙管にはめ込む。

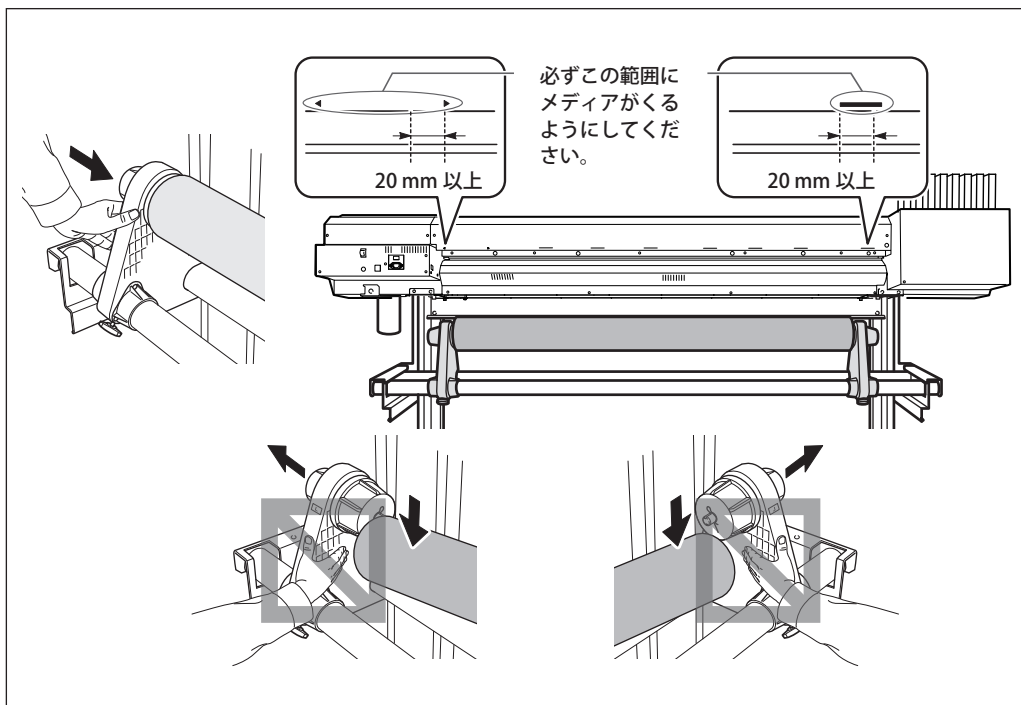
メディアが簡単に動かないように、しっかりとはめ込んでください。

IMPORTANT! **手順を守って取り付けてください。**

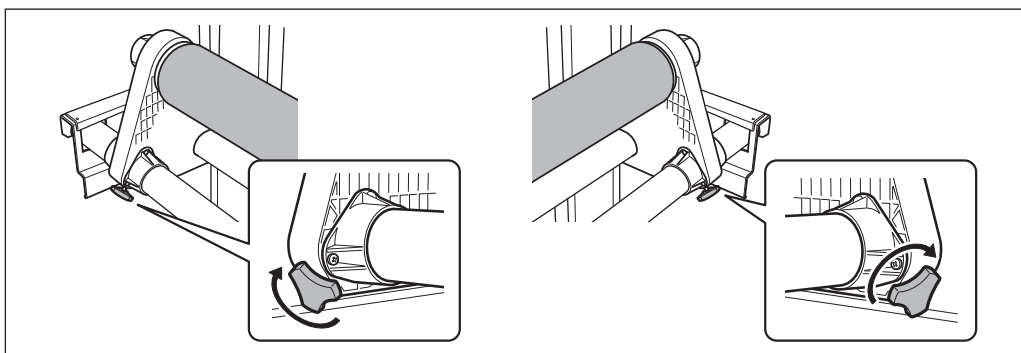
メディアは､図のようにメディアホルダー［左］を左端に寄せた状態で取り付けてください。また、メディアを取り付ける前にメディアホルダーを固定しないでください。手順を守らずにメディアを取り付けると、メディアがうまく送られず、印刷結果に悪影響を与えることになります。

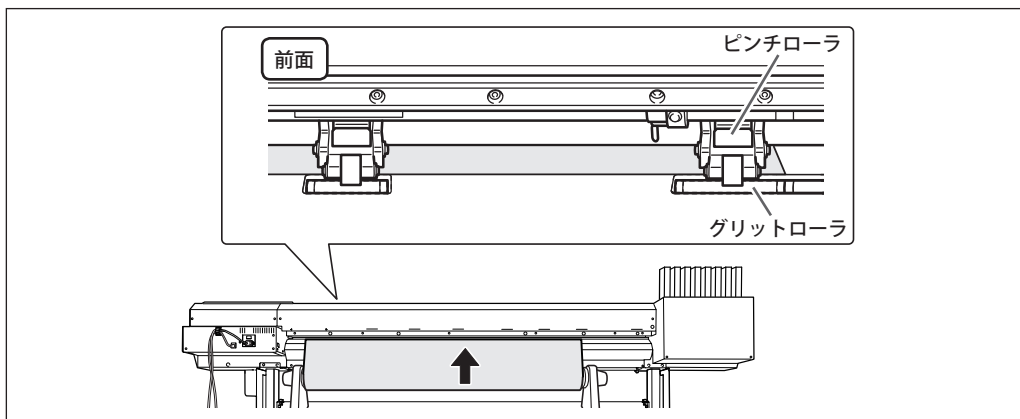
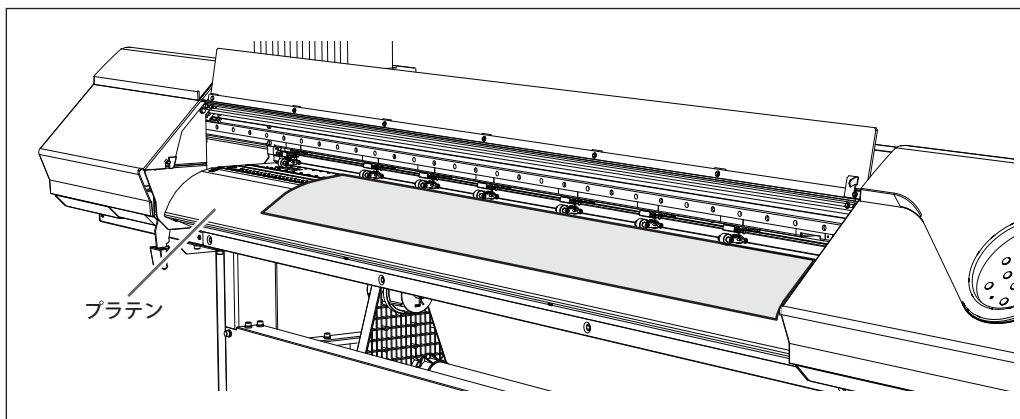
紙管内径２インチ用メディアフランジの使用方法

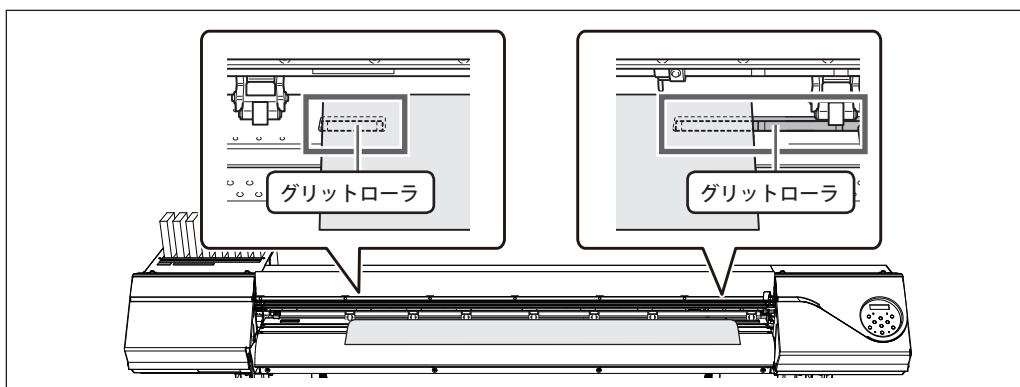
※ 紙管内径２インチ用メディアフランジはオプション品です。

❹ メディアホルダー［左］の外側を持って、グリットマークを見ながらメディアの左右位置を決める。

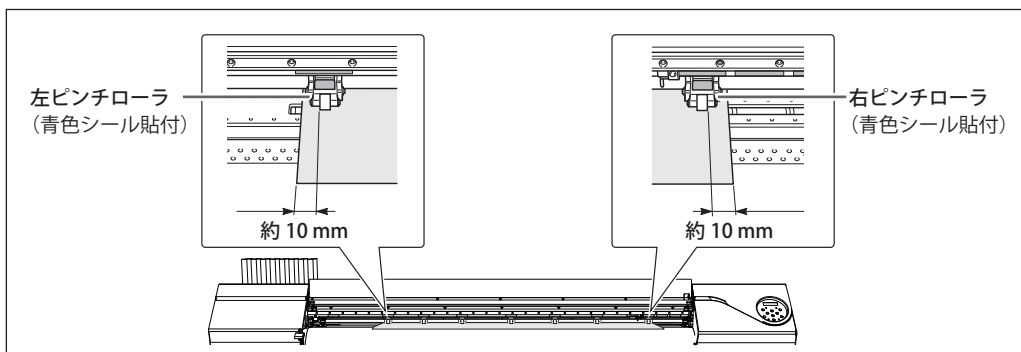
位置を決めるときは、左右のメディアホルダーを外側から持って動かしてください。メディア自体を持って動かさないようにしてください。

⚠注意 **指示された位置以外の場所を持って作業しないこと。**
メディアホルダーからメディアが落下してけがをすることがあります。

IMPORTANT! **メディアの左右位置はこの時点でしっかり決めてください。**
このあとピンチローラなどでメディアを固定するときにメディアの左右位置がずれている場合は、もう一度この時点に戻ってやり直す必要があります。メディアだけを持って無理やり位置を直すと、出力時にメディアが斜行したりして出力品質に悪影響が出るからです。

❺ 固定ネジを軽く締め付けて、メディアホルダーを固定する。

2. メディアをプリンタに通して固定する。

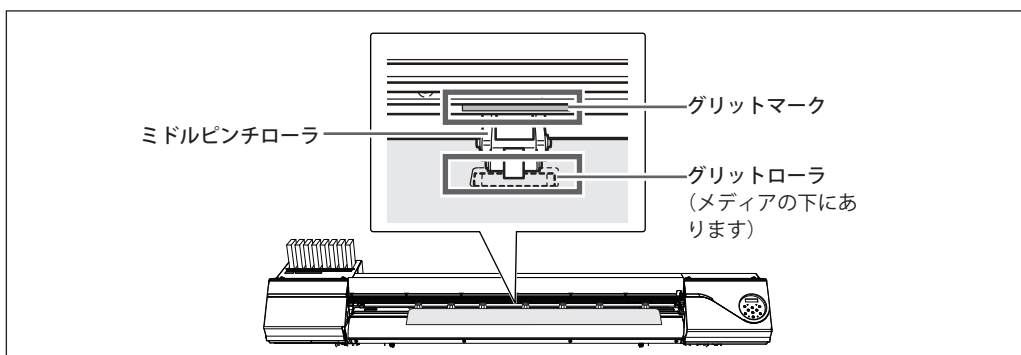
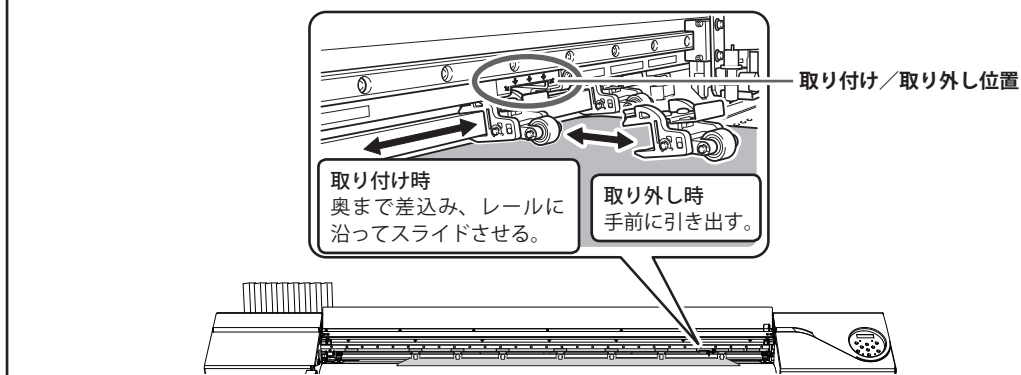
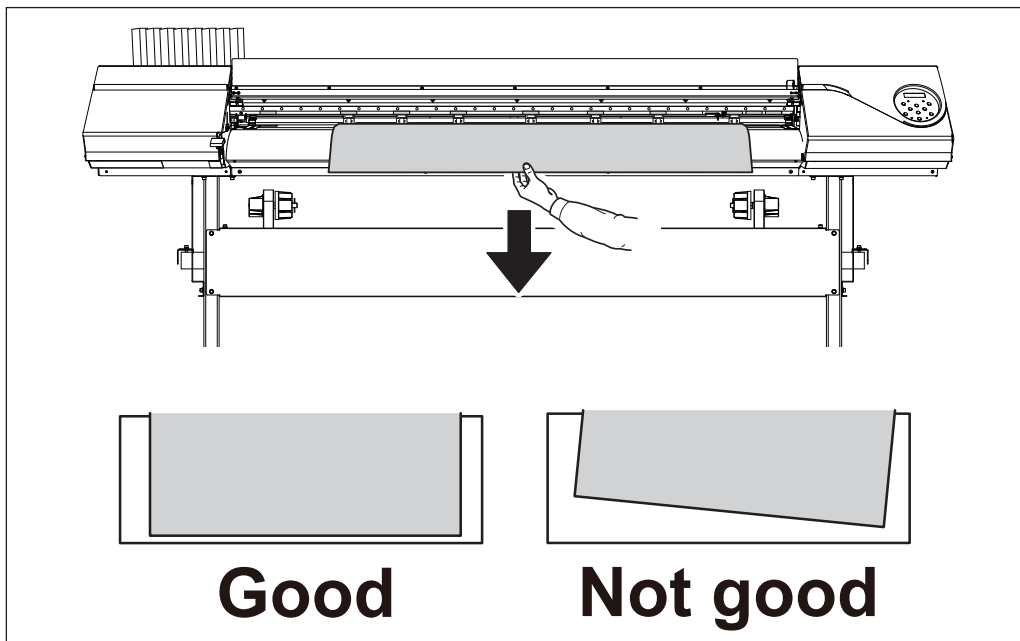
❶ メディアの先端をピンチローラとグリットローラの間に通す。

❷ メディアをプラテン上まで引き出す。

❸ メディアの両端がグリットローラ上にあることを確認する。

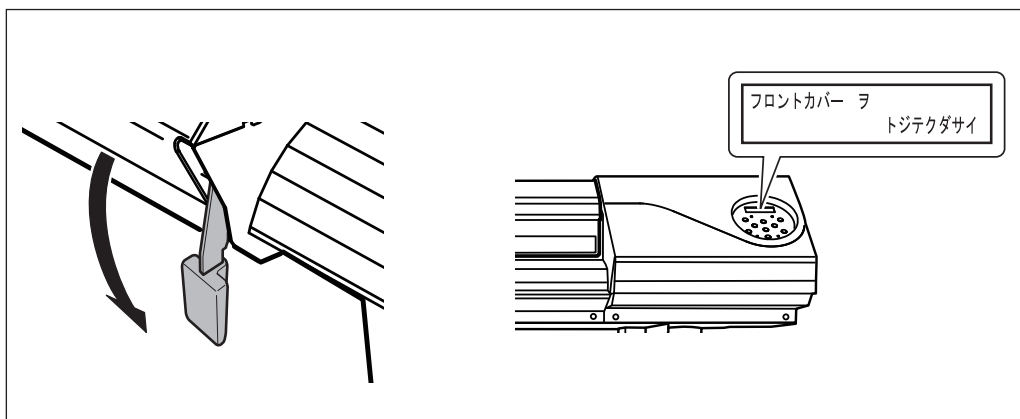
メディアの右端は、必ず右端のグリットローラ上にのせてください。

❹ 左右のピンチローラ（青色シール貼付）をメディアの両端に配置する。

メディアの端から 10 mm 程度離れた位置に配置してください。

IMPORTANT!

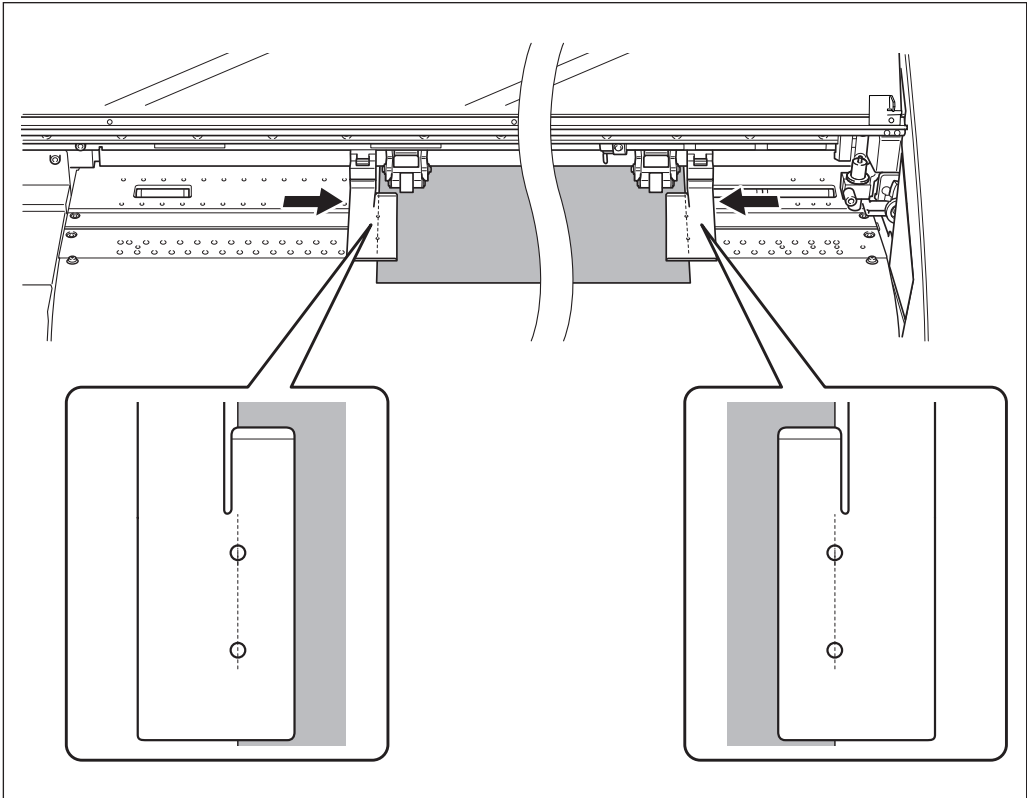
この時点でメディアの位置を直したい場合は、手順 1. - ❹ まで戻ってやり直してください。メディアだけを持って無理やり位置を直すと、出力時にメディアが斜行したりして出力品質に影響がでます。

❺ メディアがのっている残りすべてのグリットローラ上にミドルピンチローラを配置する。

グリットローラのある場所には、グリットマークがあります。余ったミドルピンチローラは必ず取り外してください。

ミドルピンチローラの取り付け／取り外し方法

⑥ メディアの中央を持ってまっすぐに引き出し、メディア全体がピンと張るようにする。

⑦ ローディングレバーを下ろしてメディアを固定する。

SETUP が点滅し、図の画面が表示されます。

3. メディアクランプでメディアの両端をおさえる。

❶ ①左右のメディアクランプをメディア両端上に移動する。
②メディアクランプの穴の中心をメディアの端に合わせる。

カッティングのみを行う場合は、メディアクランプは使用しないでください。

☞ P. 51「カッティングを行う場合のご注意」

❷ フロントカバーを閉じる。

フロントカバーを閉じると、プリントヘッドキャリッジが動いてメディアの幅を検出します。この動作を初期動作と呼びます。初期動作が完了すると SETUP が点灯し、表示画面に印刷可能な幅が表示されます。これでメディアの取り付けは完了です。

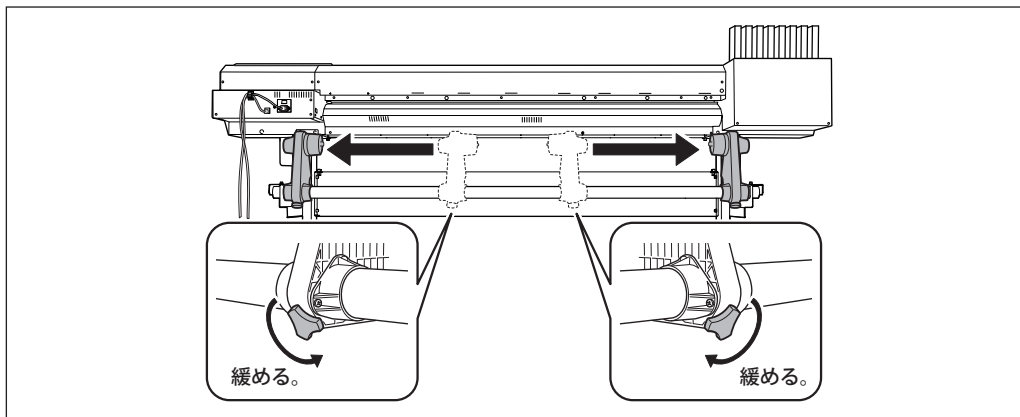
IMPORTANT! ロールメディアを使わないときには取り外す

ロールメディアは取り付けられた状態のまま長時間使われないと全体がたわんできます。印刷品質の悪化やモーターエラーの原因となりますので、使わないときは必ず取り外して保管してください。

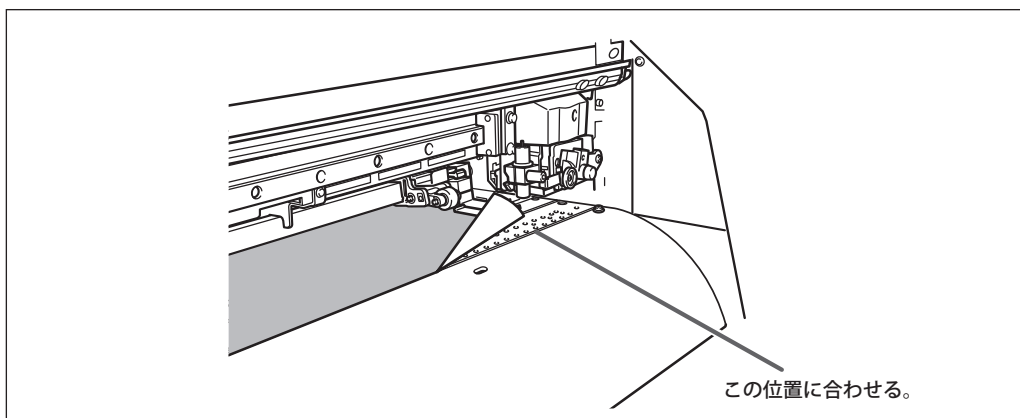
カットメディアの取り付け

手順

❶ メディアホルダーを左右に寄せる。

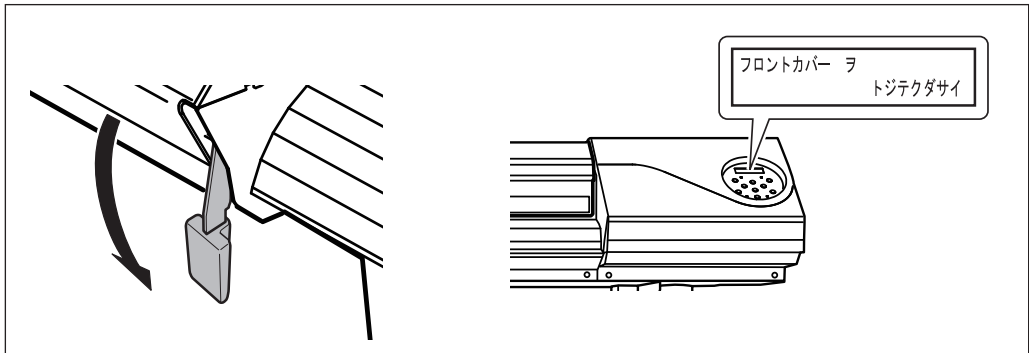
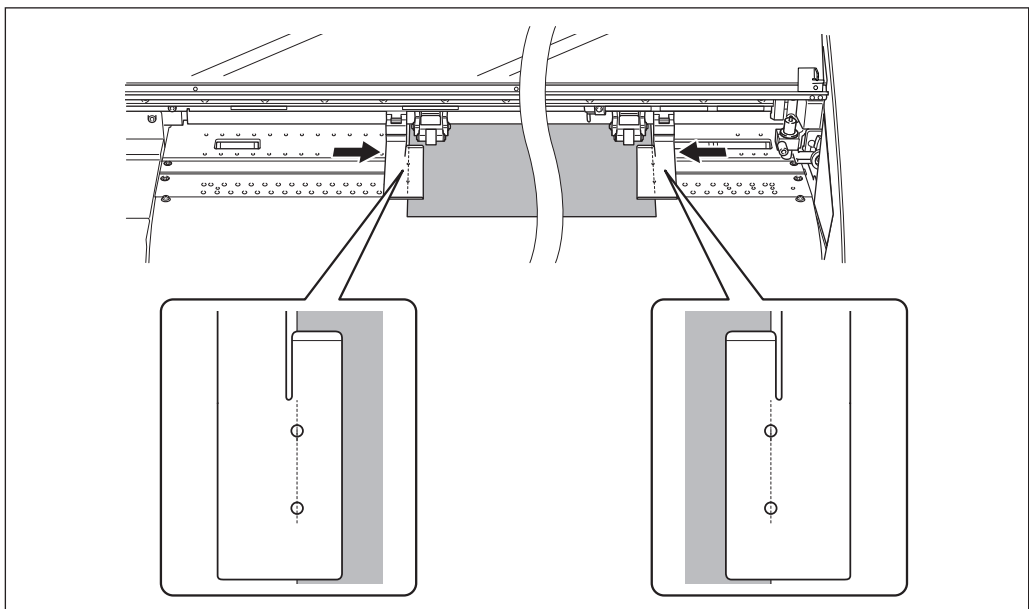
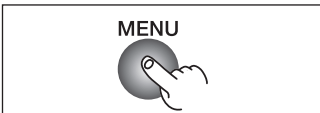
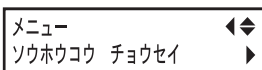
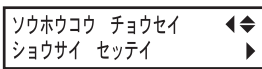
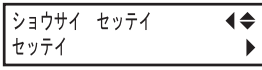
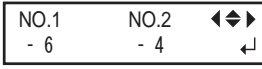
本機背面にメディアを垂らしたときに、邪魔にならない位置まで移動してください。邪魔になる場合は、シャフトごと取り外してください。取り外し方法については、セットアップガイドを参照してください。

❷ メディアをプリンタに通して固定する。

☞「ロールメディアの取り付け」の手順 2. ❶ ～ ❺

❸ 図の位置にメディアの手前を合わせる。

4 ローディングレバーを下ろしてメディアを固定する。

[SETUP] が点滅し、図の画面が表示されます。

カッティングのみを行う場合は、メディアクランプは使用しないでください。

☞ P. 51「カッティングを行う場合のご注意」

5 ①左右のメディアクランプをメディア両端上に移動する。
②メディアクランプの穴の中心をメディアの端に合わせる。

6 フロントカバーを閉じる。

フロントカバーを閉じると、プリントヘッドキャリッジが動いてメディアの幅を検出します。この動作を初期動作と呼びます。初期動作が完了すると [SETUP] が点灯し、表示画面に印刷可能な幅が表示されます。これでメディアの取り付けは完了です。

初期調整を行う（双方向印刷の詳細補正）

本機の初期調整を行います。次の場合は、必ずこの調整を行ってください。

○ 本機をはじめて使用する場合
○ 使用するメディアの種類を変更する場合
○ 双方向印刷の簡易補正（P. 95「 双方向印刷のずれを補正する 」）で印刷が改善されない場合

手順

❶

MENU を押す。

❷

メニュー
ソウホウコウ チョウセイ

▼ を何度か押して左図を表示する。
► ▲ の順に押す。

❸

ソウホウコウ チョウセイ
ショウサイ セッテイ

► を押す。

❹

ショウサイ セッテイ
テスト プリント

ENTER を押す。
テストパターンが出力されます。
印刷が完了したら ▼ を押す。

❺

ショウサイ セッテイ
セッテイ

► を押す。

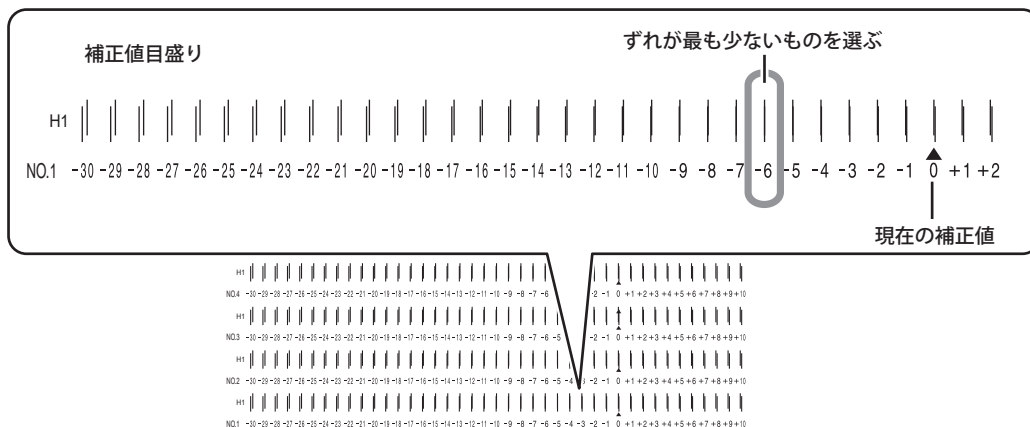
❻

NO.1 NO.2
- 6 - 4

▲ ▼ を押して NO.1 の補正値を選択する。
► を押す。
▲ ▼ を押して NO.2 の補正値を選択する。
► を押す。

補正値の決め方

2 本の線のずれが最も少ないものを選んでください。

❼

▲ ▼ を押して NO.3 の補正値を選択する。
► を押す。
続けて同様にして NO.4 ～ NO.10 の補正値を設定する。

❽

NO.9 NO.10
- 6 - 4

補正値の設定が完了したら、 ENTER を押す。

❾

W１２００mm

MENU を押してもとの画面に戻る。

メディアのセットアップ

「メディアセッティング」メニューについて

メディアのサイズや種類に合わせて最適な出力ができるように、本機には様々な設定項目があります。しかしながら、本書とにらめっこしながらこれらの設定をひとつひとつ行っていくのは大変な作業です。
そこで、本機では対話方式でこれらの設定を一通り行うことのできる「メディアセッティング」メニューを用意しました。このメニューを使えば、表示画面の表示にしたがって設定を行っていくだけで最低限必要な設定を一通り完了できます。
設定した内容をプリセットメニューとして保存することもできますので、同じ種類のメディアを使用する場合などに、設定の手間を省いて効率的に作業を進めることができます。基準となる設定をプリセットに保存して、必要に合わせて細かな調整を行うこともできます。
なお、「メディアセッティング」メニューで設定する項目はすべて個別設定も可能です。

メディアのセットアップ（「メディアセッティング」メニュー）

○ プリントのみ：手順 ***1.*** ～ ***6.***、および ***10.***、***11.*** を行ってください。
○ プリント＆カット：手順 ***1.*** ～ ***11.*** すべて行ってください。

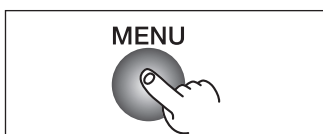
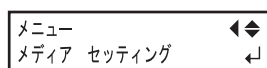
※ 各設定項目において、設定の必要が無い場合は、［ツギヘ］を選択すると次のメニューに進めます。

1. 「メディアセッティング」メニューを開始する。

❶ **メディアを取り付ける。**
メディアにたるみがないことを確認してください。たるみがあると、この後行う補正値の設定などが有効に機能しません。
☞ P. 27「メディアの取り付け」

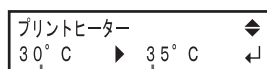
❷
MENU を押す。

❸

```
メニュー               ◀◆
メディア　セッティング   ↵
```

左図が表示されたら、ENTER を押す。

2. プリントヒーターとドライヤーの温度を設定する。

❶

```
プリントヒーター         ◆
30°C    ▶ 35°C        ↵
```

現在の設定温度　　設定する温度

▲ ▼ を押して温度を設定する。
推奨温度：35℃
ENTER を押して決定。

❷
を押して温度を設定する。
推奨温度：40℃
ENTER を押して決定。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 91「メディアヒーティングシステムの温度設定」

設定を中止するには

手順

❶ 設定の途中で MENU を押す。

❷ チュウシシマスカ？ [チュウシ] モドル

◀ を押して「チュウシ」を選択する。
ENTER を押す。

メニュー メディア セッティング

左図の画面に戻ります。
「モドル」を選択すると、MENU を押したときの画面に戻ります。

3. ヘッドの高さを調整する。

❶ ヘッド タカサ ヒクイ [ヘンコウ] ツギヘ

◀ を押して［ヘンコウ］を選択する。
ENTER を押して決定。

❷ ヘッド タカサ タカイ ▶ ヒクイ

左図が表示されたらフロントカバーを開ける。

❸ 高い 低い 高さ調整レバー 止まるところまでしっかり動かす。

高さ調整レバーでプリントヘッドの高さを調整する。
「高い」方向に動かすとブザーが 2 回、「低い」方向に動かすとブザーが 1 回鳴ります。

POINT!
通常は「低い」方にしてください。印刷時にしわになったりプラテンから浮き上がったりするメディアの場合は、「高い」方にしてください。

❹ フロントカバーを閉じる。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 98「メディアの厚みにヘッド高さを合わせる」

4. 送り方向の位置補正を行う（横すじの軽減）。

POINT!
送り方向とは、メディアの送り方向のことです。種類や厚みなどよってメディアの移動距離が微妙に変化して印刷の横すじがめだちやすくなることがあるため、メディアに合わせた補正をしておきます。

❶
キャリブレーション ◀▶
[ジッコウ]　　ツギヘ　↵

◀ を押して［ジッコウ］を選択する。
ENTER を押して決定。
送り補正のテストパターンが出力されます。

❷
チョウセイチ　ヲ
ニュウリョク　シテクダサイ　↵

左図が表示されたら、ENTER を押す。

❸
▲ ▼ を押して補正値を設定する。
ENTER を押して決定。

補正値の決め方
上下の四角形のすき間や重なりが最も小さいものを選んでください。

❹
サイチョウセイ　シマスカ？ ◀▶
ジッコウ　　　[カンリョウ]　↵

【もう一度確認したい／再調整したい場合】
◀ で［ジッコウ］を選択する。
ENTER を押して決定。
もう一度送り補正のテストパターンが出力されます。手順 ❸ に戻り再設定してください。

【調整完了し次に進む場合】
▶ を押して［カンリョウ］を選択する。
ENTER を押して決定。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 96「横すじを軽減する（送り補正機能）」

5. 双方向印刷時の調整を行う。

POINT!
本機では、ヘッドが往復する両方の動きで印刷します。この印刷方法を「双方向印刷」といいます。これは、出力時間を短縮できるというメリットがありますが、往復時に微妙なずれを生じます。これを補正してずれをなくすのが「双方向補正」です。

1

ソウホウコウ　チョウセイ ◀▶
[ジッコウ]　　ツギヘ ↵

◀ を押して［ジッコウ］を選択する。
ENTER を押して決定。
双方向調整のテストパターンが出力されます。

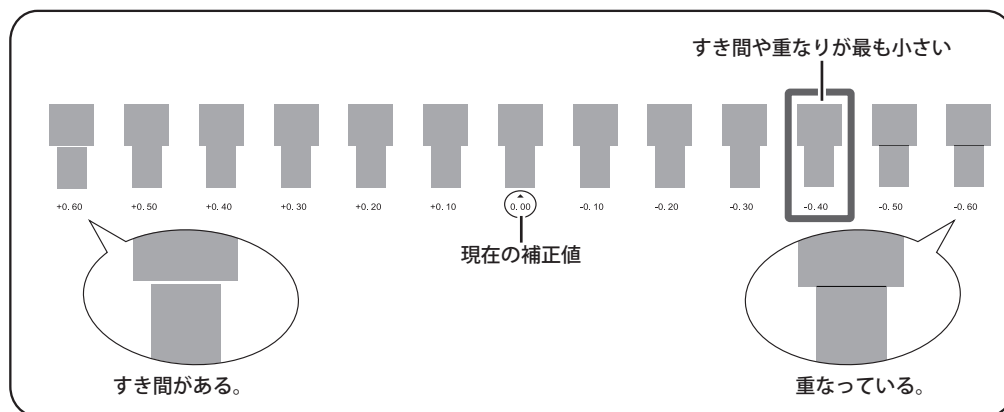
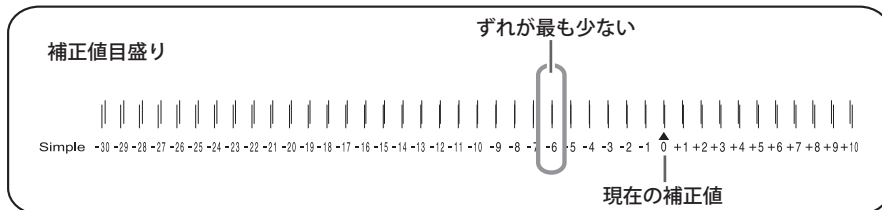
2

チョウセイチ　ヲ
ニュウリョク　シテクダサイ ↵

左図が表示されたら、ENTER を押す。

3

▲ ▼ を押して補正値を設定する。
ENTER を押して決定。

補正値の決め方
2 本の線のずれが最も少ないものを選んでください。

4

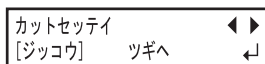
サイチョウセイ　シマスカ？ ◀▶
ジッコウ　　[カンリョウ] ↵

【もう一度確認したい／再調整したい場合】
◀ を押して［ジッコウ］を選択する。
ENTER を押して決定。
もう一度送り双方向調整のテストパターンが出力されます。手順 **3** に戻り再設定してください。

【調整完了し次に進む場合】
▶ を押して［カンリョウ］を選択する。
ENTER を押して決定。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 95「双方向印刷のずれを補正する」

6. カッティングのための設定を行うか決める。

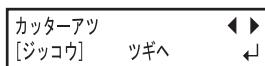
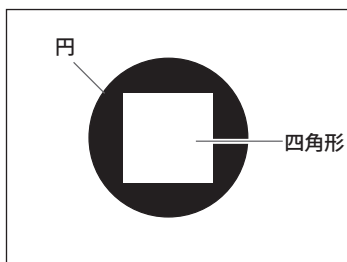
```
カットセッテイ          ◀ ▶
[ジッコウ]    ツギヘ      ↵
```

【プリントのみ】
(►)を押して［ツギヘ］を選択する。
(ENTER)を押して決定。
手順 10. に進んでください。

【プリント＆カット】
(◄)を押して［ジッコウ］を選択する。
(ENTER)を押して決定。
手順 7. に進んでください。

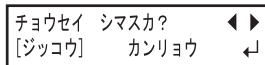
7. カッター圧を設定する。

> **POINT!**
> 高品質なカッティングをするために、カッティングテストを行ってメディアの切れ具合を確認し、カッター圧を調整します。

❶

```
カッターアツ            ◀ ▶
[ジッコウ]    ツギヘ      ↵
```

(◄)を押して［ジッコウ］を選択する。
(ENTER)を押して決定。

テストパターンがカットされます。円と四角形がカットされます。２つの図形をはがしてみてください。

❷

```
チョウセイ　シマスカ？    ◀ ▶
[ジッコウ]    カンリョウ    ↵
```

【2 つの図形が別々にはがれた場合】
(►)を押して「カンリョウ」を選択する。
(ENTER)を押して決定。
手順 8. に進んでください。

【2 つの図形が一緒にはがれた／台紙まで切れた場合】
(◄)を押して「ジッコウ」を選択する。
(ENTER)を押して決定。
手順 ❸ に進んでください。

❸

[▲] [▼] でカッター圧を調整する。

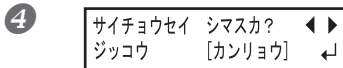
2 つの図形が一緒にはがれた ⇨ カッター圧を強めにしてください。

台紙まで切れてしまった ⇨ カッター圧を弱めにしてください。

[ENTER] を押して決定。

もう一度テストパターンがカットされます。結果を確認してください。

❹

サイチョウセイ　シマスカ？
ジッコウ　　　［カンリョウ］

【2 つの図形が別々にはがれた場合】

[►] を押して「カンリョウ」を選択する。

[ENTER] を押して決定。

手順 ***8.*** に進んでください。

【2 つの図形が一緒にはがれた場合】

[◄] を押して「ジッコウ」を選択する。

[ENTER] を押して決定。

もう一度テストパターンがカットされます。手順 ❸ に戻り再設定してください。

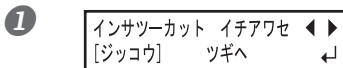
この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 106「カッティング条件を細かく設定する」

8. 印刷位置とカット位置のずれを補正する。

POINT!

メディアの厚みやヘッド高さによって印刷とカッティングの位置が微妙にずれることがあります。
お使いのメディアに合わせた補正をおすすめします。

❶

インサツーカット　イチアワセ
［ジッコウ］　　ツギヘ

[◄] を押して［ジッコウ］を選択する。

[ENTER] を押して決定。

テストパターン（P&C1）がプリント＆カットされます。テストパターンはメディア上の両端と中央の 3 箇所に出力されます。

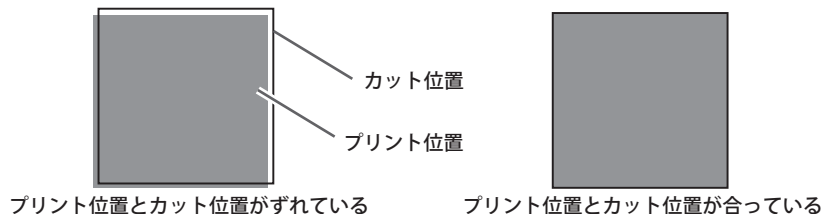
❷ テストパターンの状態を確認する。

テストパターン（P&C1）の確認方法

プリント位置とカット位置がずれていないか確認してください。

2 基本操作

3

```
チョウセイ シマスカ?      ◀ ▶
[ジッコウ]    カンリョウ    ↵
```

【プリント位置とカット位置が合っている場合】

(►)［カンリョウ］を選択する。

(ENTER) を押して決定。

手順 *9.* に進んでください。

【プリント位置とカット位置がずれている場合】

(◄) を押して［ジッコウ］を選択する。

(ENTER) を押して決定。

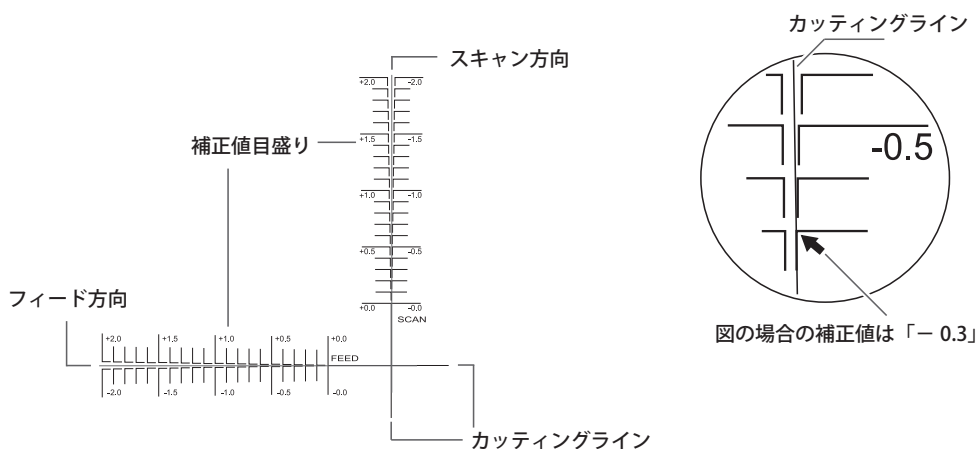
補正値を決めるためのテストパターン（P&C2）がプリント＆カットされます。手順 *4* に進んでください。

4

```
チョウセイチ ヲ
ニュウリョク シテクダサイ    ↵
```

左図が表示されたら、(ENTER) を押す。

5 テストパターンの状態から補正値を確認する。

テストパターン（P&C2）の確認方法

カッティングラインと補正値目盛りの交点が補正値です。スキャン方向、フィード方向それぞれを確認してください。

6

(▲)(▼) でフィード方向（F）の補正値を設定する。

(◄)(►) でスキャン方向（S）の補正値を設定する。

(ENTER) を押して決定。

もう一度テストパターン（P&C1）がプリント＆カットされます。テストパターンの状態を確認して、プリント位置とカット位置が合っているかどうかを確認してください。

❼

```
サイチョウセイ シマスカ？ ◀▶
ジッコウ    [カンリョウ] ↵
```

【プリント位置とカット位置が合っている場合】
(►)を押して［カンリョウ］を選択する。
(ENTER)を押して決定。
手順 *9.* に進んでください。

【プリント位置とカット位置がずれている場合】
(◄)を押して［ジッコウ］を選択する。
(ENTER)を押して決定。
手順 ❻ に戻り微調整し、最適な状態になるまで手順 ❻ ❼ を繰り返してください。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 110「印刷位置とカット位置のずれを補正する」

9. クロップマーク使用時の印刷位置とカット位置のずれを補正する。

POINT!
印刷したメディアを一度取り外し、再セットしてカットする場合にはクロップマークを利用します。この場合に、メディアの材質によっては、クロップマークを使っても印刷とカットの位置がずれることがあり、補正が必要になります。

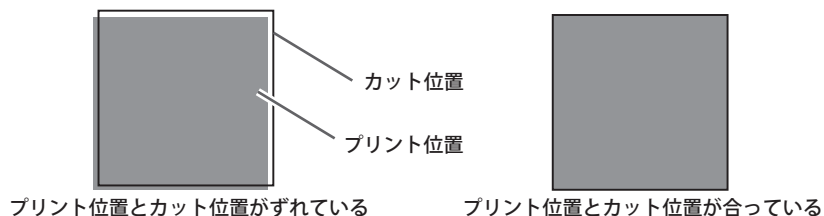
❶

```
クロップ カット イチアワセ ◀▶
[ジッコウ]   ツギヘ   ↵
```

【プリントとカットを連続して行う場合】
(►)を押して［ツギヘ］を選択する。
手順 *10.* に進んでください。

【プリントとカットを別々に行う場合】
(◄)を押して［ジッコウ］を選択する。
(ENTER)を押して決定。
テストパターン（C&C1）がプリント＆カットされます。手順 ❷ に進んでください。

❷ テストパターンの状態を確認する。

テストパターン（C&C1）の確認方法
プリント位置とカット位置がずれていないか確認してください。

3

```
チョウセイ シマスカ?      ◀ ▶
[ジッコウ]     カンリョウ    ↵
```

【プリント位置とカット位置が合っている場合】
▶ を押して［カンリョウ］を選択する。
ENTER を押して決定。
手順 *10.* に進んでください。

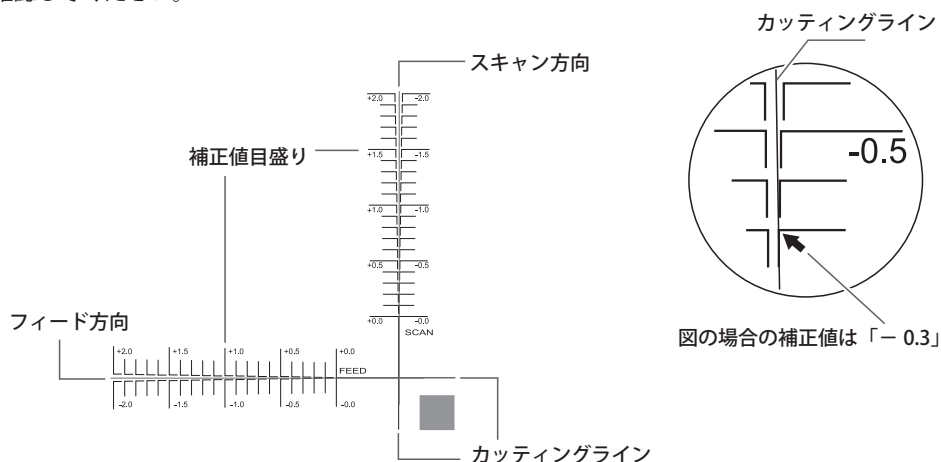
【プリント位置とカット位置がずれている場合】
◀ を押して［ジッコウ］を選択する。
ENTER を押して決定。
補正値を決めるためのテストパターン（C&C2）がプリント＆カットされます。

4

```
チョウセイチ ヲ
ニュウリョク シテクダサイ    ↵
```

左図が表示されたら、ENTER を押す。

5 テストパターンの状態から補正値を確認する。

テストパターン（C&C2）の確認方法
カッティングラインと補正値目盛りの交点が補正値です。スキャン方向、フィード方向それぞれを確認してください。

6

▲ ▼ でフィード方向（F）の補正値を設定する。
◀ ▶ でスキャン方向（S）の補正値を設定する。
ENTER を押して決定。
もう一度テストパターン（C&C1）がプリント＆カットされます。
テストパターンの状態を確認して、プリント位置とカット位置が合っているかどうかを確認してください。

❼

サイチョウセイ シマスカ？ ◀▶
ジッコウ [カンリョウ] ↵

【プリント位置とカット位置が合っている場合】

▶を押して［カンリョウ］を選択する。

ENTERを押して決定。

手順 ***10.*** に進んでください。

【プリント位置とカット位置がずれている場合】

◀を押して［ジッコウ］を選択する。

ENTERを押して決定。

手順 ❻ に戻り補正値を微調整し、最適な状態になるまで手順 ❻❼ を繰り返してください。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 119「クロップマーク使用時の印刷位置とカット位置のずれを補正する」

10. 印刷後の乾燥方法と時間を設定する。

❶

▲▼を押して項目を選択する。

ENTERを押して決定。

> **POINT!** **印刷後の乾燥方法**
>
> 1 ページの印刷終了後に、印刷の後端をドライヤーにのるまでメディアを送り出すかどうかを設定します。印刷領域全体を確実に乾燥させたい場合は「ユウコウ」を選択してください。「ムコウ」にすると、続けて次の印刷をしないかぎり印刷の後端はドライヤーまで送られません。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 93「印刷領域の後端をドライヤー上で乾燥させる」

2 基本操作

❷

カンソウジカン
10フン ▶ 10フン ↵
現在の設定　設定後

▲ ▼ を押して乾燥時間を設定する。

設定時間の例（目安）
※ 設定時間は、メディアの種類や出力品質の設定などによって異なります。
条件：引戻しを伴う出力、ミドルピンチローラ使用、ノンコートの塩ビメディア
設定時間：3 分程度

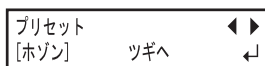
ENTER を押して決定。

POINT! 印刷後の乾燥時間
1 ページの印刷終了後の乾燥時間を設定します。設定した時間が経過するまで次の動作を開始しません。

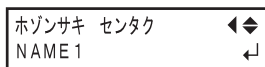
この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 94「印刷後の乾燥時間を設定する」

11. 設定をプリセットとして保存する。

❶

プリセット ◀▶
[ホゾン] ツギヘ ↵

◀ で［ホゾン］を選択する。
ENTER を押して決定。
［ツギヘ］を選択しても、これまで行った設定は残ります。ただし、再度「メディアセッティング」メニューを操作するか、本機の電源をオフにすると、設定は上書きされるか削除されます。

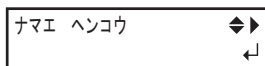
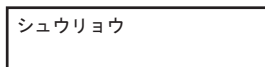
❷

ホゾンサキ センタク ◀◆
NAME1 ↵

▲ ▼ で保存先を選択する。
NAME1 ～ 8 まで選べます。
ENTER を押して決定。

❸

ナマエ ヘンコウ ◆▶
↵

↓

シュウリョウ

▲ ▼ で文字を選択する。
► で次の文字に移る。
以降同様にして文字を選択する。
15 文字まで入力できます。
ENTER を押して決定。

この設定項目の個別設定方法と解説はこちら ☞ P. 88「プリセット機能を使いこなす」

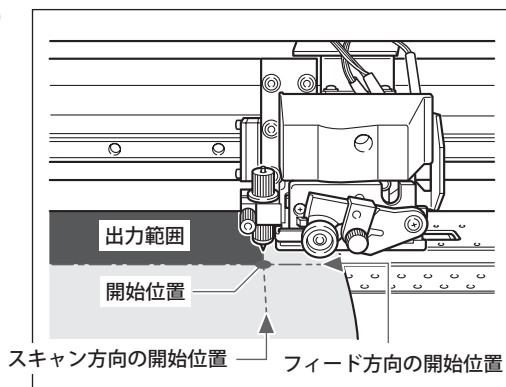
これで「メディアセッティング」メニューは完了です。

出力する

出力開始位置を設定する

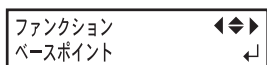
出力開始位置は、任意の位置に設定できます（設定しなくても出力はできます）。ただし、出力後は初期状態に戻りますので１ページごとに設定する必要があります。

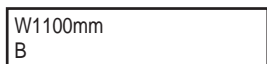
手順

❶ フロントカバーを開ける。

❷
▲ ▼ ◄ ► でカッターの中心を出力開始位置に移動する。

カッティングキャリッジだけが動きます。

❸ 位置が決まったら、FUNCTION を押す。

❹
```
ファンクション     ◄◆►
ベースポイント       ↵
```

左図が表示されたら、ENTER を押して決定。

```
W1100mm
B
```

BASE が点灯し、左図のようにその位置での出力可能幅と［B］という文字が表示されたら設定は完了です。

POINT!

テストパターンの場合、左右の位置は初期状態に戻りません。
なお、別売のメディア巻取装置を使用する場合は、▲ を押して調整しないでください。無理にメディアを引っぱり、エラーや故障の原因になります。

2 基本操作

テストプリントとノーマルクリーニング

印刷の前にテストプリントをして、ドット抜けがないかを確認します。ドット抜けがあった場合は、プリントヘッドのクリーニング（ノーマルクリーニング）を行います。

テストプリントの方法

手順

1 出力開始位置を決める。

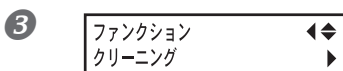
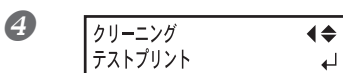
☞ P. 49「出力開始位置を設定する」

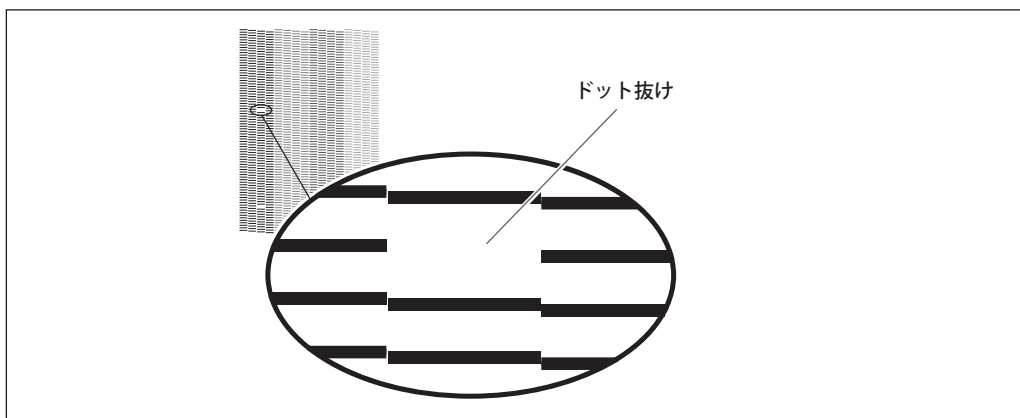
2 FUNCTION を押す。

3

ファンクション
クリーニング

▼ を押して左図を表示する。
► を押す。

4

クリーニング
テストプリント

ENTER を押す。
テストパターンが印刷されます。

ノーマルクリーニングの方法

手順

1. FUNCTION を押す。

2.
```
ファンクション    ◀▲▼
クリーニング       ▶
```
▼ を押して左図を表示する。
► ▼ の順に押す。

3.
```
クリーニング      ◀▲▼
ノーマル          ↵
```
ENTER を押す。
ノーマルクリーニングが開始されます。

```
クリーニング シテイマス. . .
>>
```
⬇
```
クリーニング      ◀▲▼
ノーマル          ↵
```
終了すると図の画面に戻ります。

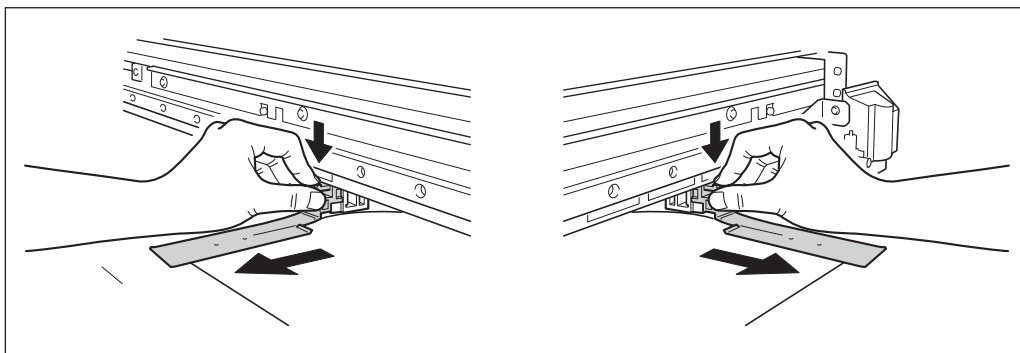
4.

FUNCTION を押してもとの画面に戻る。

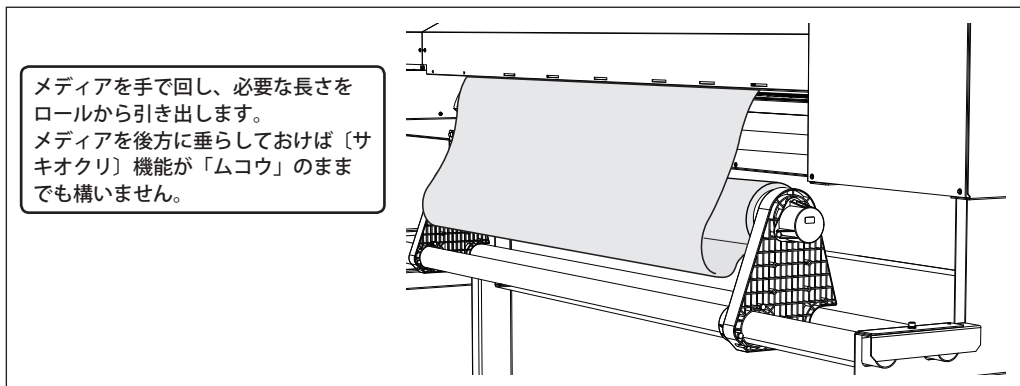
5. **テストプリントをして、ドット抜けがなくなったか確認する。**
なくならなかった場合はもう一度クリーニングします。長く使っていると 2 ～ 3 回クリーニングしても直らないことがあります。その場合は、別の方法でクリーニングします。
☞ P. 66「ノーマルクリーニングが効かないときに」

カッティングを行う場合のご注意

カッティングのみを行う場合、メディアクランプは使用しないでください。

カッティングのみを行う場合、メディアクランプは取り外すか、メディアを押さえない位置に移動させてください。

ロールメディアを使ってカッティングのみを行う場合は、メディアを後方に垂らしてください。（または〔サキオクリ〕メニューを「ユウコウ」にしてください。）

メディアが無理に引っぱられてモーターエラーが起こったり、メディアが落下したりすることをふせぎます。

〔サキオクリ〕メニューについてはこちら ☞ P. 105「カッティングのみを行うときにメディアが無理に引っぱられないようにする」

印刷後続けてカットするとき（プリント＆カット）、カットを始める前にインクを十分に乾燥させてください。

お使いのソフトウェア RIP で乾燥時間を設定します。設定方法はお使いのソフトウェア RIP の取扱説明書を参照してください。乾燥させる時間はメディアによって異なります。

カッティングテストとカッター圧の設定

高品質なカッティングをするために、カッティングの前にはカッティングテストを行ってメディアの切れ具合を確認することをおすすめします。切れ具合の状態によっては、カッター圧を調整してください。

1. カッティングテストを行う。

❶ [◄] [►] [▲] [▼] を押して、カッティングテストをしたい位置までカッティングキャリッジを移動させる。
カッティングテストをする位置は自由に設定できます。

❷ フロントカバーを閉じる。
[FUNCTION] を押す。

❸
```
ファンクション ◄▲▼
カット セッテイ ►
```
[▼] を何度か押して左図を表示する。
[►] を押す。

❹

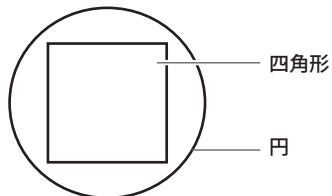
```
カット セッテイ      ◀⬍
テスト カット        ↵
```

(ENTER) を押す。

テストパターンがカットされます。

❺

四角形

円

カットされた図形をはがして切れ具合を確認する。

【2 つの図形が別々にはがれた場合】

カッター圧は問題ないので設定の必要はありません。

【2 つの図形が一緒にはがれた／台紙まで切れた場合】

次の手順に進んでカッター圧を設定します。

2. カッター圧を設定する。

❶

```
ファンクション      ◀⬍
カット セッテイ      ▶
```

(▼) を押す。

❷

```
カット セッテイ      ◀⬍
カッターアツ        ▶
```

(►) を押す。

❸

```
カッターアツ        ◀⬍
50 gf ▶ 60 gf     ↵
```

(▼)(▲) を押して値を選択する。

【2 つの図形が一緒にはがれた場合】

カッター圧を強めにしてください。

【台紙まで切れた場合】

カッター圧を弱めにしてください。

(ENTER) を押して決定。

❹

```
W1200mm
  シート ノ トリツケ
```

(FUNCTION) を押してもとの画面に戻る。

〔カットセッテイ〕メニューでは、カッター圧以外のカッティング条件も設定できます。以下のページをご覧ください。

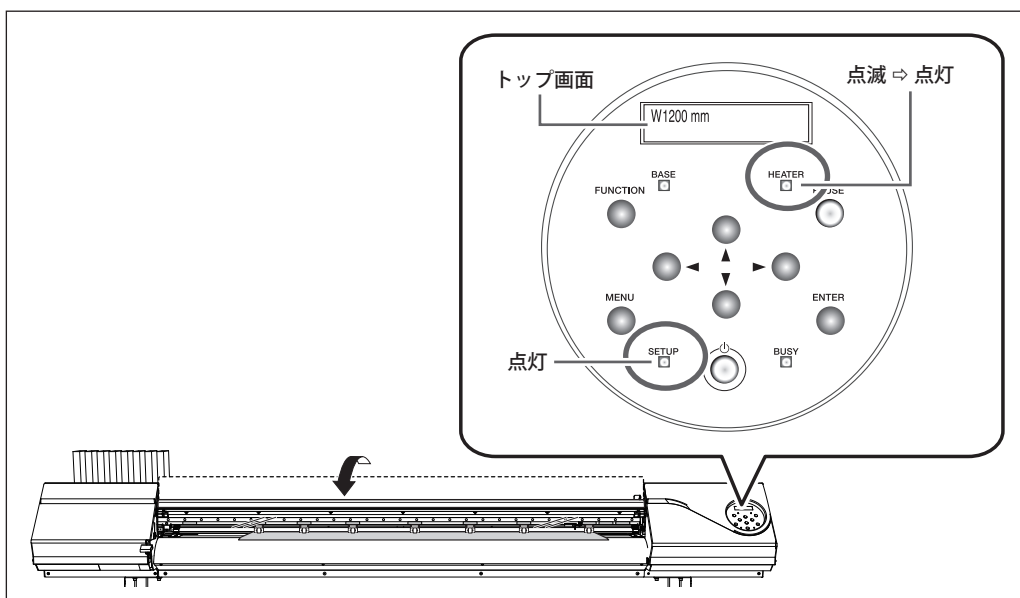
☞ P. 106「カッティング条件を細かく設定する」

コンピュータからデータを受けられるようにする

P. 26「メディアの取り付け」、P. 38「メディアのセットアップ」が完了したら、プリンタがコンピュータからのデータを受けられる状態にします。

⚠注意 **出力中はプリントヘッドにさわらない。**
プリントヘッドは高速で動きます。ぶつかってけがをすることがあります。

手順

1. フロントカバーを閉じる。
2. SETUP が点灯していることを確認する。
点灯していないときは、ローディングレバーを下ろす。
3. HEATER が点滅から点灯に変わるのを待つ。
4. トップ画面が表示されていることを確認する。
トップ画面が表示されていないときは、MENU を押し、◄ を押す。

POINT!

こんなときは出力されません。

○ フロントカバーが開いていると動きません。
○ 出力中にフロントカバーを開けないでください。出力が中断します。
○ SETUP が消えているときは、コンピュータからデータを受け付けません。
○ HEATER が点灯に変わるまで、印刷は始まりません。
○ トップ画面でないときは、コンピュータからデータを受け付けません。

出力を開始する

P. 54「コンピュータからデータを受けられるようにする」の操作が完了したら、出力を開始できます。出力するには、コンピュータ側で次の作業が必要です。

①出力用データの作成

Adobe Illustrator などのアプリケーションソフトウェアを使用して、出力用データを作成してください。作成方法については、お使いのアプリケーションソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

②ソフトウェア RIP を使って本機に出力用データを送信する。

本機に付属のソフトウェアRIP「Roland VersaWorks」を使用してください。Roland VersaWorksのインストール方法や使用方法は、「Roland VersaWorks クイックスタートガイド」および Roland VersaWorks の HELP を参照してください。
また、ホワイトインクやメタリックシルバーインクを使用する場合は、「特色インクガイド」を参照してください。

IMPORTANT! 出力時に守っていただきたいこと

○ 印刷するときは、メディアクランプを必ず取り付けてください。メディアの両端が反り、プリントヘッドに引っかかる原因になります。
○ 出力中はメディアにさわらないでください。メディア送りが妨げられたり、メディアがヘッドを擦ったりして紙詰りやヘッド破損の原因となります。
○ 使わないときはローディングレバーを上げておいてください。

POINT!

インクがなくなったときは

インクがなくなると「ピピッ」と音がして表示画面にインクが無くなったスロットの番号が表示されます。インクカートリッジを交換してください。

☞ P. 61「インクカートリッジの交換方法」

長尺印刷を行うときは、インク残量を確認してください。

長尺印刷時には、印刷を開始する前にインクカートリッジの残量を確認してください。インクが無くなって一時停止してしまうと、再開したときのつなぎ目で色味が変わってしまうことがあります。

☞ P. 60「インク残量の確認」

出力の一時停止とキャンセル

出力の途中で一時停止やキャンセルすることができます。ただし、印刷の場合は止めた場所で横すじが出る場合がありますので、印刷の再開はおすすめできません。

手順

1 出力中に PAUSE を押す。
出力が一時停止します。
印刷を再開したい場合は、もう一度 PAUSE を押す。
出力をキャンセルする場合は、PAUSE は押さずに次の手順に進んでください。

2

```
PAUSEキー オシツヅケルト
 データ ヲ キャンセルシマス
```

図の画面が表示されたら、PAUSE を1秒以上押し続ける。
出力がキャンセルされます。

3 コンピュータ側でデータの送信をストップする。

メディアを切り離す

手順

1 フロントカバーを閉じる。

2 SETUP が点灯していることを確認する。

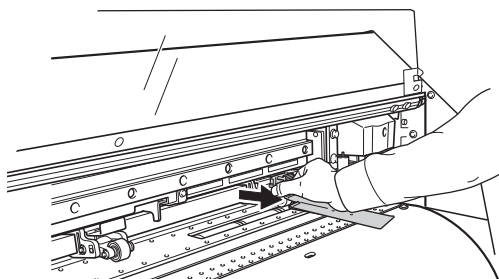
3 FUNCTION を押す。

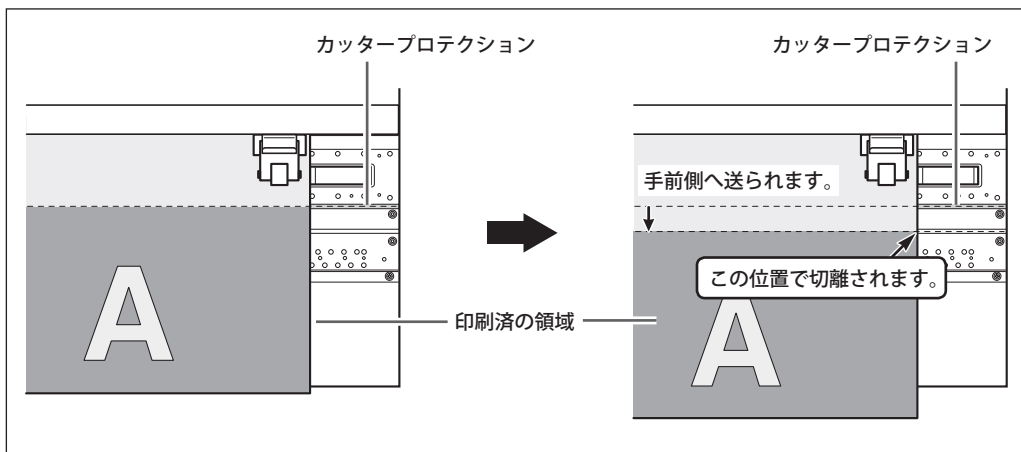
4

```
ファンクション
シートカット
```

▼ を何度か押して左図を表示する。
ENTER を押す。

```
メディアクランプ ヲ
    ハズシテ クダサイ
```

メディアクランプが付いていると、図の画面が表示されます。フロントカバーを開き、左右のメディアクランプを取り外してください。

5 ENTER **を押す。**

メディアが切り離されます。

印刷終了後に自動でメディアが切り離されるようにソフトウェア RIP で設定できます。設定の仕方はお使いのソフトウェア RIP の取扱説明書を参照してください。

IMPORTANT! 切り離し操作について

- ○ メディアクランプは必ず取り外してください。メディアクランプが付いたまま切り離し操作を行うと、メディアクランプを検出して動作を中断します。
- ○ ソフトウェア RIP でメディアの自動切り離しを行うように設定しても、メディアクランプが付いている場合はメディアクランプを検出して動作を中断します。
- ○ 切り離すときに ▲ でメディアを引き戻さないでください。メディア先端がプラテンより手前に引き出されていないと、うまく切り離せないことがあります。

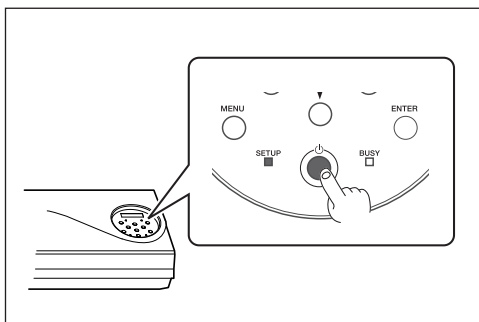
IMPORTANT! メディアの材質にご注意ください。

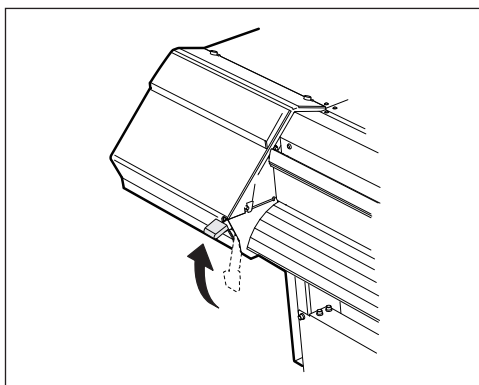
- ○ 切り離しができないものがあります。
- ○ 切り離し後にメディアがプラテン上に残ってしまうものがあります。メディアがプラテン上に残っているときは、手で取り外してください。

スイッチオフ

スイッチオフ

⚠**警告**　**出力していないときは、メディアを外すか、サブ電源をオフにする。**
同じ場所を熱し続けると、メディアから有害ガスが出たり、発火する恐れがあります。

手順

出力が終了したら、サブ電源をオフにする。
サブ電源ボタンを 1 秒以上長押ししてください。

❷

ローディングレバーを上げる。
電源をオフにする時ではなくても、本機を使用しないときはローディングレバーを上げておいてください。

IMPORTANT!

メイン電源は常時オンにしておいてください。
メイン電源はオフにしないでください。オンにしておくことで自動メンテナンス機能が定期的に行われます。自動メンテナンスを行わないとプリントヘッドが壊れるなど、本機の故障の原因となります。

動作中にいきなりメイン電源をオフにしたり、コンセントを抜いたりしないでください。
動作中にいきなりメイン電源をオフにしたり、コンセントを抜いたりすると、プリントヘッドが壊れることがあります。必ず先にサブ電源をオフにしてください。誤ってオフにしてしまったときは、すぐにメイン電源とサブ電源をオンにし直してください。

第３章
メンテナンス編：

いつも最良の状態で使っていただくために

インク残量の確認とカートリッジの交換

インク残量の確認

手順

❶ MENU を押す。

❷

メニュー ◀◆
インク　ザンリョウ ▶

▲ を何度か押して、左図を表示する。
► を押す。

1■■	2■■	3■■	4■■
5■■	6■■	7■■	8■■

■ は、インク残量を示しています。■ が多いほどインクが多く残っています。

※ 表示はインク残量の目安です。実際の残量とは多少異なります。

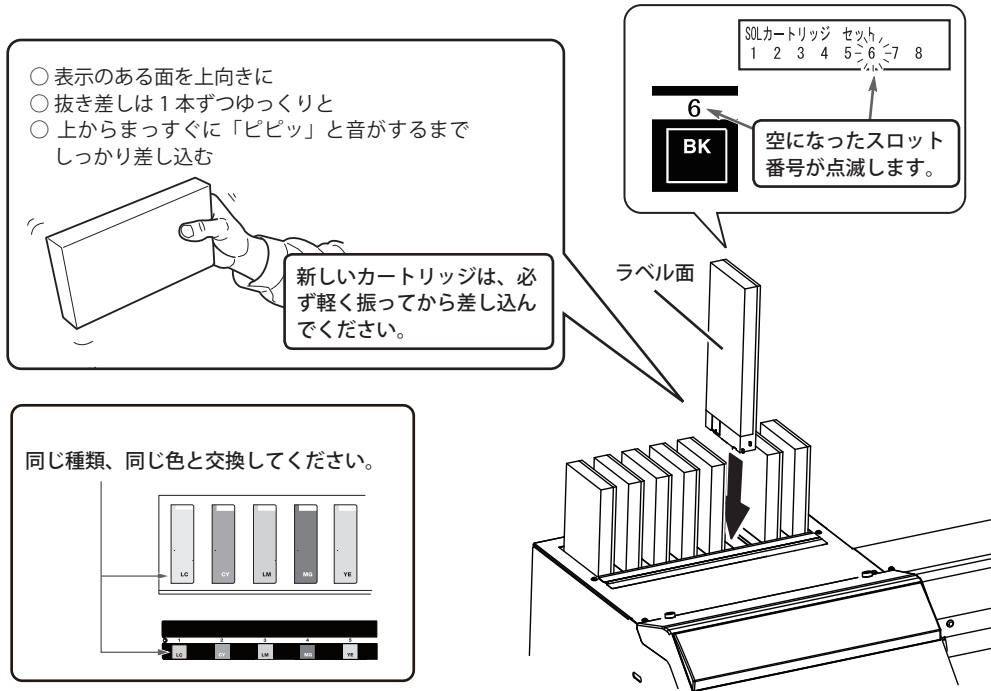
❸

W1200mm

シート　ノ　トリツケ

MENU を押して、もとの画面に戻る。

インクカートリッジの交換方法

インクがなくなると「ピピッ」というブザー音が鳴って、印刷が一時停止します（出荷時設定の場合）。
空のカートリッジを引き抜き、新しいものを差し込んでください。印刷が再開します。

IMPORTANT! **カートリッジ交換時のご注意**

○ 抜き差しは１本ずつゆっくりと
○ 無理にななめに差し込まず、まっすぐに差し込んでください。ななめに差し込むとインク漏れの原因になります。
○ 必ず同じ種類のものと交換してください。
○ 同じ種類のものでも他の機体で使用したものは使わないでください。
○ 他の種類を決して混ぜないでください。
○ インクカートリッジを抜いたまま放置しないでください。プリントヘッドが目づまりすることがあります。
○ 使いかけのインクカートリッジをむやみに抜き差ししないでください。
○ プリンタが動いているときに、いきなりインクカートリッジを抜かないでください。

⚠警告 **インク、洗浄液、廃液は次の場所に保管しない。**
○ 火気のある場所
○ 高温になる場所
○ 漂白剤などの酸化剤、爆発物のそば
○ 子供の手の届く場所
火災の恐れがあります。子供が誤って飲むと、健康障害の恐れがあります。

日常的に行っていただきたいメンテナンス

インクカートリッジのメンテナンス

```
カートリッジ　フッテクダサイ
  1 2 3 4 5 6 7 8      ↵
```

図のメッセージが表示されたら、点滅しているスロット番号のインクカートリッジを抜き取り、軽く振ってください。安定した印刷品質を得ることができるように、定期的にインクカートリッジを振ってインクの状態を良好に保ちます。インクカートリッジを元のスロットに戻す、または ENTER を押すと、メッセージは消えます。

3 メンテナンス

廃液の処理

```
ハイエキボトル　ヲ
        カクニンシテクダサイ
```

廃液ボトルには廃液がたまっていきます。いっぱいになる前に処理してください。廃液がある程度ボトルにたまると、図のメッセージが表示されます。次の手順で廃液を処理してください。

手順

❶
```
ハイエキボトル　ヲ
        カクニンシテクダサイ
```
図のメッセージが表示されたら、 ENTER を押す。

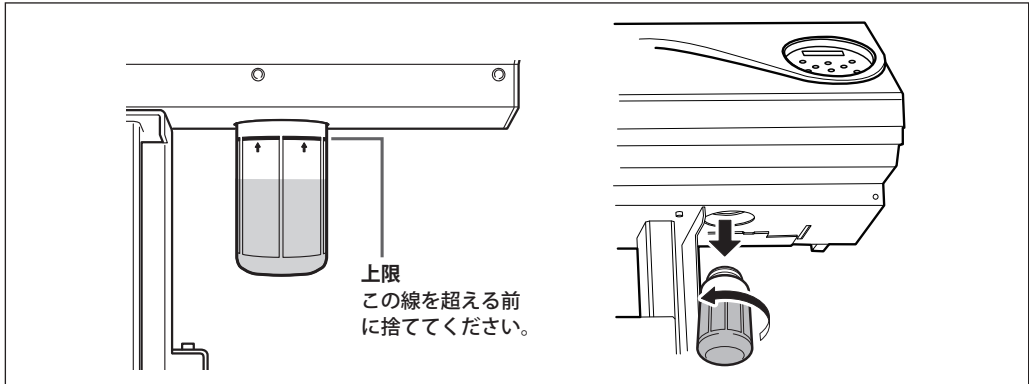
❷ MENU を押す。

❸
```
メニュー         ◀⬍
サブメニュー        ▶
```
▼ を何度か押して、左図を表示する。
► ▲ の順に押す。

❹
```
サブメニュー       ◀⬍
メンテナンス        ▶
```
► ▲ の順に押す。

❺
```
メンテナンス       ◀⬍
ハイエキ　ボトル      ↵
```
ENTER を押す。

❻ ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ

左図が表示されたら、ボトルを取り外して廃液を捨てて空にする。

⚠**注意**　**画面に［ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ］と表示されてから、廃液ボトルを外すこと。**
手順を守らないと、本体から廃液が出てきて廃液が手についたり、こぼれて床を汚したりすることがあります。

❼ ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ

空にした廃液ボトルをふたたび本体に取り付ける。
ENTER を押す。

❽ ハイエキ　ノ　カウント　ヲ　リセットシマス

ENTER を押す。

❾ メンテナンス　ハイエキ　ボトル

MENU を押してもとの画面に戻る。

⚠**警告**　**廃液やインクを火気の近くに置かない。**
火災の原因になります。

⚠**注意**　**廃液を一時的に保管するには、付属の廃液ボトル、金属缶やポリタンクなどの丈夫な密閉容器に入れ、フタをきちんと閉じること。**
こぼれたり蒸気がもれたりすると、火災につながったり臭いで気分が悪くなったりすることがあります。

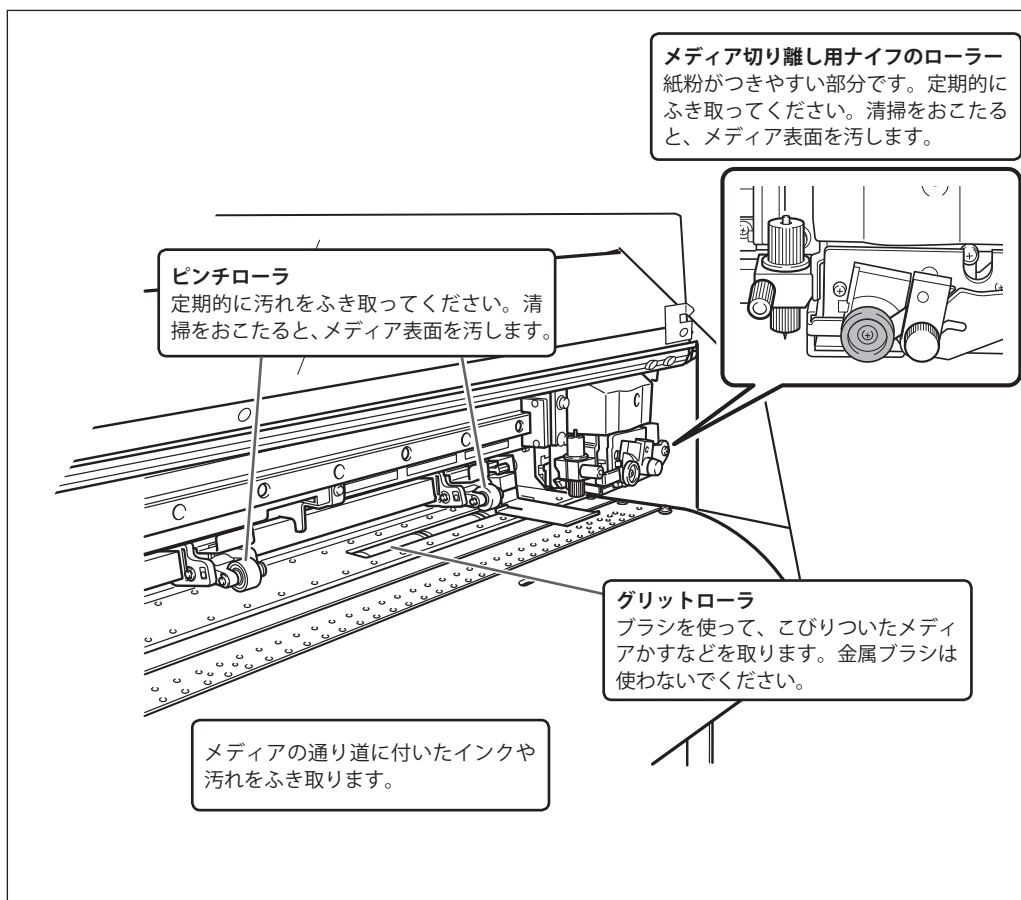
廃液は、地域の条例に従い、適切な方法で処理してください。
廃液には引火性があり、有害な成分も含まれています。廃液を焼却したり、一般のゴミと一緒に廃棄しないでください。また、下水や河川に流さないでください。環境に影響を及ぼす恐れがあります。

清掃

⚠警告　ガソリン、アルコール、シンナーなどの燃えやすいものは使わない。
火災の原因になります。

⚠注意　清掃は、サブ電源をオフにし、ヒーターやドライヤーが冷めてから（約 30 分待つ）行うこと。
機械が突然動いてけがをしたり、やけどしたりすることがあります。

日常的な清掃として、メディアの通り道を中心にインクや汚れをふき取ってください。とくにピンチローラやグリットローラ、またはプラテンなどに汚れがつきます。水で薄めた中性洗剤を含ませてかたくしぼった布でふいてください。

POINT!
○ 本機は精密機器ですので、ほこりや塵を嫌います。日常的な清掃を心がけてください。
○ 注油は一切しないでください。

プリントヘッドのお手入れについて

いつでも最適な印刷ができるようにするためには、プリントヘッドのお手入れが必要です。日々行っていただきたいお手入れと、定期的におこなっていただきたいお手入れがあります。

日々のお手入れ

○ **ノーマルクリーニング**

日々の作業前に行うことをおすすめします。

☞ P. 50「テストプリントとノーマルクリーニング」

定期的なお手入れ

○ **ミディアムクリーニング／パワフルクリーニング**

ノーマルクリーニングを行ってもドット抜けなどが直らないときに行ってください。

☞ P. 66「ミディアム／パワフルクリーニング」

○ **プリントヘッドの手動クリーニング**

ご使用の頻度により定期的に行ってください。

☞ P. 68「プリントヘッドの手動クリーニング」

※ プリントヘッドは消耗部品です。ご使用の頻度により定期的な交換が必要です。お買い上げの販売店または弊社までご用命ください。

ノーマルクリーニングが効かないときに

ミディアム／パワフルクリーニング

ノーマルクリーニング（P. 50「テストプリントとノーマルクリーニング」）でドット抜けなどが直らないときは、より強力な「ミディアムクリーニング」を行います。それでも状態が改善しない場合は、さらに強力な「パワフルクリーニング」を行います。

> **POINT!**
> ミディアム／パワフルクリーニングは、ノーマルクリーニングよりもインクの消費量が多く、あまり頻繁に行うとプリントヘッド自身も傷みやすくなります。必要以上に行わないでください。

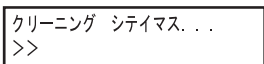
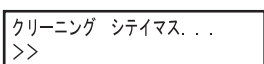
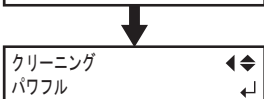
手順

1 FUNCTION を押す。

2

ファンクション
クリーニング

▼ を何度か押して、左図を表示する。
► を押す。

3

クリーニング
ミディアム

▲ ▼ を押して「ミディアム」を選択する。
「ミディアム」が効かないときは「パワフル」を選択する。
ENTER を押して決定。

4

クリーニング シテイマス. . .
>>

クリーニング
ミディアム

「ミディアム」
図の画面が表示され、クリーニングが開始されます。
終了すると図の画面に戻ります。

「パワフル」
図の画面が表示され、クリーニングが開始されます。
終了すると図の画面に戻ります。

5

W1200mm
シート ノ トリツケ

FUNCTION を押してもとの画面に戻る。

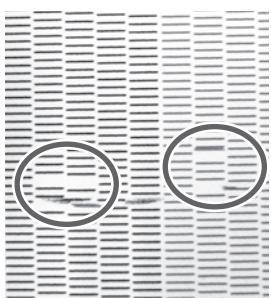
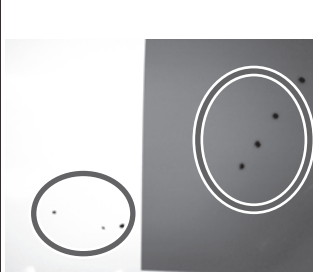
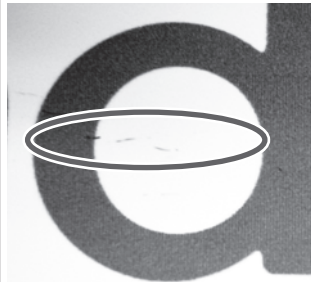
パワフルクリーニングも効かないときは

パワフルクリーニングを数回行ってもドット抜けなどが直らないときは、「プリントヘッドの手動クリーニング」を行ってください。この清掃は、ご使用の頻度に合わせて定期的に行うとより効果的です。

☞ P. 68「プリントヘッドの手動クリーニング」

月に１度以上は行っていただきたいメンテナンス

手動クリーニングが必要なとき

月に一度以上は行ってください

常に安定した出力状態を保っていただくために、月に一度以上は手動クリーニングを行ってください。作業は 10 分程度で完了します。

次のような症状が出たときは、手動クリーニングをおすすめします

次のような症状が出たとき、ノーマルクリーニングなどの自動クリーニング機能で直らない場合は、手動クリーニングを行ってください。
なお、ワイパーやフェルトワイパーの交換も症状の改善に効果的です。

☞ P. 76「ワイパーの交換」、P. 79「フェルトワイパーの交換」

ドット抜け	インクボタ落ち	引きずり
プリントヘッドに埃などが付着し、正常なインク吐出を妨げている状態です。	プリントヘッド周りに付着した汚れにインクが溜まり、メディアに垂れ落ちてしまいます。	プリントヘッド周りに付着した汚れがメディアに接触して起こる現象です。

◯ 手動クリーニングで使用するクリーニングスティックと洗浄液を使い切ったら、お買い上げの販売店または弊社までご用命ください。
◯ プリントヘッドは消耗部品です。ご使用の頻度により定期的な交換が必要です。お買い上げの販売店または弊社までご用命ください。

プリントヘッドの手動クリーニング

IMPORTANT!

作業にあたってのお願い

○ この作業はメディアを取り外してから行ってください。
○ ヘッドの乾燥を防ぐため、30 分以内に作業を終わらせてください。30 分を過ぎると警告音が鳴ります。
○ 付属のクリーニングスティック以外は使わないでください。綿棒などの毛羽の出るものはかえってヘッドを傷めます。クリーニングスティックを使い切ったら、お買い上げの販売店または弊社までご用命ください。
○ クリーニングスティックはクリーニングのために 1 本ずつ使いきってください。クリーニングスティックの使いまわしは印刷品質を低下させます。
○ 清掃に使ったクリーニングスティックを洗浄液の中に浸さないでください。洗浄液が劣化します。
○ ヘッドのノズル面はこすらないでください。
○ スポンジ部分はごく軽くなでるようにします。こすったり押しつぶしたりしないでください。

クリーニング中に警告音がなったときは

作業開始から 30 分が経過すると警告音がなります。作業を一時中断し、P. 71 手順 *4.* にしたがってカバー L とカバー R を取り付け、フロントカバーを閉じてください。 ENTER を押し、手動クリーニングモードを終了させます。その後、はじめの手順から作業を再開してください。

⚠**注意** **必ずこの手順通り作業し、指示以外の場所にはさわらない。**
機械が突然動き、けがをすることがあります。

1. プリントヘッド手動クリーニングモードに入る。

❶ メディアを取り外す

❷ MENU を押す。

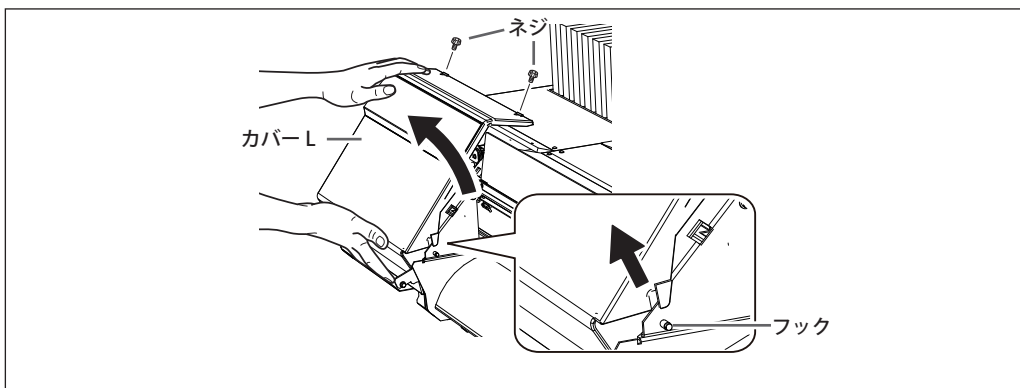
❸
```
メニュー        ◀⇕
サブメニュー     ▶
```
▼ を何度か押して、左図を表示する。
► ▲ の順に押す。

❹
```
サブメニュー     ◀⇕
メンテナンス     ▶
```
► を押す。

❺
```
メンテナンス     ◀⇕
クリーニング     ↵
```
ENTER を押す。

❻

```
カバーL ヲ
アケテクダサイ
```

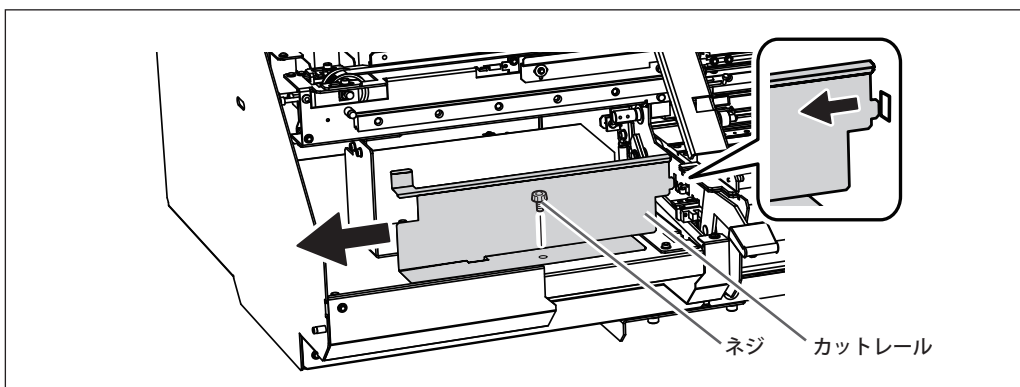
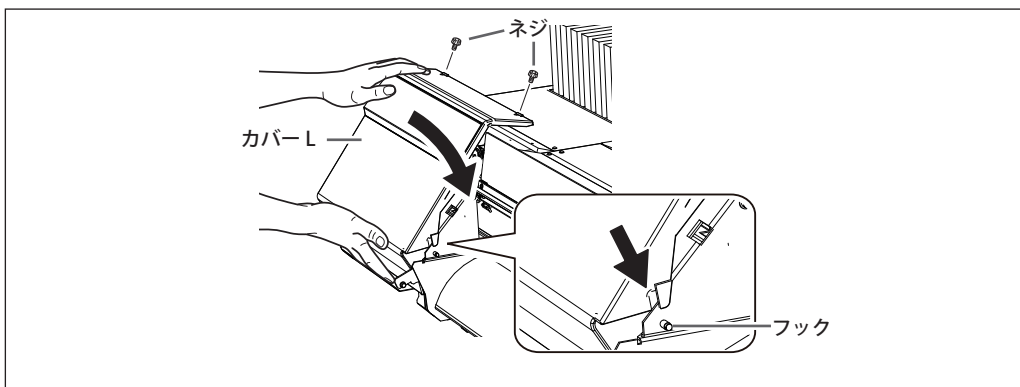
左図が表示されたら、カバー L を取り外す。

```
カットレール ヲ
ハズシテクダサイ ↵
```

カットレールを取り外す。
ENTER を押す。

❼

```
カバーL ヲ
トジテダサイ
```

カバー L を取り付ける。

❽

```
フロントカバー　ヲ
トジテクダサイ
```

フロントカバーを閉じる。
プリントヘッドキャリッジが本体左側へ移動後、図の画面が表示されます。

❾

```
カバーL　ヲ
アケテクダサイ
```

カバーLを取り外す。

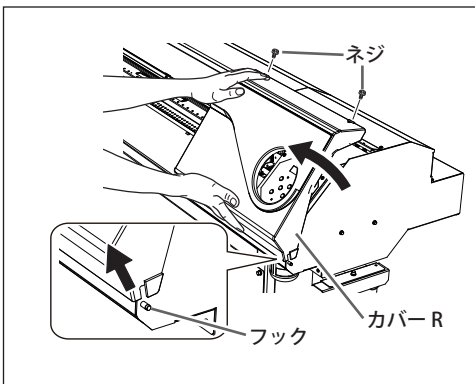
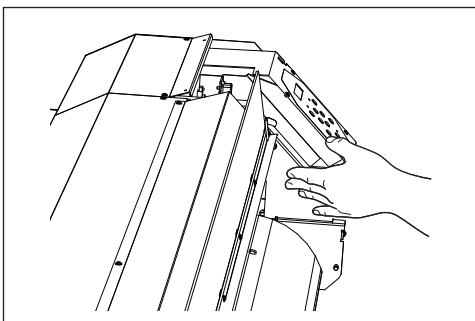
```
シュウリョウゴ　ENTER
　キー　ヲ　オシテクダサイ　↵
```

この画面になったら準備完了。

2. カバーRを取り外す。

❶

カバーRを取り外す。

❷

図の位置にさわって作業者の静電気を逃がす。

3. クリーニングスティックで清掃する。

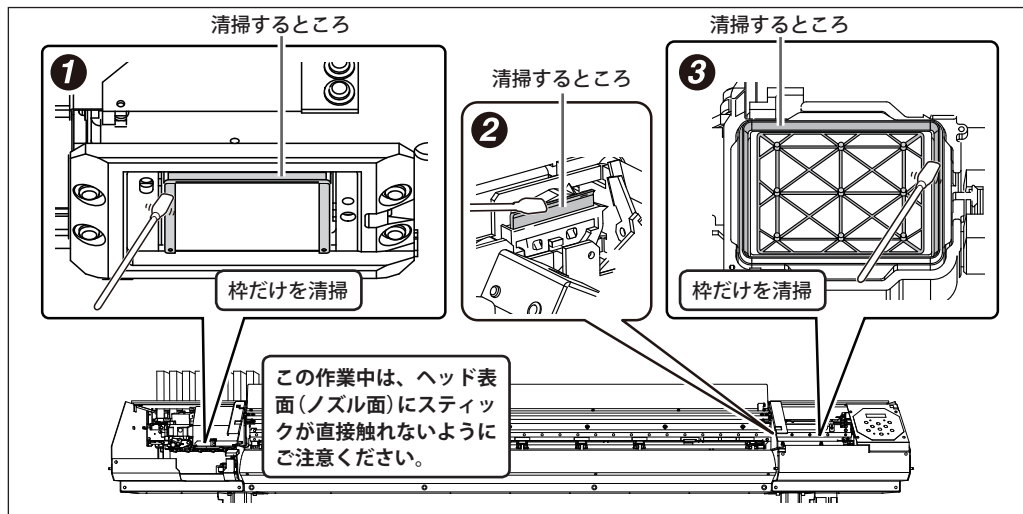
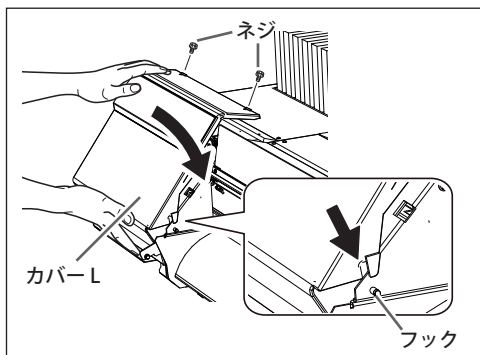
❶

クリーニングスティックを洗浄液に浸す。

② **カットレールを外してあることを確認する。**

カットレールを外し忘れていた場合は、すべてのカバーを閉じてはじめからやり直してください。カットレールが付いたままここから先の作業をすすめると、プリントヘッドを破損することがあります。

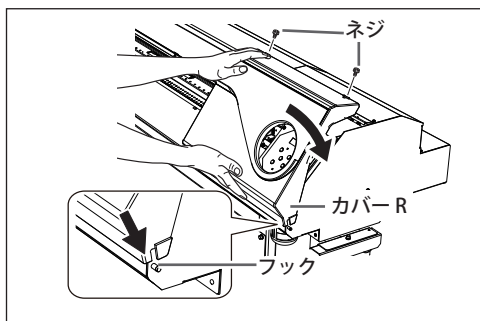
③ **下図の順番で清掃する。**

特に繊維状のほこりをよく清掃してください。

4. カバーL、カバーRを元に戻し、手動クリーニングモードを終了する。

カバーLを取り付ける。

カバーRを取り付ける。

❷ フロントカバーを閉じる。

❸ ENTER を押す。

❹

```
カバーL ヲ
アケテクダサイ
```

プリントヘッドキャリッジが本体右側に移動し、図の画面が表示されます。

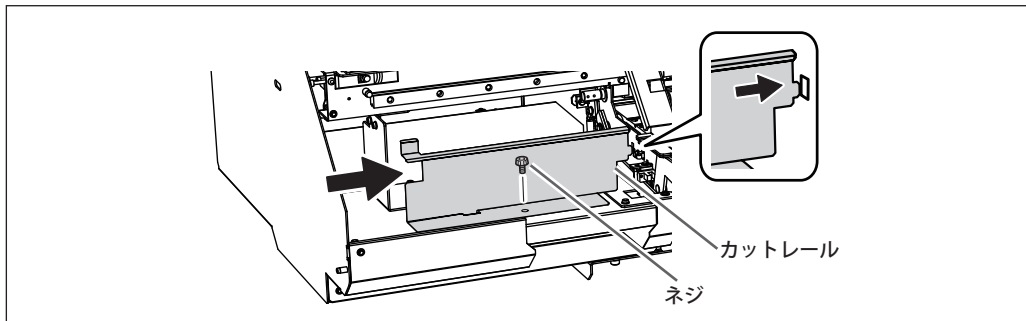
カバーLを取り外す。

❺

```
カットレール ヲ
トリツケテクダサイ ↵
```

カットレールを取り付ける。

ENTER を押す。

❻

```
カバーL ヲ
トジテダサイ
```

カバーLを取り付ける。

ENTER を押す。

```
クリーニング シテイマス. . .
>>
```

↓

```
メンテナンス ◀⬍
クリーニング ↵
```

図の画面が表示され、クリーニングが開始されます。
終了すると図の画面に戻ります。

❼

MENU を押してもとの画面に戻る。

5. テストプリントを行って作業がうまくいったかを確認する。

テストプリントを行って結果を確認する。

必要に応じて何度か本機のクリーニング機能を使ってクリーニングをしてください。

☞ P. 50「テストプリントとノーマルクリーニング」

ドット抜けなどがどうしても直らない場合は

ドット抜けなどがどうしても直らない場合は

クリーニング機能（ノーマル、ミディアム、パワフル）や手動クリーニングを行ってもドット抜けなどインクの吐出不良が直らない場合は、以下の操作を行ってください。

> **IMPORTANT!**
> この操作ではインクを多量に排出します。クリーニング機能（ノーマル、ミディアム、パワフル）や手動クリーニングを行っても、どうしてもドット抜けが直らない場合にだけ行ってください。
> ☞ P. 62「日常的に行っていただきたいメンテナンス」、P. 66「ノーマルクリーニングが効かないときに」、P. 67「月に一度以上は行っていただきたいメンテナンス」

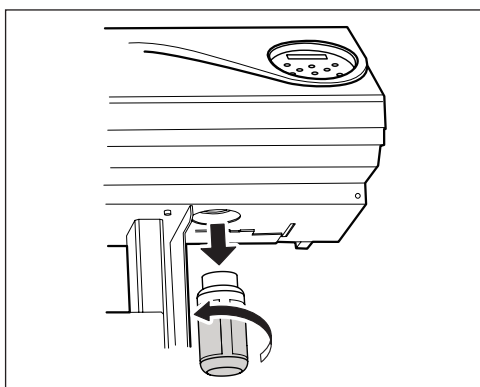
手順

1 MENU を押す。

2
```
メニュー            ◀⬍
サブメニュー          ▶
```
▼ を何度か押して、左図を表示する。
► を押す。
▲ を 2 回押す。

3
```
サブメニュー          ◀⬍
インク　コントロール      ▶
```
► ▲ の順に押す。

4
```
インク　コントロール      ◀⬍
インク　コウシン         ↵
```
ENTER を押す。

5
```
ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ
                  ↵
```
左図が表示されたら、ボトルを取り外して廃液を捨てて空にする。

⚠注意　この時点で必ず廃液を捨てて下さい。
この操作ではインクを多量に排出します。この時点で必ず廃液を捨てて下さい。この時点で捨てておかないと、以降の工程中に廃液ボトルから廃液が溢れてしまいます。

⚠注意　画面に［ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ］と表示されてから、廃液ボトルを外すこと。
手順を守らないと、本体から廃液が出てきて廃液が手についたり、こぼれて床をよごしたりすることがあります。

6
```
ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ
                  ↵
```
空にした廃液ボトルをふたたび本体に取り付ける。
ENTER を押す。

❼

```
カートリッジ　フッテクダサイ
                          ↵
```

左図が表示されたら、すべてのインクカートリッジを抜き取って振る。

インクの飛び散りに注意して軽く振ってください。

すべてのインクカートリッジを元に戻す。

ENTER を押す。

```
インク　コウシン　シテイマス
>>
```

図の画面が表示されます。

❽

```
ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ
                          ↵
```

左図が表示されたら、ボトルを取り外して廃液を捨てて空にする。

⚠注意 **この時点で必ず廃液を捨てて下さい。**
この操作ではインクを多量に排出します。この時点で必ず廃液を捨てて下さい。この時点で捨てておかないと、以降の工程中に廃液ボトルから廃液が溢れてしまいます。

⚠注意 **画面に［ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ］と表示されてから、廃液ボトルを外すこと。**
手順を守らないと、本体から廃液が出てきて廃液が手についたり、こぼれて床をよごしたりすることがあります。

❾

```
ハイエキ　ヲ　ステテクダサイ
                          ↵
```

空にした廃液ボトルをふたたび本体に取り付ける。

ENTER を押す。

```
インク　コウシン　シテイマス
>>
```

↓

```
インク　コントロール       ◀◆
インク　コウシン           ↵
```

図の画面が表示されます。

終了すると図の画面に戻ります。

❿

```
W1200mm
シート　ノ　トリツケ
```

MENU を押してもとの画面に戻る。

「インク　ジュンカン」メニューについて

```
インク　コントロール       ◀◆
インク　ジュンカン         ↵
```

「インク　ジュンカン」はインクモードが WMT の場合にのみ表示されるメニューです。このメニューは、移送時以外には使用しないでください。移送時の操作方法については「セットアップガイド」を参照してください。

☞「セットアップガイド」

POINT! **応急処置としてのヘッド表面のクリーニング**

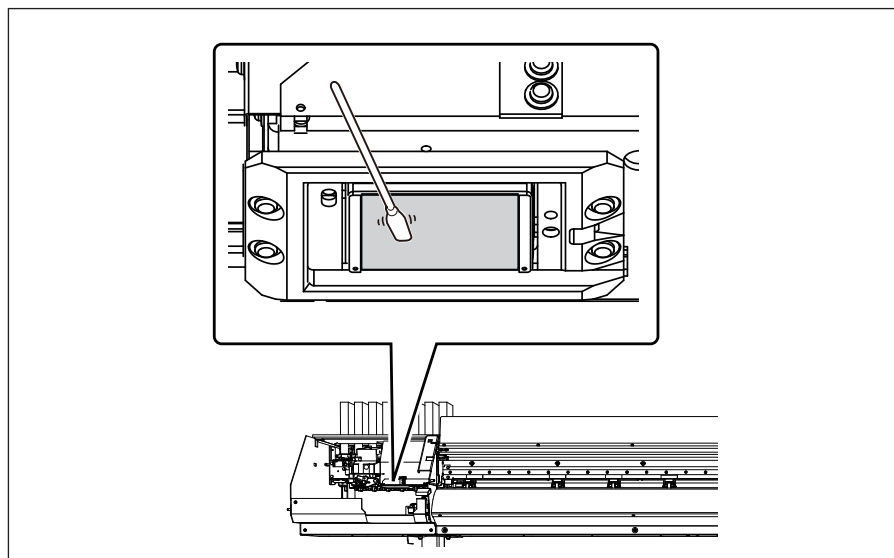
何度クリーニングしてもドット抜けやドットよれが改善しない場合は、応急処置として、ヘッド表面をクリーニングする方法があります。ヘッド表面（ノズル面）はとても繊細な機構となっていますので、作業は丁寧かつ慎重に行ってください。
この作業は応急的処置です。症状によっては正常な箇所を傷め、さらに症状の悪化を招くことがあります。ご不明な点はお買い上げの販売店または弊社までお問い合わせください。

手順

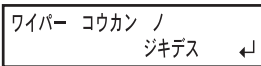
1 クリーニングスティックに洗浄液をたっぷり染み込ませる。

2 ヘッド表面（ノズル面）にクリーニングスティックをそっと軽く押し当てる。

ヘッドノズルに洗浄液が染み込むように、やさしくそっと押し当ててください。決してスティックをこすりつけたり、力強く押し当てたりしないようにしてください。

消耗部品の交換

ワイパーの交換

ワイパーはプリントヘッドのクリーニングに使われる部品です。表示画面にこのような画面が出たら交換時期です。新しいものと交換してください。

```
ワイパー コウカン ノ
         ジキデス  ↵
```

ワイパーの購入については、お買い上げの販売店または弊社までお問い合わせください。

⚠**注意** **必ずこの手順の通り作業し、指示以外の場所にはさわらない。**
機械が突然動き、けがをすることがあります。

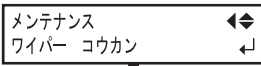
1. ワイパー交換メニューに入る。

❶
```
ワイパー コウカン ノ
         ジキデス  ↵
```
図のメッセージが表示されたら、ENTER を押す。

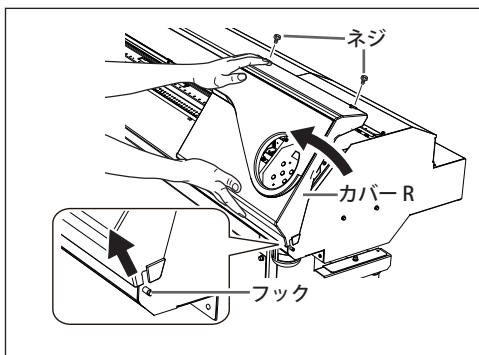
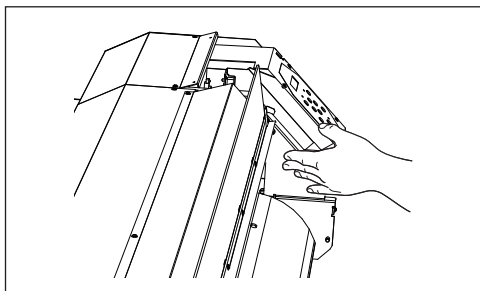
❷ メディアを取り外す。

❸ MENU を押す。

❹
```
メニュー      ◀◆
サブメニュー     ▶
```
▼ を何度か押し、左図を表示する。
► ▲ の順に押す。

❺
```
サブメニュー     ◀◆
メンテナンス     ▶
```
► ▼ の順に押す。

❻
ENTER を押す。
プリントヘッドキャリッジがワイパー交換可能な位置へ移動し、図の画面が表示されます。

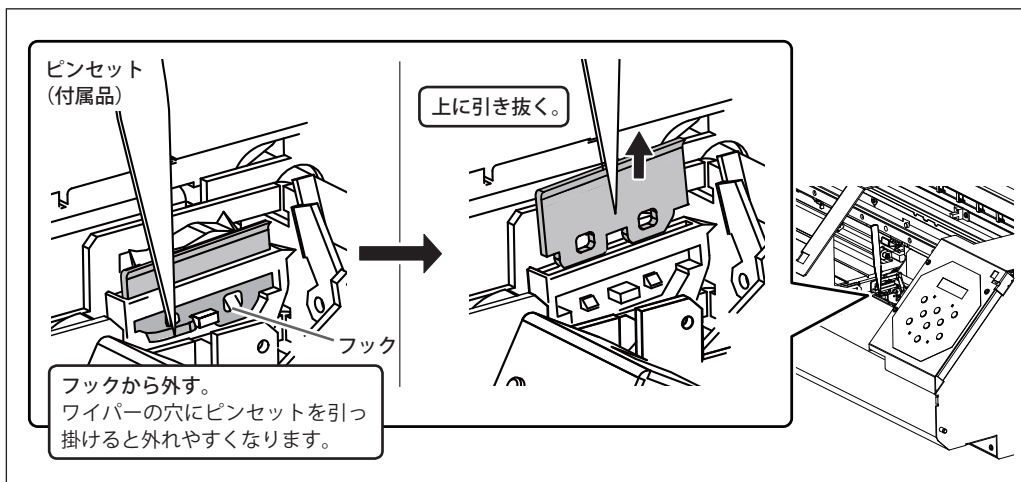
❼
カバー R を取り外す。

❽

図の位置にさわって作業者の静電気を逃がす。

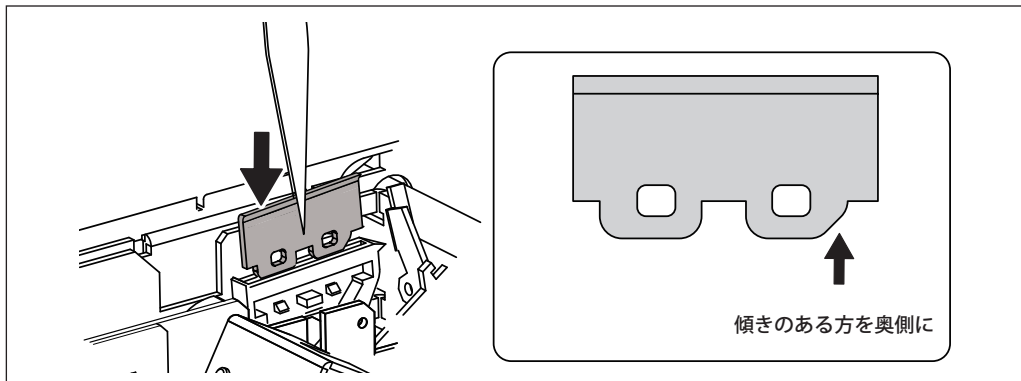
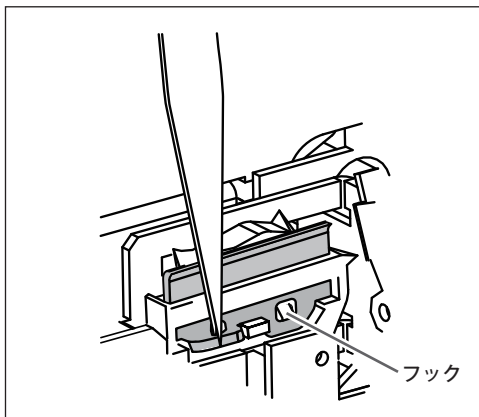
❾ シュウリョウゴ　ENTER
　キー　ヲ　オシテクダサイ　↵

この画面になったら準備完了。

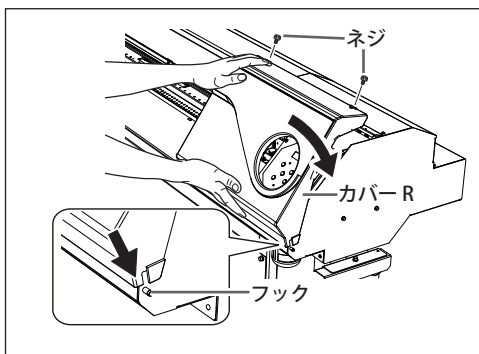
2. ワイパーを交換する。

❶ 古いワイパーを取り外す。

❷ 新しいワイパーを差し込む。

傾きのある方を奥側にしてください。向きを間違えると、適切なクリーニングが出来なくなります。

❸

フックに引っかける。

必ずフックに引っかけてください。さもないと、ドット抜けなどの原因になります。

3. カバー R を元に戻し、ワイパー交換メニューを終了する。

❶

カバー R を取り付ける。

❷ ENTER を押す。

ワイパー交換メニューから抜けるための動作をしたあと、図の画面に戻ります。

❸

MENU を押してもとの画面に戻る。

4. テストプリントを行って作業がうまくいったかを確認する。

テストプリントを行って結果を確認する。

☞ P. 50「テストプリントとノーマルクリーニング」

フェルトワイパーの交換

フェルトワイパーはプリントヘッドのクリーニングに使われる部品です。表示画面にこのような画面が出たら交換時期です。新しいものと交換してください。

```
フェルト コウカン ノ
          ジキデス  ↵
```

フェルトワイパーの購入については、お買い上げの販売店または弊社までお問い合わせください。

⚠注意 **必ずこの手順の通り作業し、指示以外の場所にはさわらない。**
機械が突然動き、けがをすることがあります。

1. フェルトワイパー交換メニューに入る。

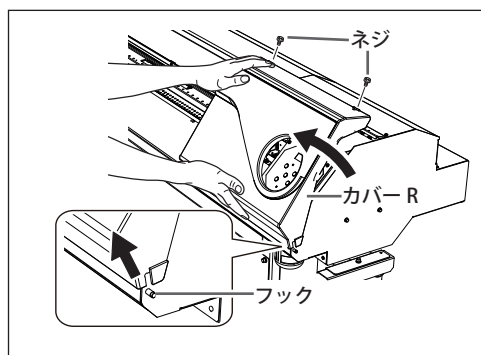
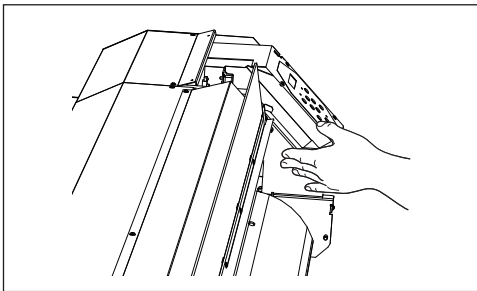
❶
```
フェルト コウカン ノ
          ジキデス  ↵
```
図のメッセージが表示されたら、ENTER を押す。

❷ メディアを取り外す。

❸ MENU を押す。

❹
```
メニュー          ◀◆
サブメニュー         ▶
```
▼ を何度か押し、左図を表示する。
► ▲ の順に押す。

❺
```
サブメニュー        ◀◆
メンテナンス         ▶
```
► 押す。
▼ を 2 回押す。

❻
```
メンテナンス        ◀◆
フェルト コウカン     ↵
```
```
カバー R ヲ
アケテクダサイ
```
ENTER を押す。
プリントヘッドキャリッジがフェルトワイパー交換可能な位置へ移動し、図の画面が表示されます。

❼
カバー R を取り外す。

❽

図の位置にさわって作業者の静電気を逃がす。

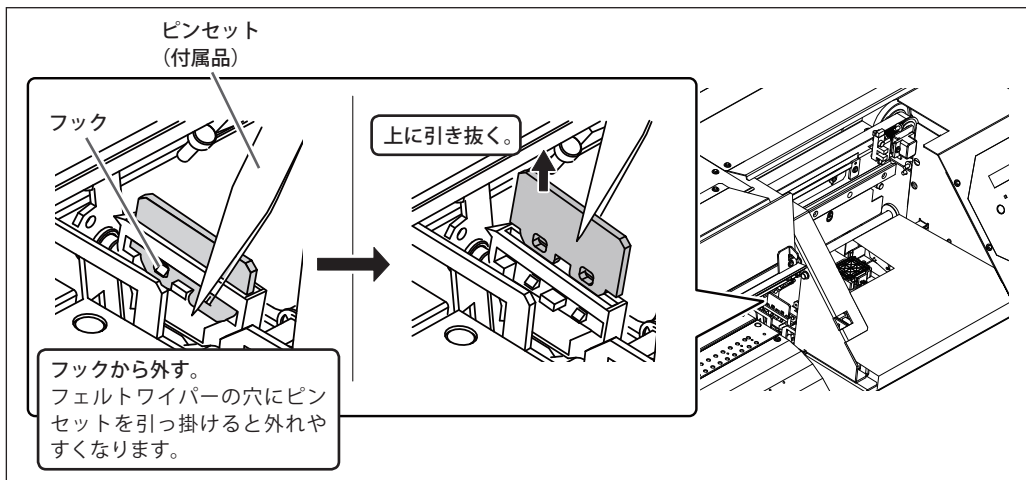
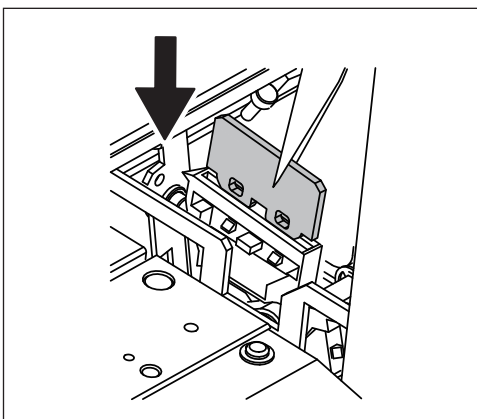
❾

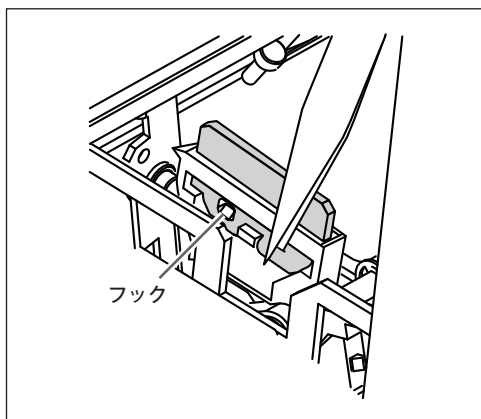
```
シュウリョウゴ　ENTER
  キー　ヲ　オシテクダサイ　↵
```

この画面になったら準備完了。

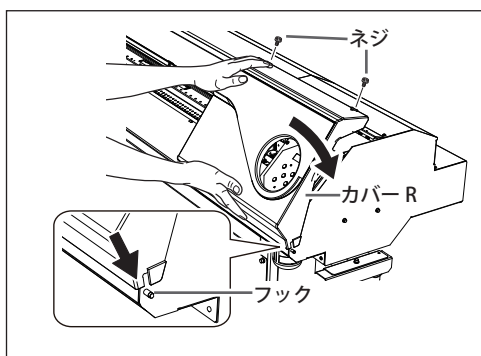
2. フェルトワイパーを交換する。

❶ 古いフェルトワイパーを取り外す。

❷

新しいフェルトワイパーを差し込む。

❸

フックに引っかける。

必ずフックに引っかけてください。さもないと、ドット抜けなどの原因になります。

3. カバー R を元に戻し、フェルトワイパー交換メニューを終了する。

❶

カバー R を取り付ける。

❷ **ENTER を押す。**

フェルトワイパー交換メニューから抜けるための動作をしたあと、図の画面に戻ります。

❸

MENU を押してもとの画面に戻る。

4. テストプリントを行って作業がうまくいったかを確認する。

テストプリントを行って結果を確認する。

☞ P. 50「テストプリントとノーマルクリーニング」

カッターの交換

カッターの切れ味が悪くなったとき、刃先が欠けたとき、カット品質が悪くなったときは、新しいカッターと交換してください。

⚠注意 **必ずこの手順の通り作業し、指示以外の場所にはさわらない。**
機械が突然動き、けがをすることがあります。

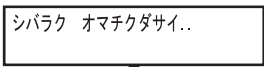
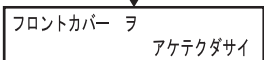
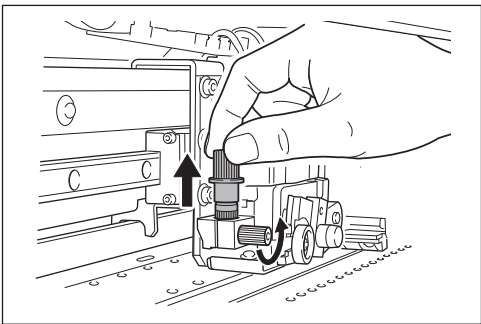
⚠注意 **カッターの刃先にさわらない。**
けがをすることがあります。

1. カッター交換メニューに入る。

❶ MENU を押す。

❷
```
メニュー        ◀◆
サブメニュー      ▶
```
▼ を何度か押し、左図を表示する。
▶ ▲ の順に押す。

❸
```
サブメニュー      ◀◆
メンテナンス      ▶
```
▶ を押す。

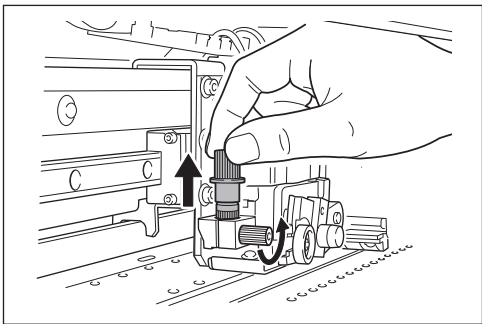
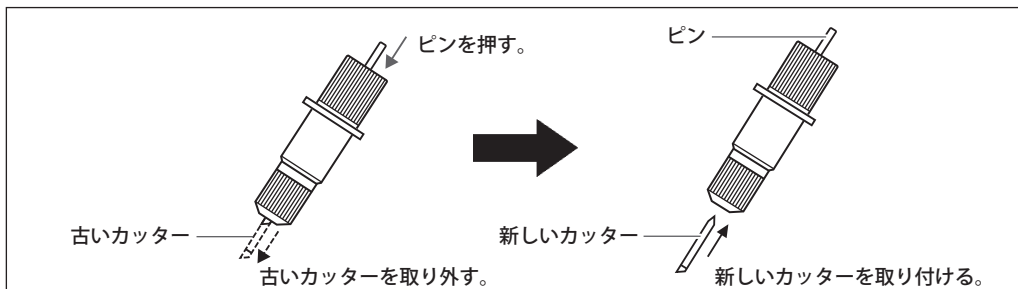
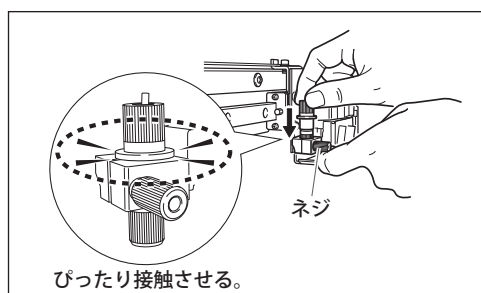
❹
```
メンテナンス      ◀◆
カッター コウカン   ↵
```
▼ を何度か押して左図を表示する。
ENTER を押す。

❺
```
シバラク オマチクダサイ..
```
↓
```
フロントカバー ヲ
        アケテクダサイ
```
カッティングキャリッジがカッター交換可能な位置へ移動し、図の画面が表示されます。

❻
```
シュウリョウゴ ENTER
 キー ヲ オシテクダサイ ↵
```
フロントカバーを開ける。
この画面になったら準備完了。

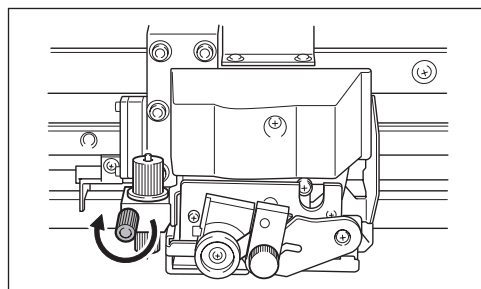
2. カッターを交換する。

❶
カッターホルダーを取り出す。

❷ カッターを交換する。

❸

ネジを支えながら、カッターホルダーを差し込む。

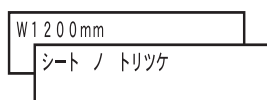
下から支えずに取り付けると、カット品質が悪くなることがあります。

❹

ネジをしっかりと締める。

上に引っぱり抜けないことを確認してください。

3. カッター交換メニューを終了する。

❶ フロントカバーを閉じる。
ENTER を押す。

❷

MENU を押してもとの画面に戻る。

4. カッティング条件と切り込み量の調整を行う。

☞ P. 106「カッティング条件を細かく設定する」、P. 108「切り込み量を細かく調整する」

メディア切り離し用ナイフの交換

メディア切り離し用ナイフの切れ味が悪くなったら、付属の替え刃と交換してください。

⚠注意 **必ずこの手順の通り作業し、指示以外の場所にはさわらない。**
機械が突然動き、けがをすることがあります。

⚠注意 **カッターの刃先にさわらない。**
けがをすることがあります。

1. カッター交換メニューに入る。

❶ (MENU) を押す。

❷
```
メニュー          ◀◆
サブメニュー        ▶
```
(▼) を何度か押し、左図を表示する。
(►) (▲) の順に押す。

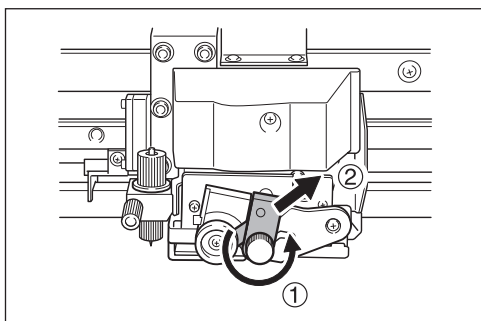
❸
```
サブメニュー        ◀◆
メンテナンス        ▶
```
(►) を押す。

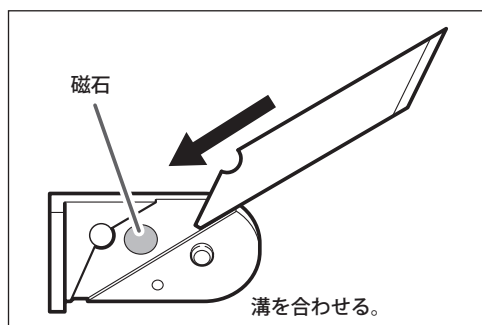
❹
```
メンテナンス        ◀◆
カッター　コウカン     ↵
```
(▼) を何度か押して左図を表示する。
(ENTER) を押す。

カッティングキャリッジがナイフ交換可能な位置へ移動し、図の画面が表示されます。

❺
```
シュウリョウゴ　ENTER
　キー　ヲ　オシテクダサイ　↵
```
フロントカバーを開ける。
この画面になったら準備完了。

2. メディア切り離し用ナイフを交換する。

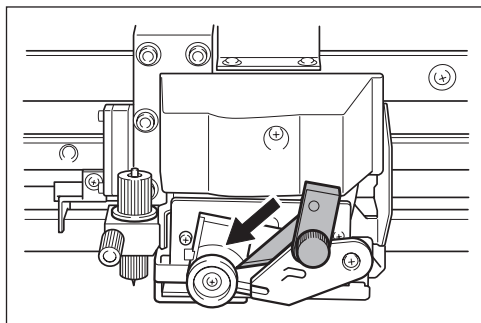
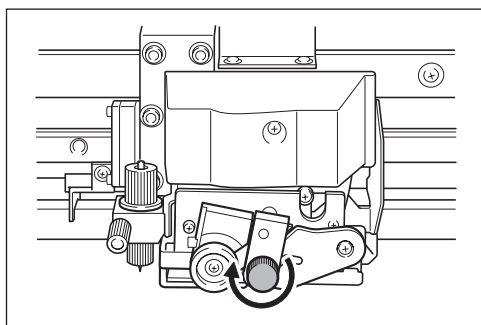
❶

メディア切り離し用ナイフを取り外す。
①ネジが飛び出してくるまで緩める。
②ネジ部分を持ち、矢印の方向にゆっくりと抜く。このとき手前に引っ張らないこと。

❷

新しいナイフを取り付ける。

ナイフは磁石で固定されます。

❸

溝に沿ってゆっくりと差し込む。

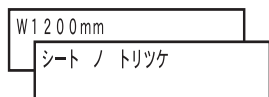
❹

ネジを締める。

ナイフがずれないように注意してください。

3. カッター交換メニューを終了する。

❶ フロントカバーを閉じる。

ENTER を押す。

❷

MENU を押してもとの画面に戻る。

長期間使用しないときは

継続的なメンテナンスを

1ヶ月に1度は電源をオンにする

月に1度はサブ電源をオンにしてください。電源が入ると、プリントヘッドの乾燥を防ぐ動作などを自動で行います。長期間放置するとプリントヘッドが壊れることがありますので、必ず実施してください。

温度と湿度を一定に保つ

使っていないときでも、温度5～40℃、湿度20～80%（ただし結露のないこと）を保ってください。高温になりすぎると、インクが変質して故障の原因となります。低温になりすぎると、インクが凍ってヘッドを破損する原因となります。

アラーム機能

```
POWER キー ヲ オシテクダサイ
クリーニング ヲ シマス
```

月に1回、サブ電源をオンにすることを促す機能です。およそ1ヶ月使用しない状態が続くと、この画面を表示してブザーを鳴らします。この画面が出たらサブ電源をオンにします。保守動作が完了したら、サブ電源をオフにしてください。
この機能は、プリンタのメイン電源がオンのときに働きます。長期間使用していないときでも、プリンタのメイン電源は常にオンにしておいてください。

第 4 章
使いこなし編

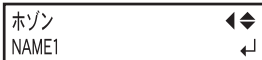
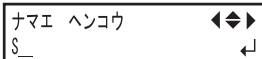
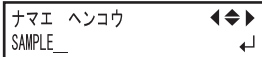
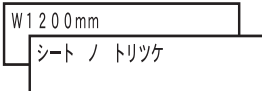
プリセット機能を使いこなす

各種設定をプリセットに名前を付けて保存する

手順

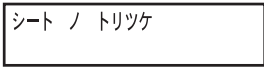
1. を押す。

2. 画面表示：メニュー / プリセット
   ▼を押して左図を表示する。
   ►▼の順に押す。

3. 画面表示：プリセット / ホゾン
   ►を押す。

4. 画面表示：ホゾン / NAME1
   ▲▼を押して NAME1 ～ 8 のいずれかを選択する。
   ENTERを押して決定。
   現在の各メニューの設定が保存されます。

5. 画面表示：ナマエ　ヘンコウ / S_
   ▲▼を押して文字を入力する。
   文字が決まったら►を押す。
   入力可能な文字は「A ～ Z」と「0 ～ 9」、「-」です。空白も含め 15 文字まで入力できます。

6. 画面表示：ナマエ　ヘンコウ / SAMPLE_
   ▲▼を押して次の文字を入力する。
   以降同様にして次の文字を入力する。
   入力が終了したらENTERを押して決定。

7. 画面表示：W1200mm / シート　ノ　トリツケ
   MENUを押してもとの画面に戻る。

解説

〔プリセット〕メニューを使うと、いろいろなメニューの設定をメディアに最適な設定へ簡単に変更できます。最大 8 種類のプリセットを保存できます。各プリセットには名前をつけることができるので、メディア名など区別しやすい名前をつけるとよいでしょう。メディアを交換するたびに、メニューごとに設定を変更するのは手間がかかります。そこで、よく利用するメディアについては各メニューの設定をプリセットへ保存します。すると、次回からは保存したプリセットを呼び出すだけで各メニューをお使いのメディアに最適な設定へ変更できます。プリセットに設定を保存できるメニューは次のとおりです。

〔プリントヒーター〕、〔ドライヤー〕	☞ P. 91「メディアヒーティングシステムの温度設定」
〔ヒーター　アイドリング〕	☞ P. 93「アイドリング状態時のメディアヒーティングシステムの制御」
〔カンソウジカン〕	☞ P. 94「印刷後の乾燥時間を設定する」
〔ソウホウコウ　チョウセイ　カンイ　セッテイ〕	☞ P. 95「双方向印刷のずれを補正する」
〔ソウホウコウ　チョウセイ　ショウサイ　セッテイ〕	☞ P. 96「双方向印刷のずれをより細かく補正する」
〔キャリブレーション〕	☞ P. 96「横すじを軽減する（送り補正機能）」
〔エッジ　ケンシュツ〕	☞ P. 99「透明なメディアを使用する」
〔スキャン　カンソウジカン〕	☞ P. 99「乾きにくいメディアを使用する」
〔キュウチャクリョク　セッテイ〕	☞ P. 100「浮きあがりやすい／スムーズに動かないメディア」
〔テイハバ　インサツ〕	☞ P. 101「幅のせまいメディアへの出力を速くする」
〔インサツゴ　カンソウオクリ〕	☞ P. 93「印刷領域の後端をドライヤー上で乾かす」
〔カッターアツ〕、〔ソクド〕、〔オフセット〕、〔UP ソクド〕	☞ P. 106「カッティング条件を細かく設定する」
〔キャリブレーション〕（カッティングメニュー内）	☞ P. 109「カッティング時の距離補正をする」
〔インサツ－カット　イチアワセ〕	☞ P. 110「印刷位置とカット位置のずれを補正する」
〔クロップ－カット　イチアワセ〕	☞ P. 119「クロップマーク使用時の印刷位置とカット位置のずれを補正する」

☞ **P. 90「保存したプリセットを呼び出す」**

保存したプリセットを呼び出す

手順

❶

を押す。

❷
を押して左図を表示する。
を 2 回押す。

❸
を押して呼び出したい名前を選択する。
を押して決定。

シート　ノ　トリツケ

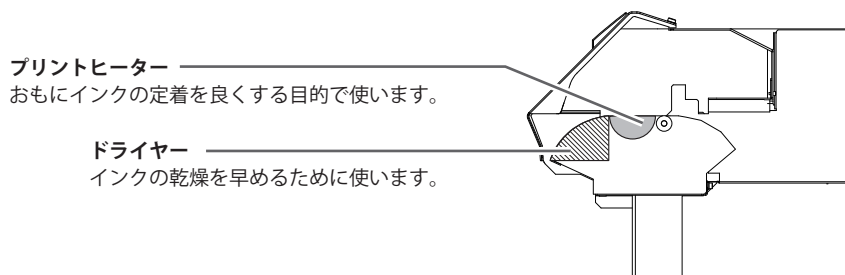
設定が変更され、図の画面が表示されます。

解説

保存したプリセットを呼び出します。8 種類のプリセットからいずれかを選択します（名前をつけていない場合は、NAME1 ～ NAME8 のいずれかを選択します）。 SETUP が点灯した状態でプリセットを呼び出すと、 SETUP は消灯します。その場合、いったんローディングレバーを上げ、メディアがまっすぐセットされていることを確認し、ローディングレバーを再び下ろして出力できる状態にしてください。

メディアヒーティングシステムを使いこなす

メディアヒーティングシステムとは

本機は、メディアを暖めることができるメディアヒーティングシステムを搭載しています。おもにインクの定着を良くしたり、インクを乾かしたりするために使います。メディアの種類や印刷速度に応じて、温度を調整できます。

⚠警告 **高温注意。**
プラテンやドライヤーは熱くなります。火災ややけどに注意してください。

⚠警告 **印刷していないときは、メディアを外すか、サブ電源をオフにする。**
同じ場所を熱し続けると、火災や有害なガスが発生することがあります。

⚠警告 **熱に耐えられないメディアは使わない。**
メディアが変質や、火災、有害ガス発生の恐れがあります。

⚠警告 **ドライヤーで服を乾かすなど、用途以外の使い方をしない。**
過熱による火災など、思わぬ事故の原因になります。

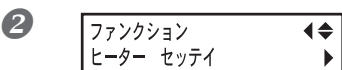
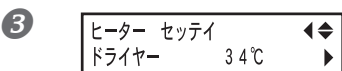
20 ～ 32℃の環境でお使いください

20℃未満の環境で本機をお使いの場合、メディアの種類や幅によっては、しわになったり、温度むらになったりすることがあります。このような場合は、メディアヒーティングシステムの温度を 2 ℃程度低くしてみてください。ただし、安定した印刷結果を得るためには、20 ～ 32℃の環境で本機をお使いください。

メディアヒーティングシステムの温度設定

手順

❶ [FUNCTION] を押す。

❷
```
ファンクション        ◀◆
ヒーター セッテイ      ▶
```
[▼] を何度か押して左図を表示する。
[▶] を押す。

❸
```
ヒーター セッテイ      ◀◆
ドライヤー       34℃  ▶
```
現在のドライヤーの温度

[▲] [▼] を押して「プリントヒーター」か「ドライヤー」を選択する。
[▶] を押す。

4 使いこなし

❹

現在の設定温度

▲ ▼ を押して温度を選択する。

「オフ」にも設定できます。「オフ」にするとメディアヒーティングシステムはまったく働かなくなります。

ENTER を押して決定。

POINT! プリントヒーター：設定温度のめやす

おもにインクの定着を良くしたり、にじみを抑えたりする目的で使います。インクがだまになったり、にじんで汚くなったりするときには温度を高めにします。ただし、高すぎるとメディアが縮んでしわになったり、変質したりします。

POINT! ドライヤー：設定温度のめやす

インクの乾きが悪いときは、温度を高めにします。ただし、高すぎるとメディアが縮んでしわになったり、変質したりします。

❺

W1200mm
シート ノ トリツケ

FUNCTION を押してもとの画面に戻る。

解説

出荷時設定では、電源をオンにしただけでは設定温度までは熱くなりません。メディアを正しく取り付け、SETUP が点灯すると設定温度まで上昇します。この設定はソフトウェア RIP でも行うことができます。ソフトウェア RIP で設定したときは、ソフトウェア RIP の設定が優先されます。

※ プリントヒーターやドライヤーの温度は、使用する環境によって設定温度より高くなることがありますが異常ではありません。

☞ 温度設定に関するヒントは次ページに

POINT! 温度設定に関するヒント

印刷モードと温度の関係

メディアヒーティングシステムの最適温度は、メディアの種類や印刷モードの違いなどによって変わります。温度を高くしてもにじんだり乾きが悪かったりするときは、RIP ソフトウェアの印刷モードをより高品質にしてみてください。 逆に、より高速な印刷モードにしたいときは、温度を高めにしてください。

インク量

RIP ソフトウェアの設定でインク量を変えられる場合は、これも調整するとよい結果が得られる場合があります。温度を高くしてもにじみなどがなくならないときは、インク量を減らしてみてください。

その他の留意点

お使いのメディアの使用条件などとして温度や印刷モードなどの推奨値が提示されている場合は、それに従ってください。

アイドリング状態時のメディアヒーティングシステムの制御

※ アイドリング状態：メイン、サブ電源ともオンになっていて、 SETUP が消灯している状態（メディアのセットを完了していない状態）。

手順

1 MENU を押す。

2 メニュー / ヒーター メニュー
▼ を何度か押して左図を表示する。
► ▼ の順に押す。

3 ヒーターメニュー / ヒーター アイドリング
► を押す。

4 ヒーター アイドリング / 30℃ ▶メニュー
▲ ▼ を押して設定を選択する。
メニュー：アイドリング状態でも温度を下げず、常に設定温度になるように暖めます。
30℃：アイドリング状態のときは、30℃に保ちます。
オフ：アイドリング状態のときは、メディアヒーティングシステムをオフにします。
ENTER を押して決定。

5 W1200mm / シート ノ トリツケ
MENU を押してもとの画面に戻る。

出荷時設定

〔ヒーター　アイドリング〕：30℃

印刷領域の後端をドライヤー上で乾燥させる

手順

1 MENU を押す。

2 メニュー / ヒーター メニュー
▼ を何度か押して左図を表示する。
► を 2 回押す。

3 インサツゴ カンソウオクリ / ムコウ ▶ユウコウ
▲ ▼ を押して「ユウコウ」を選択する。
ENTER を押して決定。

4
使いこなし

4

MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

○ ユウコウ：印刷の後端がきちんとドライヤーにのるまでメディアを送り出します。印刷終了位置から次の印刷開始位置までの余白は 100 mm に設定されます。ソフトウェア RIP で余白を 100 mm 未満に設定してもその値は無視されますが、ソフトウェア RIP で余白を 100 mm よりも大きな値に設定した場合はソフトウェア RIP の設定が優先されます。

○ ムコウ：印刷が終了すると同時にメディア送りが停止します。したがって、続けて次の印刷をしない限り、印刷の後端はドライヤーまで送られません。

出荷時設定

〔インサツゴ　カンソウオクリ〕：ムコウ

印刷後の乾燥時間を設定する

手順

1 MENU を押す。

2 メニュー / ヒーター メニュー

▼ を何度か押して左図を表示する。
► ▲ の順に押す。

3 ヒーターメニュー / カンソウジカン

► を押す。

4 カンソウジカン / 0フン ▶ 10フン

▼ ▼ を押して乾燥時間を選択する。
ENTER を押して決定。

5 W1200mm / シート ノ トリツケ

MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

1 ページの印刷終了後の乾燥時間を設定します。設定した時間が経過するまで次の動作を開始しません。乾燥中は PAUSE が点灯します。 PAUSE 点灯中に PAUSE を押すと、乾燥を終了して次の動作を開始します。また、 PAUSE 点灯中に PAUSE を長押しすると出力をキャンセルします。

出荷時設定

〔カンソウジカン〕：0 フン

双方向印刷のずれを補正する

手順

1. [MENU] を押す。

2. メニュー ◀⬍
   ソウホウコウ チョウセイ ▶

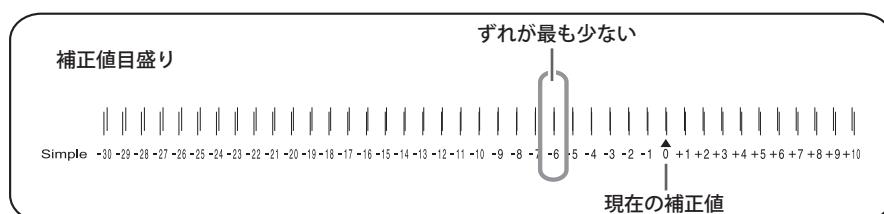
   [▼] を何度か押して左図を表示する。
   [►] を押す。

3. ソウホウコウ チョウセイ ◀⬍
   テスト プリント ↵

   [ENTER] を押す。
   テストパターンが印刷されます。
   印刷が完了したら [▼] [►] の順に押す。

4. カンイ セッテイ ◀⬍
   0 ▶ -6 ↵

   を押して補正値を選択する。
   [ENTER] を押して決定。

補正値の決め方
2 本の線のずれが最も少ないものを選んでください。

5. [MENU] を押してもとの画面に戻る。

解説

本機では、ヘッドが往復する両方の動きで印刷します。この印刷方法を「双方向印刷」といいます。これは、出力時間を短縮できるというメリットがありますが、往復時に微妙なずれを生じます。これを補正してずれをなくすのが「双方向補正」です。このずれはヘッド高さやメディア厚みによって変わりますので、お使いのメディアに合わせた補正をおすすめします。
また、この設定には印刷位置とカット位置のずれを補正する役割もあります。印刷したメディアをカッティングする場合は、この設定の確認または調整を行ってください。

☞ P. 110「印刷位置とカット位置のずれを補正する」

双方向印刷のずれをより細かく補正する

〔カンイ　セッテイ〕で調整しても印刷が改善されない場合など、さらに補正が必要な場合は〔ショウサイ　セッテイ〕を使って補正を行ってください。
操作方法は、P. 36「初期調整を行う（双方向印刷の詳細補正）」を参照してください。

横すじを軽減する（送り補正機能）

手順

1. ロールメディアを使用している場合は、メディアにたるみがないことを確認する。

2. MENU を押す。

3. メニュー / キャリブレーション

   ▼ を何度か押して左図を表示する。
   ► を押す。

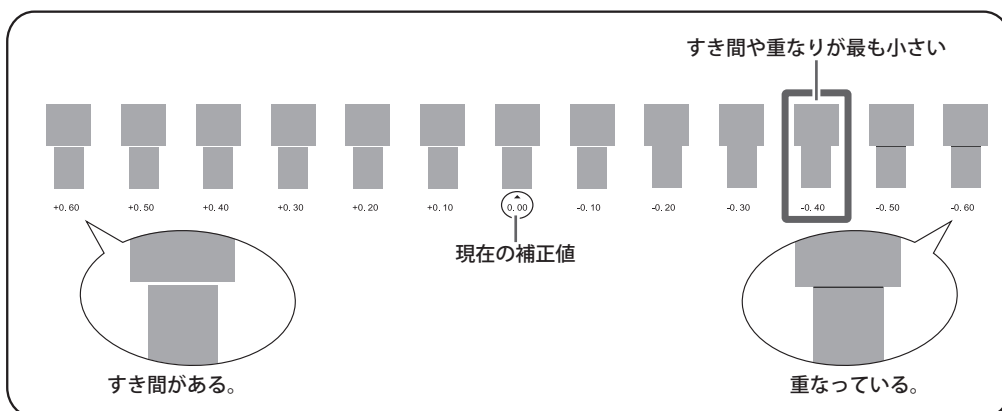
4. キャリブレーション / テスト　プリント

   ENTER を押す。
   テストパターンが印刷されます。
   印刷が完了したら ▼ ► の順に押す。

5. セッテイ / 0. 00%　▶　-0. 40%

   ▲ ▼ を押して補正値を選択する。
   ENTER を押して決定。

補正値の決め方

上下の四角形のすき間や重なりが最も小さいものを選んでください。

6. MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

メディアの厚みやメディアヒーティングシステムの温度によってメディアの移動距離が微妙に変化します。移動距離がずれると、印刷の横すじがめだちやすくなります。お使いのメディアやメディアヒーティングシステムに合わせた補正をお勧めします。テストパターンの印刷と補正値の入力を何度かくり返し、最適な値を探してください。
この補正は、ソフトウェア RIP でも設定する（例えば、メディア種類を選ぶ）ことができます。ソフトウェア RIP で設定したときは、プリンタ側の設定は無視されソフトウェア RIP の設定が優先されます。

出荷時設定

〔セッテイ〕：0.00%

メディアの種類や状態に対応する

メディアの厚みにヘッド高さを合わせる

手順

❶ (MENU) を押す。

❷
```
メニュー
ヘッド タカサ
```
(▼) を何度か押して左図を表示する。
(►) を押す。

❸
```
ヘッド タカサ
ヒクイ      ▶ヒクイ
```
左図が表示されたらフロントカバーを開ける。

❹
高さ調整レバーでプリントヘッドの高さを調整する。
「高い」方向にレバーを動かすとブザーが 2 回、「低い」方向に動かすとブザーが 1 回鳴ります。

❺
フロントカバーを閉じる。
プリントヘッドがもとの位置に戻り、図の画面が表示されます。

❻
(MENU) を押してもとの画面に戻る。

解説

メディアによっては、印刷時にしわになったりプラテンから浮き上がったりするものがあり、プリントヘッドが当たりやすくなります。このようなメディアでは、ヘッド高さを「タカイ」にします。
ヘッド高さを「タカイ」にしたときは、「ヒクイ」のときに比べて印刷が粗くなるなど、印刷品質の低下を招くことがあります。その場合は下記のページをご覧ください。

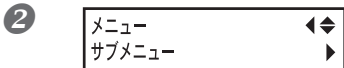
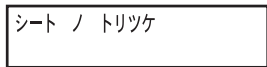
☞ P. 95「双方向印刷のずれを補正する」、P. 36「初期調整を行う（双方向印刷の詳細補正）」、P. 102「メディア汚れ／ドット抜けの防止」

透明なメディアを使用する

手順

1. MENU を押す。

2.
```
メニュー             ◀⬍
サブメニュー            ▶
```
▼ を何度か押して左図を表示する。
► を 2 回押す。

3.
```
エッジ ケンシュツ       ◀⬍
 ユウコウ   ▶ムコウ     ↵
```
▲ ▼ を押して「ムコウ」を選択する。
ENTER を押して決定。

```
シート ノ トリツケ
```
設定が変更され、図の画面が表示されます。

解説

メディアの前端と後端の検出を有効にするか無効にするかを設定します。通常は「ユウコウ」に設定しますが、透明なメディアを取り付ける場合は「ムコウ」に設定してください。
〔エッジ　ケンシュツ〕を「ムコウ」に設定すると、メディアがなくなっても印刷動作が止まりません。もし、印刷の途中でメディアがなくなったら、直ちに PAUSE を押して印刷を中断してください。さもないと、プラテンなどをインクで汚したり、インクが内部に入って機器を傷めたりする恐れがあります。

出荷時設定

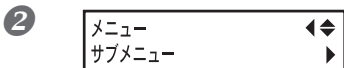
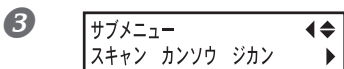
〔エッジ　ケンシュツ〕：ユウコウ

乾きにくいメディアを使用する

手順

1. MENU を押す。

2.
```
メニュー             ◀⬍
サブメニュー            ▶
```
▼ を何度か押して左図を表示する。
► ▼ の順に押す。

3.
```
サブメニュー           ◀⬍
スキャン カンソウ ジカン     ▶
```
► を押す。

4.
```
スキャン カンソウ ジカン ◀⬍
       オフ ▶ 1．0 ビョウ ↵
```
▲ ▼ を押して値を選択する。
値を大きくするほどメディアの移動がゆっくりになり、乾燥時間を長くとることができます。
ENTER を押して決定。

4
使いこなし

5
MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

メディアヒーティングシステムを使ってもインクの乾きが悪いときに使います。この設定は、ソフトウェア RIP でも行うことができます。ソフトウェア RIP で設定したときは、プリンタ側の設定は無視されます。

出荷時設定

〔スキャン　カンソウジカン〕：オフ

浮き上がりやすい／スムーズに動かないメディアを使用する

手順

1 MENU を押す。

2
メニュー
サブメニュー

▼ を何度か押して左図を表示する。
► を押す。
▼ を 2 回押す。

3
サブメニュー
キュウチャクリョク　セッテイ

► を押す。

4
キュウチャクリョク　セッテイ
オート　▶ 90%

▲ ▼ を押して値を選択する。

0 〜 100%

値が大きいほど吸着力が強くなります。反ったりしわになったりして浮き上がりやすいメディアでは強くすると改善することがあります。こしがなくてスムーズに移動しにくいメディアでは、弱めるとよいこともあります。

オート

メディア幅に最適な吸着力に自動調整されます。

ENTER を押して決定。

5
W1200mm
シート ノ トリツケ

MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

メディアを安定させるため、プラテンはメディアを吸着しています。メディアの性質や状態などにあわせて吸着力を調整することができます。この設定は、ソフトウェア RIP でも行うことができます。ソフトウェ

ア RIP で設定したときは、プリンタ側の設定は無視されます。

出荷時設定

〔キュウチャクリョク　セッテイ〕：オート

幅のせまいメディアへの出力を早くする

手順

1. MENU を押す。

2.
```
メニュー        ◀◆
サブメニュー      ▶
```
▼ を何度か押して左図を表示する。
► を押す。

3.
```
サブメニュー      ◀◆
テイハバ インサツ   ▶
```
▼ を何度か押して左図を表示する。
► を押す。

4.
```
テイハバ インサツ   ◀◆
ゼンイキ    ▶オフ   ↵
```
▲ ▼ を押して項目を選択する。

シート
ヘッドの動く範囲をメディアの幅に合わせます。

オフ
ヘッドの動く範囲を出力データに合わせます。必要最小限の動きになり、最も早い出力が期待できます。ただし、メディアの移動速度が一定ではなくなりますので、色がむらになることがあります。

ゼンイキ
メディアの移動速度が常に一定になり、最も安定した出力結果になります

ENTER を押して決定。

5.
```
W1200mm
シート ノ トリツケ
```
MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

ヘッドの動く幅を必要最小限にすることで出力時間を短縮します。メディアの幅がせまいときや出力データの幅がせまいときに効果があります。

出荷時設定

〔テイハバ　インサツ〕：ゼンイキ

メディア汚れ／ドット抜けの防止

手順

1 MENU を押す。

2

メニュー
サブメニュー

▼ を何度か押して左図を表示する。
► を押す。

3

サブメニュー
インサツチュウクリーニング

▼ を何度か押して左図を表示する。
► を押す。

4

インサツチュウクリーニング
ナシ　▶ 10フン

を押して項目を選択する。

ページ

印刷を開始する前に毎回自動クリーニングをします。

10 ～ 990 フン

印刷中に、設定した時間ごとに自動クリーニングをします。印刷が一時停止するため、色がむらになることがあります。

ナシ

自動クリーニングをしません。

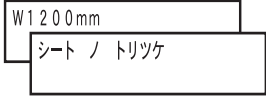
ENTER を押して決定。

5

MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

次のような場合には、ヘッド表面にインクが滞留しやすくなります。条件によっては、そのインクがメディアに付着したり、ドット抜けの原因となったりすることがあります。

○ 静電気が起きやすいメディアのとき
○ 気温が低いとき
○ ヘッド高さを「タカイ」にしたとき

「ページ」または「10 ～ 990 フン」を選択すると、印刷開始前や印刷中に、滞留したインクを取り除きながら印刷します。ただし、「ページ 」または「10 ～ 990 フン」を選択したときは印刷時間が長くなります。

出荷時設定

〔インサツチュウクリーニング〕：ナシ

貼り付きやすいメディアを使用する

手順

1. MENU を押す。

2.

▼ を何度か押して左図を表示する。
► を押す。

3.

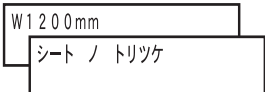
▼ を何度か押して左図を表示する。
► を押す。

4.
▲ ▼ を押して「ユウコウ」を選択する。
ENTER を押して決定。

5.

MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

メディアの種類によっては、プラテンに貼り付きやすいものがあります。メディアがプラテンに貼り付いた状態で印刷を開始すると、メディアが正常に送られずメディア詰まりの原因になることがあります。このようなメディアを使う場合は、〔ハリツキ　ボウシ〕メニューを「ユウコウ」に設定します。もしメディアが貼り付いていた場合でも、メディアをはがす動作を行ってから、印刷を開始します。ただし、この動作を行ってから印刷する場合、メディア送りが不安定になることがあります。特に必要のない限り、このメニューは「ムコウ」に設定してください。

出荷時設定

〔ハリツキ　ボウシ〕：ムコウ

使用するノズル列を固定する（CMYKLcLm モードのみ）

※ CMYKLcLm モード：シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、ライトシアン、ライトマゼンタの 6 色で本機を使っている状態

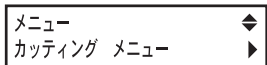
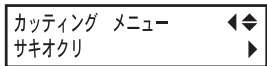
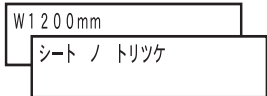
手順

1. MENU を押す。
2. メニュー / サブメニュー
   ▼ を何度か押して左図を表示する。
   ► を押す。
3. サブメニュー / コウゴ シヨウ
   ▼ を何度か押して左図を表示する。
   ► を押す。
4. コウゴ シヨウ / ユウコウ ▶ ムコウ
   ▲ ▼ を押して「ムコウ」を選択する。
   ENTER を押して決定。
5. W1200mm / シート ノ トリツケ
   MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

「ムコウ」にすると、シアン、マゼンタが使用するノズルを固定します。これにより、メディアの種類によっては印刷画質がよくなる場合があります。ただし、「ユウコウ」に比べてインクの使用効率は下がります。なお、この設定は CMYKLcLm モードの場合のみ表示され、双方向印刷を行っている場合にのみ有効です。

出荷時設定

〔コウゴ　シヨウ〕：ユウコウ

カッティング機能を使いこなす

カッティング設定のヒント

○〔サキオクリ〕メニューを「ユウコウ」に設定すると、カッティング前に自動的にメディアを送り出してから引き戻してカッティングします。あらかじめメディアを後方に垂らす必要はありません。

☞ P. 105「カッティングのみを行うときにメディアが無理に引っぱられないようにする」

○ プリントヒーター、ドライヤーをオフにして、温度が下がってから行うと安定したカッティング結果が得られます。

☞ P. 91「メディアヒーティングシステムの温度設定」

○ カッターホルダーのキャップ先端が印刷面をこすって、印刷面を汚したり傷つけたりすることがあります。このようなときは、カッターの刃先突出量を多めにしてください。

☞ P. 108「切り込み量を細かく調整する」

カッティングのみを行うときにメディアが無理に引っぱられないようにする

手順

1. MENU を押す。

2. [メニュー / カッティング メニュー]
   ▲ を押して左図を表示する。
   ► を押す。

3. [カッティング メニュー / サキオクリ]
   ▲ を押して左図を表示する。
   ► を押す。

4. [サキオクリ / ムコウ ▶ ユウコウ]
   ▲ ▼ を押して「ユウコウ」を選択する。
   ENTER を押して決定。

5. [W1200mm / シート ノ トリツケ]
   MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

カッティングする前に、コンピュータから送られてきたデータのサイズにあわせてメディアを送り出します。そのため、カッティングするたびに手でメディアフランジをまわしてメディアを垂らす必要がありません。ただし、印刷のみのときもメディアが送りだされるので、必要がないときは「ムコウ」にします。

出荷時設定

〔サキオクリ〕：ムコウ

カッティング条件を細かく設定する

手順

1 カッティングテストを行う。

☞ P. 52「カッティングテストとカッター圧の設定」手順 1.

テストパターンのカッティングが完了したら ▼ を押す。

2

する。

► を押す。

〔カッターアツ〕

カッターの圧力を設定します。（出荷時設定：50gf）

〔ソクド〕

カッティングの速度を設定します。（出荷時設定：30 cm/s）

〔オフセット〕

カッターの刃先補正量を設定します。カッターに記載のオフセット値を入力してください。（付属のカッターのオフセット値は 0.25 mm です。）（出荷時設定：0.250 mm）

〔UP ソクド〕

カッティング中のカッターの空送り速度（1つのカット線をカッティング後、次のカット線をカッティングするためにカッターが移動するときの速度）を設定します。空送り中に、メディアが浮き上がりカッターがメディア表面を傷つけるような場合には、速度を落としてください。（出荷時設定：30 cm/s）

3

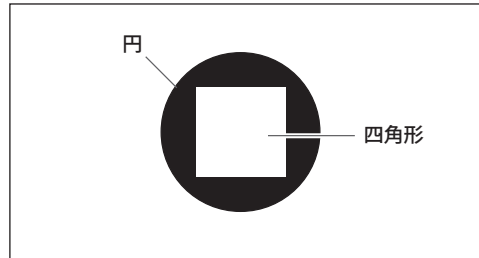
ENTER を押して決定。

カッティングテストの評価方法は次ページを参照してください。

4 使いこなし

カッティングテストの評価方法

カッティングされた形を確認する

形がゆがんでいる ⇨〔ソクド〕の値を小さくする

円をはがす

四角形が一緒にはがれる ⇨〔カッターアツ〕の値を大きくする

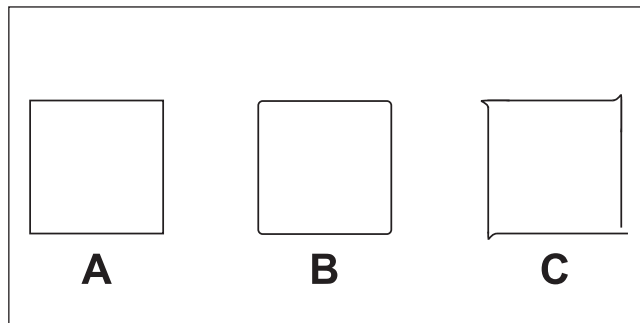
部分的な切り残しがある ⇨〔ソクド〕の値を小さくする

四角形をはがす

うっすらと台紙にカッターの跡がついている ⇨〔カッターアツ〕の値はそのままで OK

カッターの跡がわからない ⇨〔カッターアツ〕の値を大きくする

カッターの跡が深すぎる、台紙まできれている ⇨〔カッターアツ〕の値を小さくする

はがした四角形の形を確認する

A⇨〔オフセット〕の値はそのままで OK

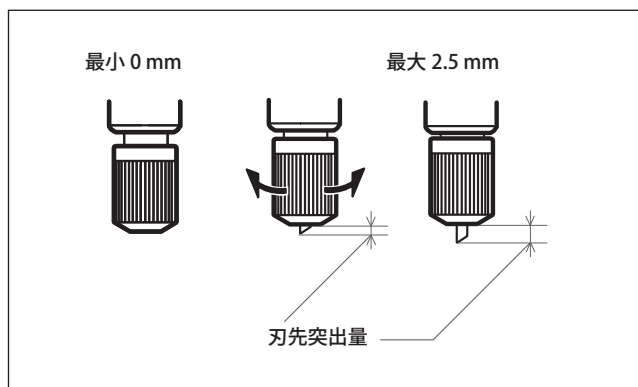
B（角がとれて丸くなっている）⇨〔オフセット〕の値を大きくする

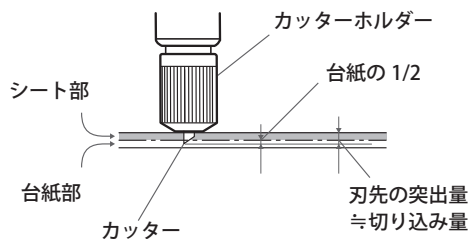
C（角にツノができている）⇨〔オフセット〕の値を小さくする

❹

MENU を押してもとの画面に戻る。

切り込み量を細かく調整する

台紙が薄いメディアのカッティングなど、切り込み量を細かく調整したいときは、カッターの刃先突出量を調整するとよい結果が得られます。刃先突出量は、カッターホルダーのキャップ部分を回して調整します。1 目盛で 0.1 mm、 1 回転で 0.5 mm の調整を行うことができます。
ただし、刃先突出量を少なめにすると、カッターホルダーのキャップ先端が印刷面と接触して、汚したり傷つけたりすることがあります。インクが定着しにくいメディアを使用するときは特に注意してください。

刃先突出量の目安

刃先突出量は次の寸法を目安に設定します。

カッティング時の距離補正をする

※ 印刷後続けてカッティングするときは補正値を必ず「0.00%」にしてください。印刷結果とカッティング結果がずれます。

手順

❶

を押す。

❷

▲を押して左図を表示する。
▶を押す。
▼を 2 回押す。

❸

▶を押す。

❹

▶を押す。

▲ ▼を押して補正値を選択する。
メディアの送り方向の補正値を設定します。
ENTERを押して決定。
◀ ▼の順に押す。

❺
▶を押す。

▲ ▼を押して補正値を選択する。
ヘッドの移動方向の補正値を設定します。
ENTERを押して決定。

❻

MENUを押してもとの画面に戻る。

解説

メディアの厚みによって、メディアの移動距離が微妙に変化します。そのためカッティングしたときの線の長さがデータで設定された長さとずれることがあります。カッティングのみを行う場合に、カット線の長さを正確に合わせたいときは補正値を入力します。

出荷時設定

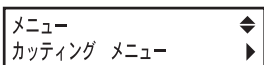
〔FEED セッテイ〕：0.00%
〔SCAN セッテイ〕：0.00%

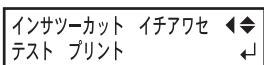
4 使いこなし

印刷位置とカット位置のずれを補正する

※ この設定を行う場合は、「カッティングメニュー　キャリブレーション」の補正値を必ず「0.00%」に設定してください。

☞ P. 109「カッティング時の距離補正をする」

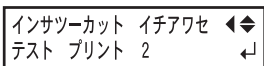
手順

1. 〔ジドウカンキョウホセイ〕メニューが「ユウコウ」になっていることを確認する。

☞ P. 113「自動環境補正機能の設定を確認する」

2. 双方向調整を行う。

☞ P. 95「双方向印刷のずれを補正する」、P. 96「双方向印刷のずれをより細かく補正する」

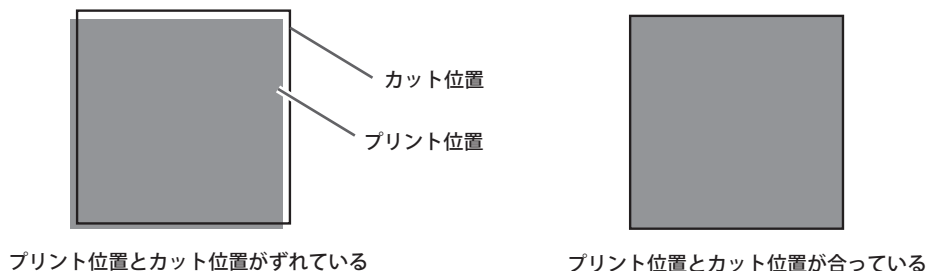
3. MENU を押す。

4.
```
メニュー
カッティング メニュー
```
▲ を押して左図を表示する。
► を押す。

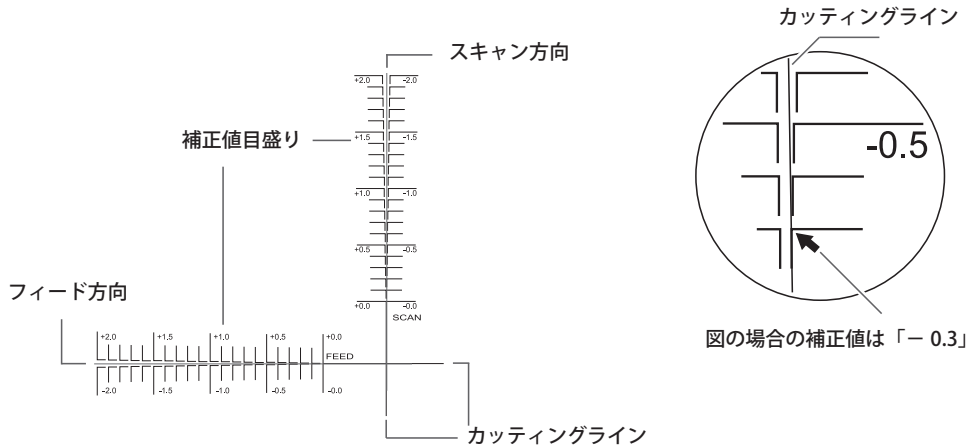
5.
```
カッティング メニュー
インサツーカット イチアワセ
```
► を押す。

6.
```
インサツーカット イチアワセ
テスト プリント
```
ENTER を押す。
テストパターン（P&C1）がプリント＆カットされます。テストパターンはメディア上の両端と中央の 3 箇所に出力されます。

調整が必要なときは次の手順に進む。

テストパターン（P&C1）の確認方法

プリント位置とカット位置がずれていないか確認してください。

7.
```
インサツーカット イチアワセ
テスト プリント 2
```
▲ を押して左図を表示する。
ENTER を押す。
テストパターン（P&C2）がプリント＆カットされます。

テストパターンの確認方法は次ページを参照してください。

テストパターン（P&C2）の確認方法

カッティングラインと補正値目盛りの交点が補正値です。スキャン方向、フィード方向それぞれを確認してください。

❽

［▲］を押して左図を表示する。
［►］を押す。

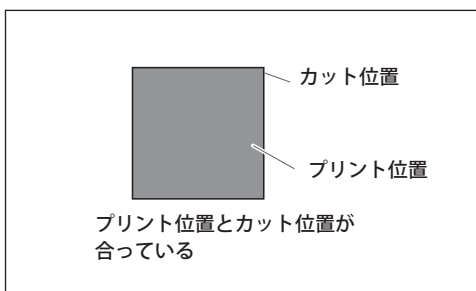
❾

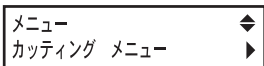
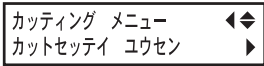
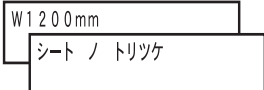
F :- 0.30 ▶ - 0.30mm
S : 0.00 ▶ - 0.20mm ↵

［▲］［▼］を押して [F]（メディアの送り方向）の補正値を選択する。
［◄］［►］を押して [S]（ヘッドの移動方向）の補正値を選択する。
［ENTER］を押して決定。

❿

インサツーカット　イチアワセ
テスト　プリント ↵

［MENU］［▲］の順に押して左図を表示する。
［ENTER］を押す。
テストパターン（P&C1）がプリント＆カットされます。印刷とカット線が合っていれば調整完了です。さらに調整が必要な場合は、手順❾に戻って微調整を行ってください。

解説

印刷とカッティングを連続して行った場合に、印刷とカッティングが微妙にずれたとき行ってください。位置あわせマークを印刷して読み取り、ずれを補正します。メディアの厚みやヘッド高さによって印刷とカッティングの位置が微妙にずれることがあります。お使いのメディアに合わせた補正をおすすめします。

出荷時設定

〔F〕（メディアの送り方向の補正値）：0.00mm
〔S〕（ヘッドの移動方向の補正値）：0.00mm

本機のカッティング設定をソフトウェア RIP の設定よりも優先させる

手順

1. MENU を押す。

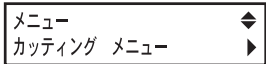
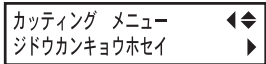
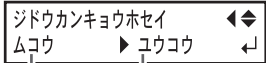
2.
```
メニュー
カッティング メニュー
```
▲ を押して左図を表示する。
► を押す。
▲ を 2 回押す。

3.
```
カッティング メニュー
カットセッテイ ユウセン
```
► を押す。

4.
```
カットセッテイ ユウセン
コマンド ▶メニュー
```
▲ ▼ を押して「メニュー」を選択する。
ENTER を押して決定。

5.
```
W1200mm
シート ノ トリツケ
```
MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

カッティング条件はソフトウェア RIP でも設定できます。工場出荷時の設定では、ソフトウェア RIP の設定が優先されます。本機で設定したカッティング条件を優先させるには、ソフトウェア RIP の設定を無効にするか、上記の設定を行ってください。

出荷時設定

〔カットセッテイ　ユウセン〕：コマンド

自動環境補正機能の設定を確認する

自動環境補正機能とは、本機が使用環境（湿度・温度）に応じて最適な状態になるように自動調整する機能です。自動調整することにより、印刷やカッティング時のスキャン方向（ヘッドの移動方向）のずれを少なくしています。通常は「ユウコウ」に設定しておいてください。

手順

1.

を押す。

2.
▲ を押して左図を表示する。
► ▲ の順に押す。

3.

► を押す。

4.

設定が「ユウコウ」になっていることを確認する。
設定を変更したい場合は ▲ ▼ を押して項目を選択する。
ENTER を押して決定。

5. MENU を押してもとの画面に戻る。

出荷時設定

〔ジドウカンキョウホセイ〕：ユウコウ

4 使いこなし

印刷とカッティングを別々に行う

印刷とカッティングを別々に行うには

本機では、印刷したメディアを一度取り外し、再セットしてカッティングすることができます。
（例：印刷後にラミネートなどの加工をしたメディアを、再セットしてカッティングする）
このとき、印刷位置とカット線がずれないように位置合わせをする必要があります。次の手順で行ってください。

手順

1 クロップマーク付きで印刷する。

☞ P. 114「クロップマーク付きで印刷する」

2 印刷されたクロップマークで位置合わせしてカッティングする

クロップマークの検出は自動または手動で行うことができます。

☞ P. 116「自動で位置を合わせてカッティングする」、P. 118「手動で位置を合わせてカッティングする」

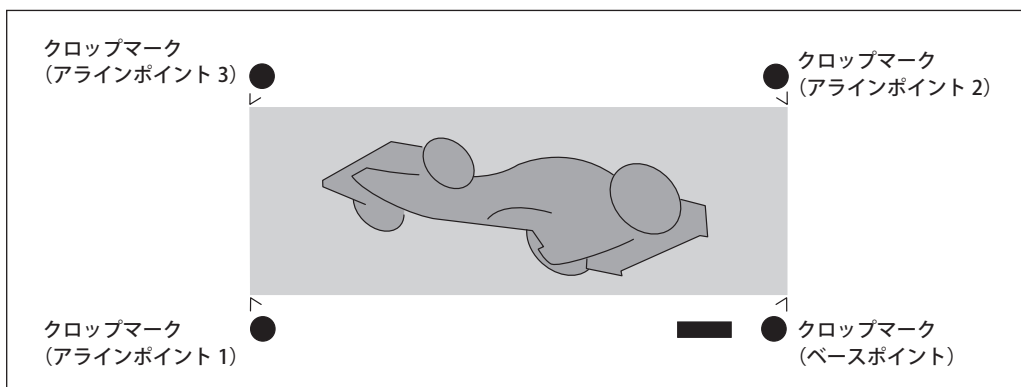
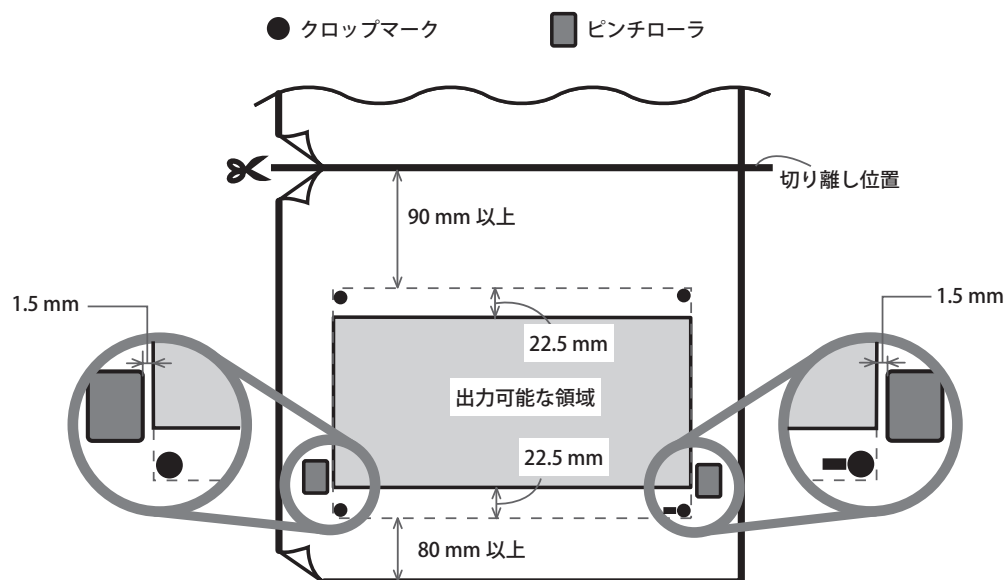
※ 印刷位置とカット線がずれてしまう場合は補正を行ってください。

☞ P. 119「クロップマーク使用時の印刷位置とカット位置のずれを補正する」

クロップマーク付きで印刷する

お使いのソフトウェア RIP でクロップマークを印刷するよう設定してください。設定方法はお使いのソフトウェア RIP の取扱説明書をご覧ください。

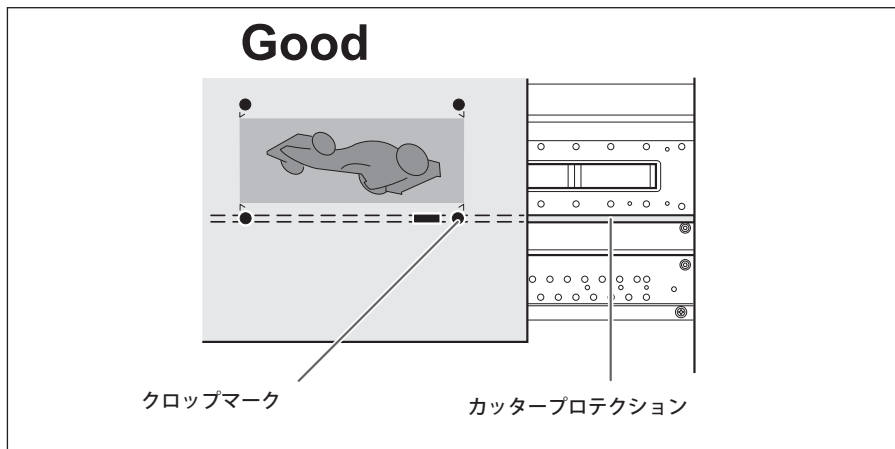
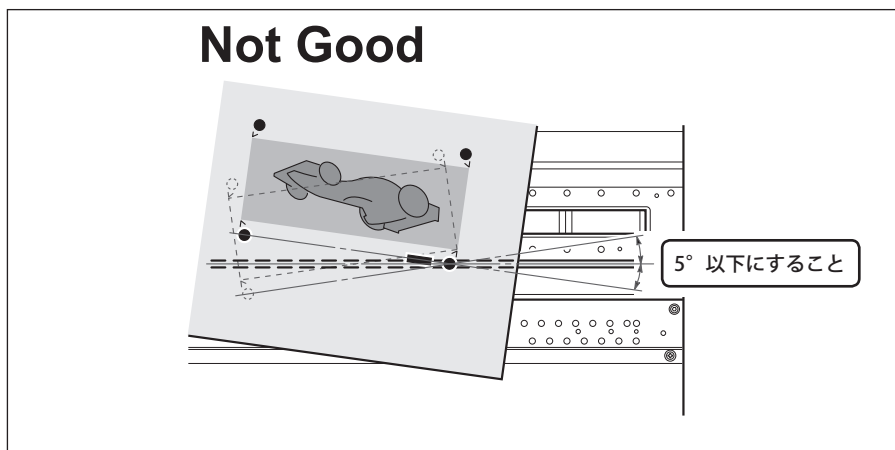
> **IMPORTANT!**
> グラフィックアプリケーションソフトで描いたトンボや印はクロップマークとして使用できません。

クロップマークは図のように印刷されます。

クロップマークを自動検出できるメディアの大きさ

クロップマーク付きで印刷したとき、次の印刷開始位置までの余白は 90 mm 以上に設定してください。余白はお使いのソフトウェア RIP で設定できます。設定方法はお使いのソフトウェア RIP の取扱説明書をご覧ください。

自動で位置を合わせてカッティングする

コンピュータからカッティングデータを送信するときに、クロップマークを検出するように設定するとクロップマークの有無を自動的に判別して位置合わせを行います。設定方法はお使いのソフトウェア RIP の取扱説明書をご覧ください。

メディアをセットするときのポイント

カッタープロテクションの上にクロップマークがのるようにしてください。

5 度以上傾けないでください。位置合わせできなくなります。

自動位置合わせできなかったときは

```
クロップマーク　ガ
　　ミツカリマセン　↵
```

クロップマークが検出できなかったときは、図の画面を表示して動作を停止します。 ENTER を押すと画面はもとに戻ります。メディアをセットし直して、もう一度データを送りなおしてください。

※ 長尺メディアで自動位置合わせをしたい場合は、なるべく短いサイズに分割して出力することをおすすめします。

メディアのゆがみなどの影響でクロップマークがうまく検出できない場合があります。また、大きなサイズの場合、ゆがみなどによる誤差が大きくなるためうまく検出できません。そのような場合は、手動で位置合わせを行ってください。

☞ P. 118「手動で位置を合わせてカッティングする」

検出を中止してカットを開始するには

手順

1 クロップマークの検出中に PAUSE を押す。

クロップマークの検出が停止します。データ内容によっては検出停止までに少し　時間がかかることがあります。

2

```
クロップマークノ ケンシュツヲ
　　チュウシ シマスカ?　↵
```

ENTER を押す。

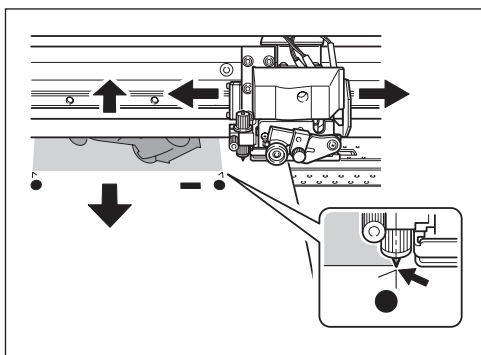
検出を中止してカットを開始します。

※ 手順 1 で PAUSE を押した後、検出の再開や、出力そのものをキャンセルすることもできます。

☞ P. 56「出力の一時停止とキャンセル」

手動で位置を合わせてカッティングする

メディアの種類によっては、自動でクロップマークを検出できないことがあります。そのようなときは、手動で位置合わせをします。

1. ベースポイントを指定する。

❶

◄ ► ▲ ▼ を押して
カッターの中心を図の位置に合わせる。

❷

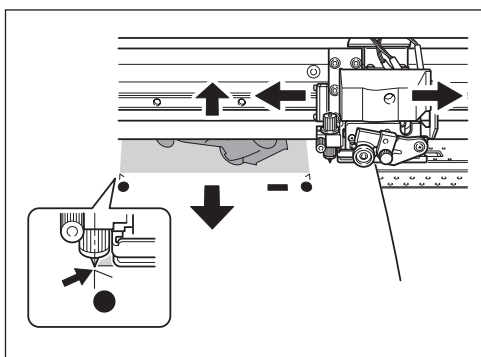
FUNCTION を押して左図を表示する。

ENTER を押す。
ベースポイントが設定されました。

2. アラインポイントを指定する。

❶

◄ ► ▲ ▼ を押して
カッターの中心を図の位置に合わせる。

❷

FUNCTION を押して左図を表示する。
► を押す。

❸
ベースポイント ◀
アラインポイント1 ↵

ENTER を押す。
アラインポイントの番号は自動的に判別されます。

アラインポイントが設定されました。

ベースポイントとアラインポイント 1 が設定されたことを表しています。

❹ 必要に応じて他のアラインポイントも手順 ❶ ～ ❸ を繰り返して指定する。

❺ カッティングデータを送ってカッティングする。

> **POINT!** **アラインポイントについて**
> アラインポイントはベースポイントの位置を基準として番号が決められています。ベースポイントを指定しないと、アラインポイントは設定できません。ベースポイントを設定し直すと、それまでに設定されていたアラインポイントはすべて解除されます。

使いこなし

クロップマーク使用時の印刷位置とカット位置のずれを補正する

※ この設定を行う場合は、「カッティングメニュー　キャリブレーション」の補正値を必ず「0.00%」に設定してください。

☞ P. 109「カッティング時の距離補正をする」

手順

❶ 〔ジドウカンキョウホセイ〕メニューが「ユウコウ」になっていることを確認する

☞ P. 113「自動環境補正機能の設定を確認する」

❷ 双方向調整を行う。

☞ P. 95「双方向印刷のずれを補正する」、P. 96「双方向印刷のずれをより細かく補正する」

❸ MENU を押す。

❹
▲ を押して左図を表示する。

の順に押す。

❺
► を押す。

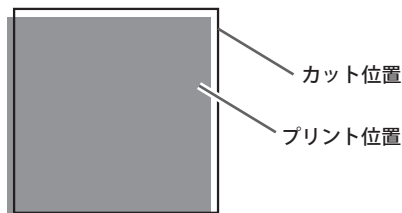
❻

クロップカット イチアワセ
テスト プリント

ENTER を押す。

テストパターン（C&C1）がプリント＆カットされます。

調整が必要なときは次の手順に進む。

テストパターン（C&C1）の確認方法

プリント位置とカット位置がずれていないか確認してください。

❼

クロップカット イチアワセ
テスト プリント 2

▲ を押して左図を表示する。

ENTER を押す。

テストパターン（C&C2）がプリント＆カットされます。

テストパターン（P&C2）の確認方法

カッティングラインと補正値目盛りの交点が補正値です。スキャン方向、フィード方向それぞれを確認してください。

❽

クロップカット イチアワセ
セッテイ

▲ を押して左図を表示する。

► を押す。

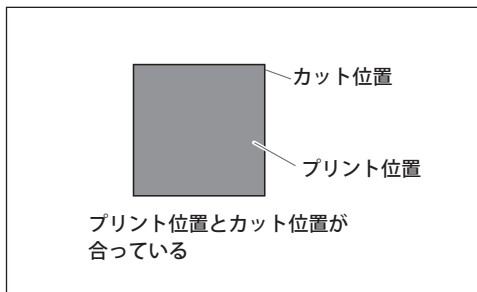
❾

```
F :- 0.30  ▶  - 0.30mm
S :  0.00  ▶  - 0.20mm   ↵
```

[▲] [▼] を押して [F]（メディアの送り方向）の補正値を選択する。
[◄] [►] を押して [S]（ヘッドの移動方向）の補正値を選択する。
[ENTER] を押して決定。

❿

```
クロップカット イチアワセ ◀⬍
テスト プリント          ↵
```

[MENU] [▲] の順に押して左図を表示する。
[ENTER] を押す。
テストパターン（C&C1）がプリント＆カットされます。印刷とカット線が合っていれば調整完了です。さらに調整が必要な場合は、手順 ❾ に戻って微調整を行ってください。

解説

メディアの材質によっては、クロップマークを使っても印刷とカットの位置がずれることがあります。お使いのメディアに合わせて印刷とカットのずれを補正してください。

出荷時設定

〔F〕（メディアの送り方向の補正値）：0.00mm
〔S〕（ヘッドの移動方向の補正値）：0.00mm

メディア巻取装置を使用する

引戻し動作を伴う出力時にメディア巻取装置を使用する

※ メディア巻取装置（以降、巻取装置）はオプション品です。
※ 巻取装置の組立や設置方法、基本的な操作方法などについては、巻取装置の取扱説明書を参照してください。
※ 引戻し動作を伴わない出力を行う場合は、巻取装置の取扱説明書を参照してください。

引戻し動作を伴う出力時に巻取装置を使用する場合は、メディア取り付け時に次の作業から始めてください。

手順

❶ **ダンサーローラを奥へ倒す。**

シート ノ トリツケ
◀▶マキトリ2

本機のサブ電源をオンにし、左図が表示されたら **► を押して「マキトリ２」を選択する。**

以降は、メディア巻取装置の取扱説明書に記載の手順にしたがって作業を行ってください。

「マキトリ 2」選択時の巻取装置の使用条件

「マキトリ２」（引戻し動作を伴う場合）、「マキトリソウチ」（引戻し動作を伴わない場合）のそれぞれを選択した場合で、巻取装置の使用条件は異なります。「マキトリソウチ」選択時は、巻取装置の取扱説明書に記載の使用条件を守ってください。「マキトリ 2」選択時は、次の条件を守ってください。

○ **ローディングレバーを下ろした状態で巻取装置のマニュアルスイッチを操作しない。**
○ **▲ を押してメディアを逆送しない。**
メディアが無理に引っぱられてエラーの原因となります。

○ **メディアの自動切り離し機能は使わない。**
ソフトウェア RIP でメディアの自動切り離しを実行するように設定されていると、1 ページの印刷が終わるごとにメディアの切り離しが行われます。複数ページを続けて印刷し、巻き取る場合は、ソフトウェア RIP で自動切り離し機能を無効にしてください。メディアが切り離されると、巻き取りはそこで中断します。

一度に出力する長さについて

一度に出力する長さが多いと、メディアが作業用床面に触れて汚れてしまうことがあります。床に触れてメディアを汚さないためには、およそ 300mm 単位で出力してください。
長さを区切って出力するには、ソフトウェア RIP の機能をお使いください。
☞ Roland VersaWorks をお使いの場合の設定方法は次ページへ

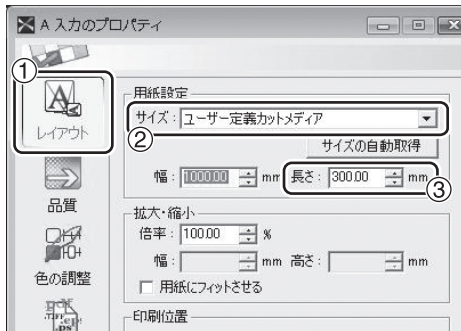
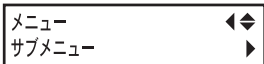
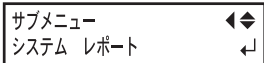
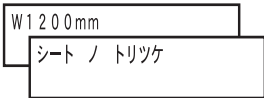
長さを区切って出力する方法（Roland VersaWorks）

ここでは、Roland VersaWorks（以降、RVW）を使って「長さを区切って出力する方法」について説明します。
RVW の詳細な使用方法については、RVW の取扱説明書を参照してください。

手順

1 「入力のプロパティ」画面（または「ジョブの設定」画面）を開く。
使用する入力フォルダ を選択してください。

2

「入力のプロパティ」画面
（「ジョブの設定」画面 でも設定項目および内容は同じです。）

①をクリックする。
②「用紙設定 」の［サイズ ］で「ユーザー定義カットメディア」を選択する。
③「長さ 」を設定する。

第 5 章
管理者の方へ

出力業務管理

システムレポートの印刷

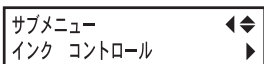
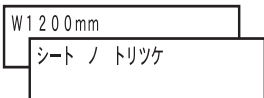
設定値一覧などのシステム情報を印刷します。

手順

❶ MENU を押す。

❷ メニュー / サブメニュー

▼ を何度か押して、左図を表示する。
► を押す。

❸ サブメニュー / システム　レポート

▼ を何度か押して、左図を表示する。
ENTER を押す。
印刷を開始します。

❹ W1200mm / シート　ノ　トリツケ

MENU を押してもとの画面に戻る。

インクが無くなったときの動作を決める

インクカートリッジが空になったときの動作を、用途に応じて変更します。

手順

❶ MENU を押す。

❷ メニュー / サブメニュー

▼ を何度か押して、左図を表示する。
► を押す。
▲ を 2 回押す。

❸ サブメニュー / インク　コントロール

► を 2 回押す。

❹ エンプティー　モード / テイシ　▶ゾッコウ

▲ ▼ を押して選択する。
「テイシ」: カートリッジが空になると直ぐに印刷が一時停止します。
「ゾッコウ」: カートリッジが空になっても自動的には印刷は停止しません。カートリッジが空になると、ブザーが鳴ります。
ENTER を押して決定。

❺ W1200mm / シート　ノ　トリツケ

MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

「テイシ」を選択した場合、印刷中に一時停止しますので色むらになることがあります。インク残量には気を付けてください。
「ゾッコウ」を選択した場合、インクが完全になくなっても停止しません。カートリッジ交換するには、そのまま印刷が完了するのを待つか、PAUSE を押して一時停止してください。

出荷時設定

〔エンプティー　モード〕：テイシ

メディア残量を表示させる

使用中のメディアの残量を表示させることができます。はじめに現在の残量を設定しておくことで、残量が 0 になるまで常に表示画面に残量が表示されます。

手順

1. MENU を押す。

2.
   メニュー
   シートザンリョウ　カンリ

   ▲ を 2 回押して、左図を表示する。
   ► ▼ の順に押す。

3.
   シートザンリョウ　カンリ
   ザンリョウ　セッテイ

   ► を押す。

4.
   ザンリョウ　セッテイ
   0.0 m　▶ 25.0 m

   ▲ ▼ を押して現在の残量を設定する。
   ENTER を押して決定。

5.
   W1200mm　L 25.0m

   新たに表示されます。

   MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

メディアを取り外したり、ローディングレバーを上げたりしてセットアップを解除すると、その時点での残量が点滅表示されます。
残量表示はメディアを交換しても自動更新されませんので、メディアを交換するごとに設定しなおしてください。なお、メディアを交換するたびに自動的にこのメニューを表示させるように設定することができます。次項「メディア交換時に必ず残量表示を更新するようにする」をご覧ください。
※ 表示される残量はおおよその目安です。その精度を保証するものではありません。

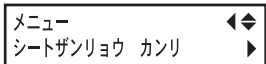
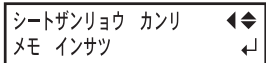
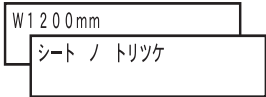
メディア交換時に必ず残量表示を更新するようにする

メディアの交換時に、必ず [ザンリョウ　セッテイ / 0.0 m ▶ 25.0 m] が表示されるように設定します。

手順

1. MENU を押す。
2. [メニュー / シートザンリョウ　カンリ]
   ▲ を2回押して、左図を表示する。
   ► を押す。
   ▼ を 2 回押す。
3. [シートザンリョウ　カンリ / セットアップジ　セッテイ]
   ► を押す。
4. [セットアップジ　セッテイ / ムコウ ▶ ユウコウ]
   ▲ ▼ を押して「ユウコウ」を選択する。
   ENTER を押して決定。
   「ユウコウ」にした場合は、〔エッジ　ケンシュツ〕メニューを「ユウコウ」に設定する必要があります。
   ☞ P. 99「透明なメディアを使用する」
5. MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

「ユウコウ」に設定することで、メディア交換時に残量表示の更新を忘れずに行えるようになります。ただし、必ず〔エッジ　ケンシュツ〕メニュー（☞ P. 99「透明なメディアを使用する」）を「ユウコウ」に設定してください。〔エッジ　ケンシュツ〕が「ムコウ」になっていると、〔ザンリョウ　セッテイ〕が自動的に表示されません。

出荷時設定

〔セットアップジ　セッテイ〕：ムコウ

メディア残量を印刷する

トップ画面に表示されているメディア残量を印刷します。

手順

❶

を押す。

❷
を２回押して、左図を表示する。
を押す。

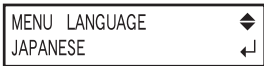
❸

ENTER を押す。
印刷を開始します。

❹

MENU を押してもとの画面に戻る。

解説

現在使用中のメディアの残り長さを記録したいときに使います。メディアの交換前にそのときの残量を印刷しておくと、次回使用するときにはその印刷結果を見て残量設定をすることができます。
ただし、続けて次の出力を行うと、メディア残量が印刷された部分の上に出力を開始してしまいます。残量を印刷した後は、次の出力を行う前にメディアを切り離してください。

本体のシステム管理

表示言語と単位の設定

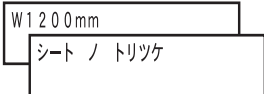
操作パネルの表示画面に表示される言語と単位を設定します。

手順

1. MENU を押しながら、サブ電源をオンにする。

2. MENU LANGUAGE / JAPANESE
▲ ▼ を押して表示言語を選択する。
ENTER を押して決定。

3. ナガサ タンイ / ミリ ▶ インチ
▲ ▼ を押して長さの単位を選択する。
ENTER を押して決定。

3. オンド タンイ / °C ▶ °F
▲ ▼ を押して温度の単位を選択する。
ENTER を押して決定。

出荷時設定

〔MENU　LANGUAGE〕：ENGLISH
〔ナガサ　タンイ〕：ミリ
〔オンド　タンイ〕：℃

スリープモード（省電力機能）になるまでの時間を設定する

手順

1. MENU を押す。

2. メニュー / サブメニュー
▼ を何度か押して、左図を表示する。
► を押す。

3. サブメニュー / スリープ
▲ を何度か押して、左図を表示する。
► を 2 回押す。

4. ジカン / 30フン ▶ 15フン
▲ ▼ を押して設定する。
ENTER を押して決定。

5. W1200mm / シート ノ トリツケ
MENU を押してもとの画面に戻る。

出荷時設定

〔ジカン〕：30 フン

スリープモード（省電力機能）にならないようにする

手順

1. MENU を押す。

2. 画面表示：
   メニュー
   サブメニュー

   ▼ を何度か押して、左図を表示する。
   ► を押す。

3. 画面表示：
   サブメニュー
   スリープ

   ▼ を何度か押して、左図を表示する。
   ► ▼ ► の順に押す。

4. 画面表示：
   セッテイ
   ユウコウ ▶ ムコウ

   ▲ ▼ を押して「ムコウ」を選択する。
   ENTER を押して決定。

5. 画面表示：
   W1200mm
   シート ノ トリツケ

   MENU を押してもとの画面に戻る。

出荷時設定

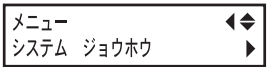
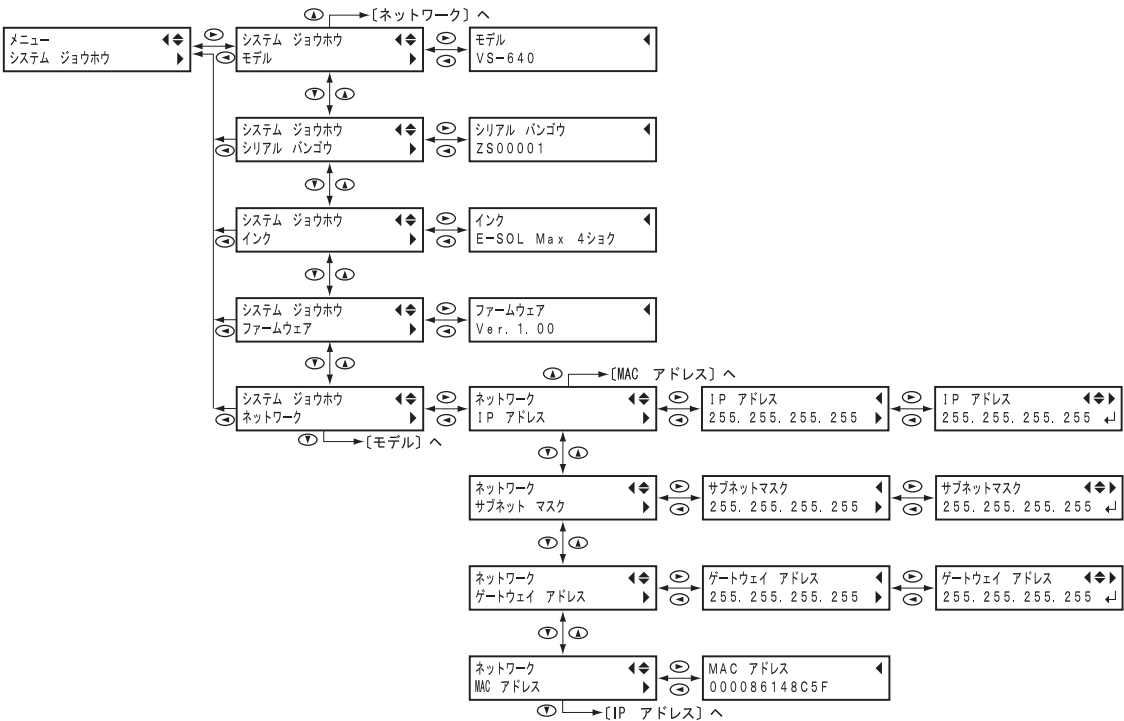
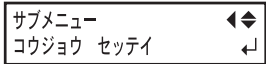
〔セッテイ〕：ユウコウ

本機のシステム情報を確認する

※ ネットワークの設定方法については「セットアップガイド」をご覧ください。

手順

❶ MENU を押す。

❷

▲ を何度か押して、左図を表示する。
以下の情報を確認できます。
〔モデル〕：機種名
〔シリアル　バンゴウ〕：シリアル番号
〔インク〕：インクの種類
〔ファームウェア〕：ファームウェアのバージョン
〔ネットワーク〕：IP アドレスなどのネットワーク設定

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す

すべてのメニューを出荷時設定に戻します。ただし、〔MENU　LANGUAGE〕、〔ナガサ　タンイ〕、〔オンド　タンイ〕の各種設定は、出荷時の設定にはもどりません。

手順

❶ MENU を押す。

❷
メニュー ◀⬍
サブメニュー ▶

▼ を何度か押して、左図を表示する。
► を押す。

❸
サブメニュー ◀⬍
コウジョウ　セッテイ ↵

▼ を何度か押して、左図を表示する。
ENTER を押して実行。

第６章
困ったときに読んでください（FAQ）

困った、動いてくれない！

プリンタ本体が動かない

電源がオンになっていますか？

プリンタのメイン電源をオンにしてからサブ電源スイッチを押し、サブ電源スイッチが点灯したのを確認してください。

☞ P. 26「スイッチオン！」

SETUP が点灯していますか？

SETUP が点灯していないと出力しません。ローディングレバーを下げてください。

☞ P. 54「コンピュータからデータを受けられるようにする」

カバーが開いていませんか？

フロントカバー、カバー L、カバー R を閉じてください。

トップ画面が表示されていますか？

トップ画面

```
W1200mm
```

トップ画面が表示されていないときにコンピュータからデータを送っても、出力は開始されません。トップ画面にするには、MENU を押し、◄ を押します。

☞ P. 54「コンピュータからデータを受けられるようにする」

PAUSE が点灯していませんか？

PAUSE が点灯しているときは一時停止状態です。再開するときは、PAUSE を押してください。PAUSE が消灯し、出力を再開します。

☞ P. 56「出力の一時停止とキャンセル」

インクがなくなっていませんか？

```
1██   2██   3██   4██
5██   6██   7██   8██
```

図の画面が表示されているときに印刷またはカッティングデータを送ると、メッセージが表示され警告音が鳴ります。同時に一時停止状態になります。新しいインクカートリッジに交換すると印刷またはカットを開始します。

☞ P. 61「インクカートリッジの交換方法」、P. 126「インクが無くなったときの動作を決める」

画面にメッセージが表示されていませんか？

☞ P. 148「メッセージが表示された」、P. 150「エラーメッセージが表示された」

ケーブルが接続されていますか？

ケーブルをしっかり接続してください。

☞「セットアップガイド」

ネットワークのルーティングは適切ですか？

ネットワークのルーティングが適切か確認してみてください。コンピュータと本機を同じハブに接続するか、クロスケーブルで直接接続します。これで出力できるようなら、ネットワーク側の問題である可能性があります。

ネットワークの設定は正しいですか？

ケーブルがしっかり接続されており、ネットワーク側に問題がない場合は、IP アドレスなどの設定が適切か確認してください。本機とコンピュータの両方の設定が適切である必要があります。ネットワーク上で IP アドレスが重複していないか、ソフトウェア RIP のポート設定は本機で設定した IP アドレスが指定されているか、入力ミスはないかなどを確認しながら設定をやり直してください。

☞「セットアップガイド」、P. 132「本機のシステム情報を確認する」

ソフトウェア RIP が異常終了していませんか？

ソフトウェア RIP が正常に起動していることを確認し、サブ電源スイッチをいったんオフにしてから、もう一度オンにしてください。

☞「Roland VersaWorks クイックスタートガイド」

メディアヒーティングシステムが熱くならない

メディアをセットしてありますか？

[SETUP] が消灯しているときには熱くなりません（出荷時設定）。メディアをセットし、温まるのを待ってください。

☞ P. 91「メディアヒーティングシステムを使いこなす」

部屋の温度が低すぎませんか？

本機は、20 ～ 32℃の環境で使用してください。

メディアの切り離しができない

メディア切り離し用ナイフは取り付けてありますか？

メディア切り離し用ナイフが取り付けられていないとメディアの切り離しはできません。

☞ P. 84「メディア切り離し用ナイフの交換」

カットレールは取り付けてありますか？

カットレールが取り付けられていないとメディアの切り離しはできません。

☞ P. 84「メディア切り離し用ナイフの交換」

きれいに印刷／カットできない

印刷が粗い／横すじが入る

プリントヘッドがドット抜けを起こしていませんか？

テストプリントを行い、ドット抜けがないか確認してください。ドット抜けがある場合は、ヘッドクリーニングを行ってください。

☞ P. 50「テストプリントとノーマルクリーニング」、P. 66「ノーマルクリーニングが効かないときに」

ヘッド高さは適切ですか？

［ヘッドタカサ］メニューが「タカイ」に設定されていると、「ヒクイ」のときに比べて印刷が粗くなります。厚みのあるメディアを使う場合などを除き、必要のないときは「ヒクイ」に設定してください。

☞ P. 98「メディアの厚みにヘッド高さを合わせる」

送り補正はしてありますか？

メディアの送り量が大きくずれると、印刷が粗い感じになったり、横すじが入ったりすることがあります。メディアの種類に適合した設定をソフトウェア RIP で行うか、プリンタ側で補正を行ってください。

☞ P. 96「横すじを軽減する（送り補正機能）」

双方向補正はしてありますか？

双方向印刷を行う場合は、〔ソウホウコウ チョウセイ〕メニューで補正を行ってください。おもにメディアの厚みによって最適な補正は変わってきます。メディアに応じた補正値を設定ないし選択してください。〔カンイ　セッテイ〕を行っても印刷がきれいにできない場合は、〔ショウサイ　セッテイ〕で補正を行ってください。

☞ P. 95「双方向印刷のずれを補正する」、P. 96「双方向印刷のずれをより細かく補正する」

プリントヒーターの温度は適切ですか？

インクがだまになったり、にじんで汚くなったりするときには、温度を高めにします。ただし、高すぎるとメディアが縮んでしわになったり、変質したりします。

☞ P. 91「メディアヒーティングシステムを使いこなす」

部屋の温度が低すぎませんか？

20℃未満では、メディアヒーティングシステムが十分温まらないことがあります。また、メディアヒーティングシステムが設定温度に達しても、メディアが冷え切っていると十分な効果が出ません。メディアを室温になじませてから印刷してください。

印刷モードは適切ですか？

メディアヒーティングシステムの温度を高くしてもきれいに印刷できないときは、より高品質な印刷モードを試してみてください。メディアによっては高品質な印刷モードでにじむこともありますし、ソフトウェ

ア RIP の設定（カラープロファイルの選択など）によっても結果は大きく変わります。お使いのメディアに適した設定をしてください。

プリンタは水平で安定した場所に設置してありますか？

傾いている場所、揺れたり振動したりする場所には設置しないでください。また、プリントヘッドに風が当たらないようにしてください。これらは、ドット抜けや印刷品質の低下を招くことがあります。

メディアのセット方法は適切ですか？

メディアのセットが適切でなかったり、メディアの送りがスムーズでなかったりすると、印刷に悪影響を与えます。メディアを正しくセットしてください。

☞ P. 144「メディアの送りが安定しない・・・」

〔プリセット〕メニューの設定は適切ですか？

〔プリセット〕メニューで選択した設定が、メディアの種類に適合していない場合、印刷に悪影響を与えます。お使いのメディアに最適な設定を選んでください。

☞ P. 38「メディアのセットアップ」、P. 88「プリセット機能を使いこなす」

色が安定しない／ムラになる

インクカートリッジを軽く振ってから取り付けましたか？

新しいカートリッジを取り付ける前には、カートリッジを軽く振ってください。

メディアがしわになっていませんか？

メディアがしわになってプラテンから浮いた状態になると、色のむらになったり、印刷品質が低下したりします。

☞ P. 144「メディアの送りが安定しない・・・」

印刷途中に一時停止しませんでしたか？

印刷を一時停止すると、再開したときのつなぎ目で色味が変わってしまうことがあります。印刷の一時停止は避けてください。工場出荷時の設定では、インクカートリッジが空になると印刷は一時停止します。長尺印刷の前には、インクカートリッジの残量を確認するようにしてください。また、コンピュータからのデータ転送速度が十分でないと、印刷がときおり停止することがあります。印刷中は、コンピュータに印刷以外の処理をさせないことをおすすめします。

プリンタは水平で安定した場所に設置してありますか？

傾いている場所、揺れたり振動したりする場所には設置しないでください。また、プリントヘッドに風が当たらないようにしてください。これらは、ドット抜けや印刷品質の低下を招くことがあります。

動作条件を適切に設定してありますか？

〔テイハバ　インサツ〕メニューや〔インサツチュウクリーニング〕メニューの設定によっては、色のむらになることがあります。設定を変えてある場合は、初期値に戻してみてください。

☞ P. 101「幅のせまいメディアへの出力を早くする」、P. 102「メディア汚れ／ドット抜けの防止」

〔プリセット〕メニューの設定は適切ですか？

〔プリセット〕メニューで選択した設定が、メディアの種類に適合していない場合、出力に悪影響を与えます。お使いのメディアに最適な設定を選んでください。

☞ P. 88「プリセット機能を使いこなす」

印刷するとメディアが汚れる

プリントヘッドがメディアに当たっていませんか？

プリントヘッド高さが低すぎるかも知れません。また、メディアのセットが適切でなかったりすると、しわや浮き上がりが起こりヘッドに当たることもあります。

☞ P. 98「メディアの厚みにヘッド高さを合わせる」、P. 144「メディアの送りが安定しない・・・」

プリントヘッドが汚れていませんか？

次のことが原因で、印刷中、メディアの上にインクが垂れることがあります。

○ ヘッドのまわりに繊維状のほこりなどが付いている

○ メディアをこすった影響でヘッドにインクがべったり付いている

このようなときは、プリントヘッドの手動クリーニングを行ってください。定期的なヘッドの清掃をおすすめします。

☞ P. 67「月に 1 度以上は行っていただきたいメンテナンス」

○ 湿度が低すぎる。

35 ～ 80% RH（ただし結露がないこと）の環境で使用してください。

ピンチローラやメディアクランプが汚れていませんか？

定期的に清掃してください。

☞ P. 64「清掃」

カットがずれる／ゆがむ

メディアのセット方法は適切ですか？

メディアのセットが適切でなかったり、メディアの送りがスムーズでなかったりすると、カッティングに悪影響を与えます。メディアを正しくセットしてください。

☞ P. 144「メディアの送りが安定しない・・・」

カッティング条件の設定は適切ですか？

カッティング速度が速すぎたり、カッター圧が強すぎたりすると、位置ずれやゆがみの原因になります。カッティング条件を変えてみてください。粘着層の粘りが強いメディアは、カット後すぐに粘着層部分がつながります。しかし、カッティングテストをして、メディアのはがれ具合と台紙に付いたカッターの跡が最適であればメディアは切れています。カッター圧を大きくしすぎないように注意してください。

☞ P. 105「カッティング機能を使いこなす」

出力の長さが長すぎませんか？

特に印刷後続けてカットする場合、ひとつのページが長くなるほど（つまり、プリント後にメディアを引き戻す距離が長いほど）位置ずれが起きやすくなります。1 ページの大きさは必要最小限にするとよいでしょう。

伸縮の大きいメディアを使用していませんか？

印刷後続けてカットする場合、メディアが伸縮すると位置がずれてしまいます。このようなときは、クロップマーク付きで印刷し、ベースポイントとアラインポイントを設定してからカッティングをしてみてください。メディアの伸縮が補正されます。

〔ジドウカンキョウホセイ〕メニューが「ムコウ」になっていませんか？

環境温度、湿度により印刷位置とカット位置がずれることがあります。〔ジドウカンキョウホセイ〕を「ユウコウ」にすると、環境に合わせてずれを補正します。

☞ P. 113「自動環境補正機能の設定を確認する」

〔カッティングメニュー〕の〔キャリブレーション〕は正しく設定されていますか？

印刷後続けてカットするときは、〔カッティングメニュー〕の〔キャリブレーション〕の補正値を「0.00」に設定してください。

☞ P. 109「カッティング時の距離補正をする」

ピンチローラを適切な位置に配置していますか？

ピンチローラは必ずグリットローラの上に配置してください。適切な位置に配置していないと、メディアの位置がずれます。

☞ P. 26「メディアの取り付け」

メディアが詰まった・・・！

メディアづまり

メディアづまりのためエラー表示が出たときは、すぐにその対処をしてください。プリントヘッドが壊れることがあります。

☞ P. 152〔モーターエラー：デンゲン ヲ イレナオシテ クダサイ〕

メディアが反ったりしわになったりしていませんか？

反りやしわにはさまざまな原因があります。以下をご覧のうえ対処してください。

☞ P. 144「メディアの送りが安定しない・・・」

プリントヘッド高さが低すぎませんか？

ヘッドを高くしてみてください。メディアは多少なりとも反ったりしわになったりしますので、その分も考慮してヘッドの高さを決めてください。

☞ P. 98「メディアの厚みにヘッド高さを合わせる」

メディアの送りが安定しない・・・

メディアがスムーズに送られないとさまざまなことが起こります。印刷品質が悪くなる、プリントヘッドがメディアに当たる、位置ずれする、メディアづまりするなどの原因になります。次のように対処してください。

メディアがしわになる／縮む

メディアはまっすぐきちんとセットしてありますか？

斜めになっていたり、メディアの張り具合が左右で違っていたりするとスムーズに送られません。メディアをセットし直してください。

☞ P. 38「メディアのセットアップ」

メディアをセットしたまま放置しませんでしたか？

メディアを長時間加熱すると縮んだりしわになったりすることがあります。印刷が完了したらサブ電源をオフにするか、メディアを取り外してください。

メディアクランプは取り付けてありますか？

印刷するときはメディアクランプを必ず取り付けてください。

プリントヒーター温度が高い状態でメディアをセットしませんでしたか？

プリントヒーターが温まった状態でメディアをセットすると、急激に温まるため、印刷時に縮んだりしわになったりすることがあります。サブ電源をオフにしてプラテンを冷ましてからメディアをセットしてください。

☞ P. 91「メディアヒーティングシステムを使いこなす」

メディアヒーティングシステムの温度が高すぎませんか？

メディアの種類に合わせて、適切な温度に設定してください。

☞ P. 91「メディアヒーティングシステムを使いこなす」

部屋の温度が低すぎませんか？

本機は、20 ～ 32℃の環境でお使いください。20℃未満の環境でお使いの場合、メディアの種類や幅によっては、しわになったり、温度むらになったりすることがあります。このような場合は、メディアヒーティングシステムの温度を 2 ℃程度低くしてみてください。ただし、安定した印刷結果を得るためには、20 ～ 32℃の環境で本機をお使いください。

部屋の湿度が高すぎませんか？

本機は、35 ～ 80%RH（ただし結露のないこと）の環境でお使いください。

使用しているメディアにたわみがありませんか？

たわんだメディアを使用すると、メディアにしわができてしまいます。

メディアが斜行する

メディアはまっすぐきちんとセットしてありますか？

斜めになっていたり、メディアの張り具合が左右で違っていたりするとスムーズに送られません。メディアをセットし直してください。

☞ P. 38「メディアのセットアップ」

メディア送りがなめらかでない

メディアやシャフトが何かにぶつかったりしていませんか？

メディアやシャフトに何かがさわらないようにしてください。見た目には送りがスムーズでも、印刷に影響することがあります。

☞ P. 38「メディアのセットアップ」

メディアが厚すぎませんか？

厚すぎるメディアは、送りが不安定になるばかりでなく、プリントヘッドをこすって故障の原因にもなります。このようなメディアは使用しないでください。

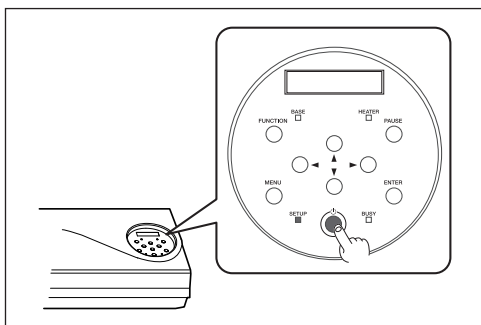
グリットローラが汚れていませんか？

グリットローラにメディアかすなどの異物が付着していないか確認してください。

☞ P. 64「清掃」

プリントヘッドが動かない・・・？

プリントヘッドキャリッジがプラテン上で止まってしまったときは、ヘッドの乾燥を防ぐためすぐに対処してください。

はじめに行う処置

サブ電源をいったんオフにし、再びオンにしてください。
メディアづまりのときはメディアも取り除いてください。
ヘッドがスタンバイポジション（カバー R の中）に移動すれば完了です。

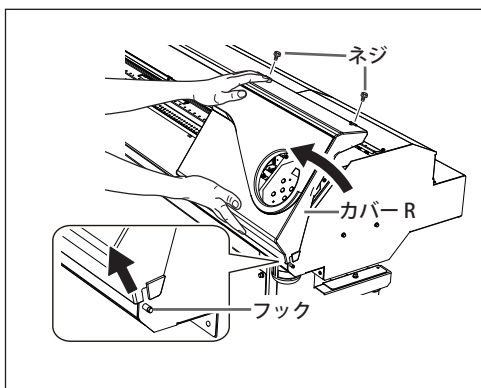
それでもプリントヘッドが動かない場合

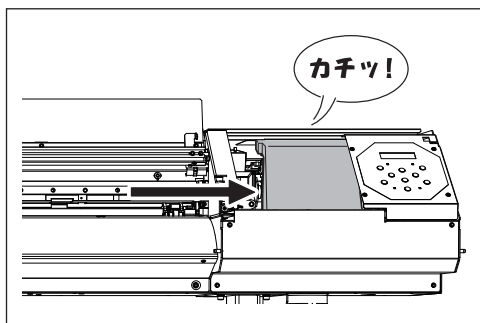
メイン電源をオフにし、再びメイン電源、サブ電源の順でオンにしてみてください。

どうしても動かないときは

それでも動かないときは、次の応急処置を施したうえでお買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。

手順

1 メイン電源をオフにし、フロントカバーを開ける。

カバー R を取り外す。

③

プリントヘッドを静かに手で動かし、スタンバイポジションまで持っていく。
「カチッ」と音がしたところでとめると、プリントヘッドが固定されます。

④ **右側から静かに力を加え、左側に動かないことを確認する。**
左側に動いてしまった場合は、もう一度左側からゆっくりプリントヘッドを移動し、固定されることを確認してください。

メッセージが表示された

正しい操作を促すために、本機の表示画面に表示されるおもなメッセージです。特にエラーを示すものではありません。メッセージに従って操作してください。

〔1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■〕

インク残量が少なくなりました。点滅している番号のカートリッジを新しいものと交換してください。

〔POWER キー ヲ オシテクダサイ クリーニング ヲ シマス〕

およそ 1 カ月使用しない状態が続いたときに表示されます。 1 カ月に一度はサブ電源をオンにしてください。

☞ P. 86「長期間使用しないときは」

〔カバー（フロントカバー／カバー L ／カバー R）ヲ トジテクダサイ〕

フロントカバー、カバー L、カバー R のいずれかを閉じてください。安全のため、カバーが開かれた状態ではキャリッジは動きません。

〔シート ヲ セット シテクダサイ〕

メディアをセットしてください。メディアをセットせずにテストプリントの指示をすると表示されます。

〔ハイエキボトル ヲ カクニンシテ クダサイ〕

廃液ボトルにある程度廃液がたまると表示されます。 ENTER を押すと復帰します。この画面が表示されたら、〔ハイエキボトル〕メニューに入って、ボトルにたまった廃液を捨ててください。

☞ P. 62「廃液の処理」

〔ハイエキボトル　ヲ　セットシテ　クダサイ〕

廃液ボトルがセットされているかの確認です。廃液ボトルを取り付け、 ENTER を押してください。

☞ P. 62「廃液の処理」

〔ヒーター カネツチュウ〕

メディアヒーティングシステムが設定温度になるまで待ってください。 HEATER が点灯すると出力が開始されます。この表示のときに PAUSE を 1 秒以上押しつづけると、出力を中止することができます。PAUSE を押すと設定温度に達していなくても直ちに出力を開始します。

〔メンテナンス ノ ジキデス〕

プリントヘッドの手動クリーニングの時期が来ました。確認後、 ENTER を押してください。

☞ P. 68「プリントヘッドの手動クリーニング」

〔ワイパー（フェルト）コウカン ノ ジキデス〕

ワイパーまたはフェルトワイパーの交換時期が来ました。確認後、ENTER を押してください。

☞ P. 76「ワイパーの交換」、P. 79「フェルトワイパーの交換」

〔カートリッジ フッテクダサイ 1 2 3 4 5 6 7 8〕

点滅しているスロット番号のインクカートリッジ抜き取り、軽く振ってください。

☞ P. 62「インクカートリッジのメンテナンス」

〔バルブ　ヲ　アケテクダサイ〕

バルブを開けてください。バルブとは、本機ご購入後にはじめてインク充てんするとき行った「ヘッドのクリーニング」で操作した部位です。この部位ははじめてのインク充てん以外では操作しないでください。むやみにバルブを閉めると、インクの吐出不良などの原因になります。

☞「セットアップガイド」

エラーメッセージが表示された

本機の表示画面に表示されるエラーメッセージとその対処方法です。ここで説明する対処をしても復帰できない場合や、ここにないエラーメッセージが表示された場合は、販売店もしくは弊社までご連絡ください。

〔アラインポイント ノ イチガ フセイデス〕

設定できない位置にアラインポイントを設定しようとした

ベースポイントとアラインポイントの傾きが大きすぎるとアラインポイントを設定できません。傾きがないようにメディアを正しい位置へセットしてから、クロップマークに合わせてベースポイントとアラインポイントを設定し直してください。

☞ P. 114「印刷とカッティングを別々に行う」

〔オンドガ アガリキリマセン　ツヅケマスカ？〕

プリントヒーター、ドライヤーが設定温度に達しない

設置場所の温度が低いためです。温度を上げるようお勧めします。温度が上がるのをさらに待つときはを押します。そのまま印刷を開始するときは、を押します。

〔キャリッジガ ハズレマシタ デンゲン イレナオシ〕

カッティングキャリッジとプリントヘッドキャリッジの連結が不正に外れた

メディア詰まりなどが原因で正常な動作が妨げられました。続行はできません。 いったんサブ電源をオフにした後、再びオンにしてください。

〔クロップマーク ガ ミツカリマセン〕

クロップマークの自動検出ができなかった

正しい位置にメディアを取り付け、再度クロップマークの検出を行ってください。再度クロップマークの自動検出を行ってもエラーが表示されるときは、手動でクロップマークを検出してください。メディアによっては自動検出ができないことがあります。

☞ P. 114「印刷とカッティングを別々に行う」

〔クロップマーク　ヲ　カケマセン　シュツリョクヲツヅケマスカ？〕

クロップマークを含めたデータサイズに対して、取り付けたメディアの印刷領域が足りない

そのまま出力を続けるときは ENTER を押します。このとき、印刷またはカッティング領域からはみ出した部分とクロップマークは出力されません。出力を中止するには、コンピュータからの転送を止め、ローディングレバーを上げます。大きなメディアに取り替えたり、ピンチローラのセット位置を変えたりして、印刷またはカッティング領域を広げてデータを送り直してください。

出力するデータの大きさが小さすぎる

スキャン方向のデータサイズを 65 mm 以上にしてください。そのまま出力を続けるときは、 ENTER を押します。このときクロップマークは印刷されません。出力を中止するには、コンピュータからの転送を止め、ローディングレバーを上げます。データサイズを大きくしてデータを送り直してください。メディア送り方向のデータサイズには制限がありません。

6
FAQ

〔コウオンエラー：デンゲン ヲ イレナオシテ クダサイ **℃〕

設置場所の気温が動作可能な環境温度より高くなった
続行はできません。サブ電源をオフにしてください。表示される温度は現在の設置場所の温度です。設置場所を動作可能な温度（15 ～ 32℃）にした後、電源をオンにしてください。

〔サービス コール ＊＊＊＊〕

復帰不能なエラーが発生した、または、サービスマンによる部品交換が必要になった
ディスプレイに表示されている番号を確認してから、サブ電源をオフにします。電源オフ後、お買い上げの販売店または弊社にディスプレイに表示された番号をご連絡ください。

〔シート ガ タリマセン シュツリョクヲ ツヅケマスカ ?〕

データサイズに対して、取り付けたメディアの印刷またはカッティング領域が足りない
そのまま出力を続けるときは、 ENTER を押します。このとき、印刷またはカッティング領域からはみ出した部分は出力されません。出力を中止するには、コンピュータからの転送を止め、ローディングレバーを上げます。大きなメディアに取り替えたり、ピンチローラのセット位置を変えたりして、印刷またはカッティング領域を広げてデータを送り直してください。

〔シートセット エラー サイセット　シテクダサイ〕

メディアをセットしていないのにローディングレバーを下げた
いったんローディングレバーを上げ、正しい位置にメディアをセットしてから、ローディングレバーを下げてください。

☞ P. 26「メディアの取り付け」

〔エッジ ケンシュツ〕が〔ユウコウ〕に設定されているのに、透明なメディアを取り付けた
いったんローディングレバーを上げ、〔エッジ ケンシュツ〕メニューを「ムコウ」に設定してからセットし直してください。

☞ P. 101「幅のせまいメディアへの出力を早くする」

取り付けたメディアが小さすぎる
何かキーを押すと復帰します。使用可能なサイズのメディアに交換してください。

〔テイオンエラー：デンゲン ヲ イレナオシテ クダサイ **℃〕

設置場所の気温が動作可能な環境温度より低くなった
続行はできません。サブ電源をオフにしてください。表示される温度は現在の設置場所の温度です。設置場所を動作可能な温度（15 ～ 32℃）にした後、電源をオンにしてください。

〔データ エラー キャンセル シテイマス ...〕

受信したデータに異常があったため出力を中止した
続行はできません。接続ケーブルやコンピュータに異常がないか確認し、メディアのセットからやり直してください。

〔ピンチローラ エラー ヒダリ（ミギ）ノ イチガ フセイデス〕

左（右）ピンチローラがメディアを挟めない位置にある

いったんローディングレバーを上げ、ピンチローラを正しい位置に移動してください。

☞ P. 26「メディアの取り付け」

〔ピンチローラ エラー ミギカラ * バンメ〕

ミドルピンチローラがメディアを挟めない位置にある

いったんローディングレバーを上げ、ミドルピンチローラを正しい位置に移動してください。

☞ P. 26「メディアの取り付け」

ミドルピンチローラが余っている

いったんローディングレバーを上げ、グリットローラ上にないミドルピンチローラを取り外してください。取り付けたメディアの幅によって、ミドルピンチローラの使用個数は変わります。

☞ P. 26「メディアの取り付け」

〔フセイナ　カートリッジ デス〕

使用できないカートリッジを取り付けた

カートリッジを抜き取ると復帰します。カートリッジは指定のものをご使用ください。

〔ヘッド カンソウ ホゴノタメ テイシ シマシタ〕

プリントヘッドの乾燥を防ぐため強制的にスタンバイポジションに移動した

続行はできません。サブ電源をオフにした後、再びオンにしてください。

〔ヘッドタカサ ヲ ..... ニ シテクダサイ〕

プリントヘッド高さがソフトウェア RIP の指定より低い

ソフトウェア RIP で指定したメディアの厚みに対して、プリントヘッド高さが低すぎることの警告です。高さ調整レバーの操作ができる位置にヘッドが移動しますので、表示の高さに変更し、ENTER を押してください。

☞ P. 98「メディアの厚みにヘッド高さを合わせる」

〔モーターエラー：デンゲン ヲ イレナオシテ クダサイ〕

モーターエラーが発生した

続行はできません。サブ電源をオフにしてください。次に、エラーの原因を取り除き、すぐにサブ電源をオンにしてください。エラーのまま放置すると、プリントヘッドが乾燥して壊れることがあります。このエラーの原因には、メディアのセット方法の誤り、メディアづまり、メディアを無理に引っぱる操作などがあります。

メディアづまり

つまったメディアをていねいに取り除いてください。また、プリントヘッドがダメージを受けたかも知れ

ません。ヘッドクリーニングをし、テストプリントで確認してください。

メディアを無理に引っぱった

メディアに過剰な張力がかかっており、このままでは復帰できません。まずローディングレバーを後ろに倒し、メディアを少しゆるめてから、サブ電源をオンにしてください。

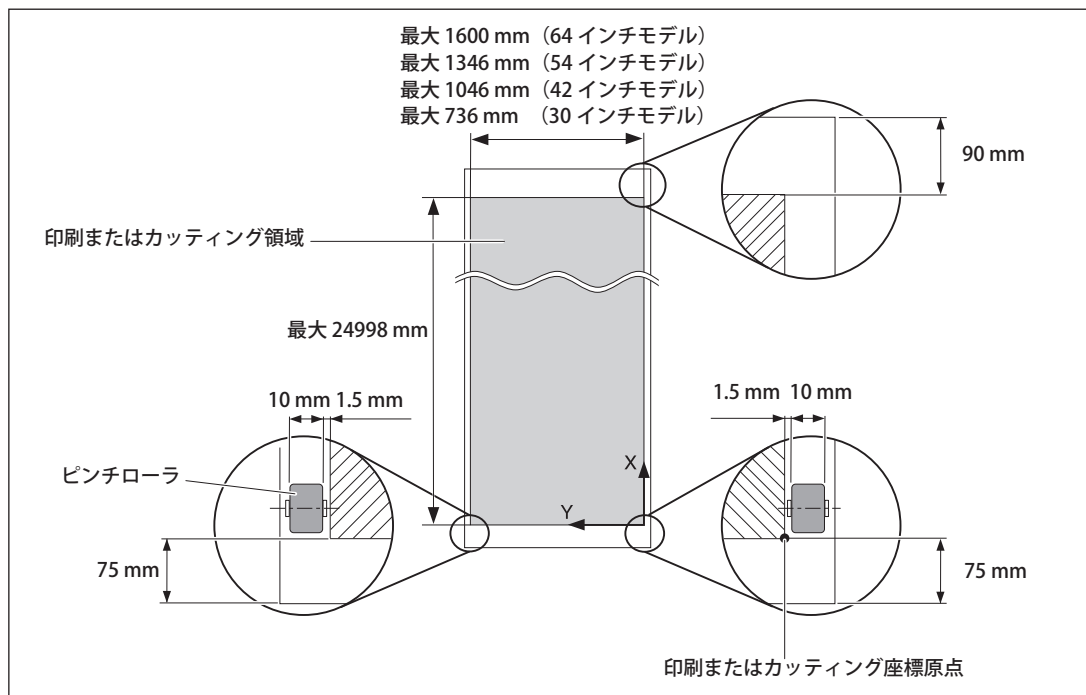
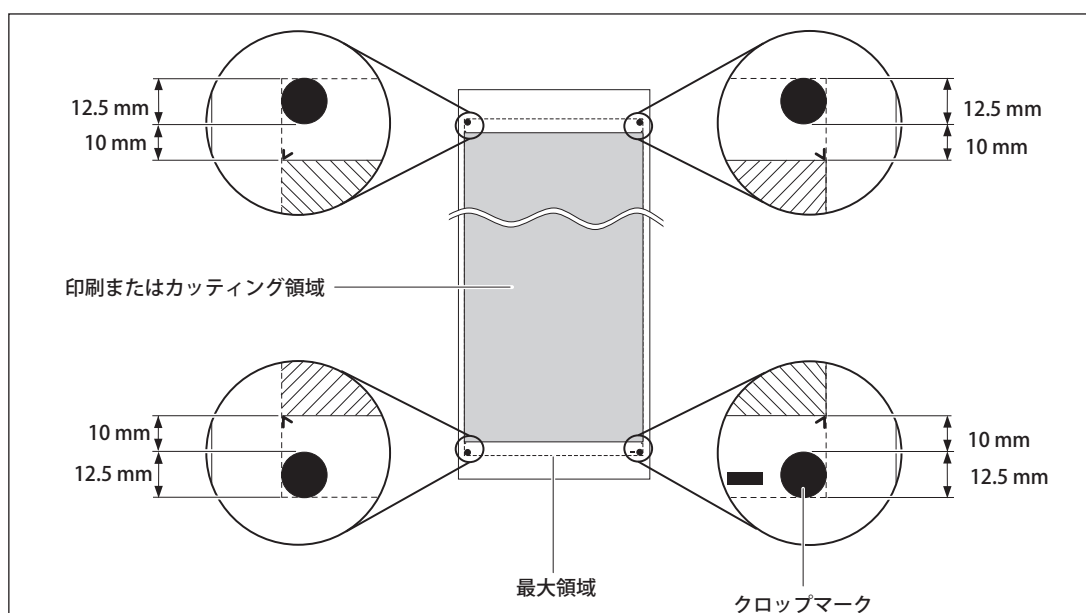
第 7 章
主な仕様

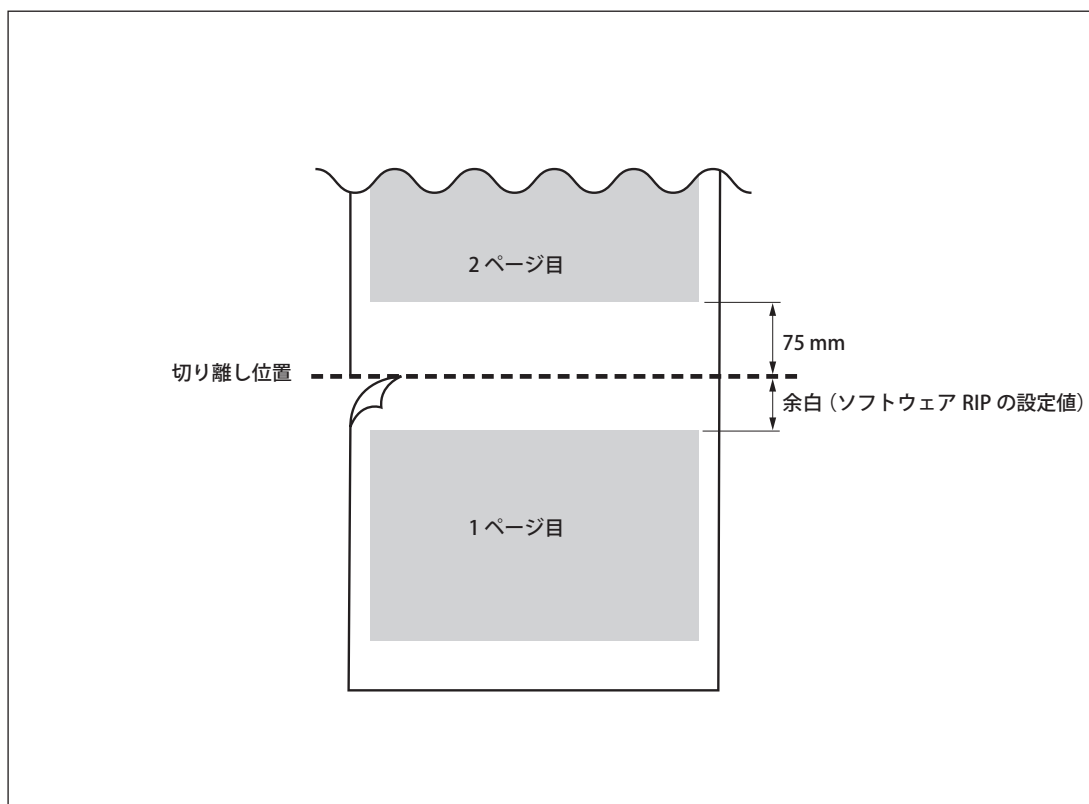
印刷／カッティング領域

最大領域

取り付けたメディアの横方向（キャリッジの移動方向）の印刷／カッティング領域は、ピンチローラの位置で決まります。

クロップマーク使用時の最大領域

7
主な仕様

連続印刷時のメディア切り離し位置

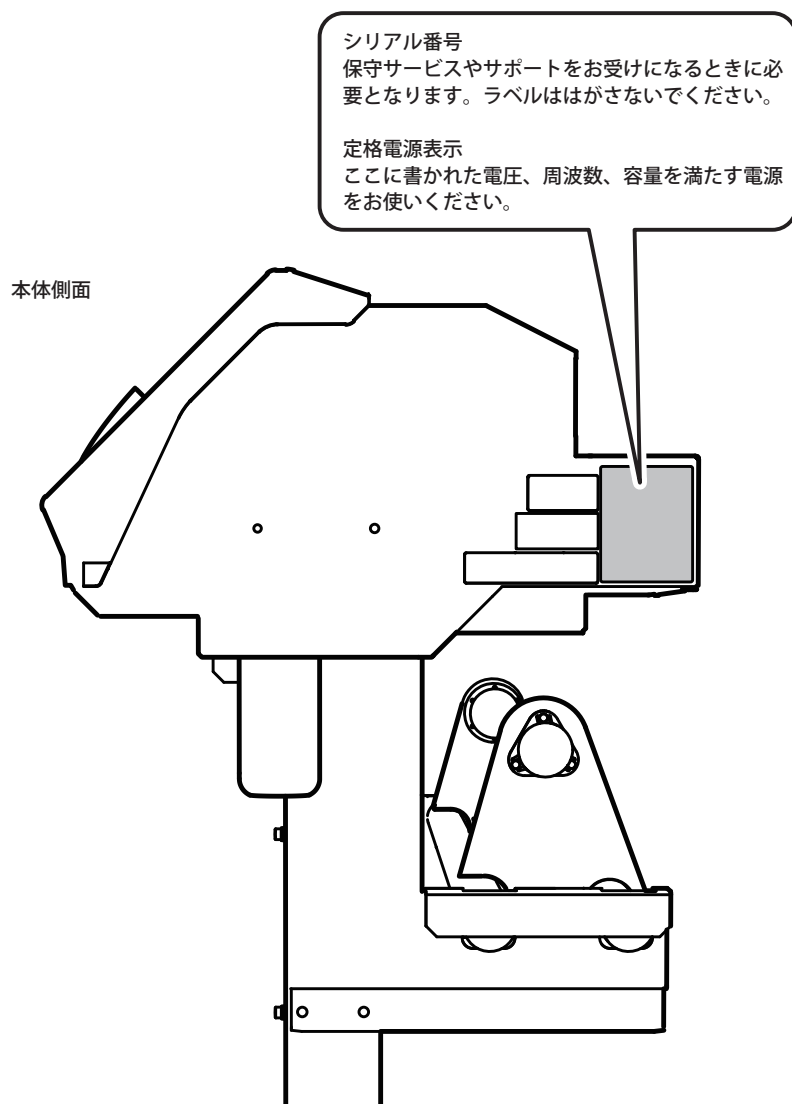
クロップマークを使用する場合、印刷／カッティング範囲は最大領域よりもクロップマークの分だけ小さくなります。

カッターについて

同じカッターを使っていても、メディアや使用環境によって、カッティング条件やカッターの寿命は変わってきます。また、カッターの種類によって寿命も違います。おおよその目安は下記のとおりです。

カッター	材　料	カッター圧	カッターオフセット（刃先補正量）	寿命 (目安)*
ZEC-U1005	サインシート一般	50 ～ 150 gf	0.25 mm	8000 m
ZEC-U5025	サインシート一般	30 ～ 100 gf	0.25 mm	4000 m
	蛍光シート	120 ～ 200 gf	0.25 mm	4000 m
	反射シート	100 ～ 200 gf	0.25 mm	4000 m

カッター圧をこの表に示したものより 50 ～ 60 gf 以上高くしても切り残しができる場合はカッターを交換してください。
*「寿命」は、同一種類のメディアをカットした場合の目安です。

7
主な仕様

定格電源およびシリアル番号の表示位置

仕様一覧表

		VS-640	VS-540	VS-420	VS-300
印刷方式		ピエゾインクジェット方式			
メディア	幅	210 ～ 1625 mm	210 ～ 1371mm	182 ～ 1071mm	182 ～ 762mm
	厚み	台紙を含め最大 1.0 mm（印刷時） 台紙を含め最大 0.4 mm かつ台紙を除き 0.22 mm（カッティング時）			
	ロール外径	最大 210 mm			
	ロール重量	最大 40 kg	最大 30Kg	最大 25Kg	最大 25Kg
	芯径 (*1)	76.2 mm（3 インチ）（および 50.8 mm（2 インチ））			
印刷／カッティング幅 (*2)		最大 1600 mm	最大 1346mm	最大 1046mm	最大 736mm
インク	種類	220 cc カートリッジ /440 cc カートリッジ			
	色	4 色（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック） または 6 色（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、ライトシアン、ライトマゼンタ） または ８色（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、ライトシアン、ライトマゼンタ、メタリックシルバー、ホワイト）			
解像度		最大 1440 dpi			
カッティング速度		10 ～ 300 mm/s			
カッター圧		30 ～ 300 gf			
カッター	種類	CAMM‐1 シリーズ用カッター			
	オフセット	0.000 ～ 1.500 mm			
ソフトウェア分解能（カッティング時）		0.025 mm/step			
距離精度（印刷時）(*3)(*4)		移動距離の± 0.3 % 以下または± 0.3 mm のうち大きい値			
距離精度（カッティング時）(*3)		移動距離の± 0.4%以下または± 0.3 mm 以下のうち大きい値 距離補正をした場合（〔カッティングメニュー〕-〔キャリブレーション〕を設定した場合）：移動距離の± 0.2%以下または± 0.1 mm 以下のうち大きい値			
反復精度（カッティング時）(*3)(*5)		± 0.1 mm 以下			
印刷とカッティングの位置合わせ精度 (*3)(*6)		± 0.5 mm 以下			
メディア再セット時の印刷とカッティングの位置合わせ精度 (*3)(*7)		メディア移動距離の± 0.5%以下または± 3 mm 以下のうち大きい値			
メディアヒーティングシステム (*8)		プリントヒーター、設定温度：30 ～ 45℃ ドライヤー、設定温度：30 ～ 50℃			
インターフェース		Ethernet（10BASE-T/100BASE-TX 自動切替）			
省電力機能		自動スリープ機能			
電源条件		AC 100 ± 10 %、8.2 A、50 / 60 Hz	AC 100 ± 10% 7.9A、50/60Hz	AC 100 ± 10% 7.2A、50/60Hz	AC 100 ± 10% 5.6A、50/60Hz
消費電力	動作時	約 1070 W	約 1040W	約 940W	約 740W
	スリープモード時	約 14.5 W	約 14.3W	約 14.2W	約 14.2W
動作音	動作時	64 dB (A) 以下			
	待機時	41 dB (A) 以下			
外径寸法（スタンド取り付け時）		2575（幅）× 705（奥行）× 1105 mm（高さ）	2315mm（幅）X 705 mm（奥行）X 1105 mm（高さ）	2015mm（幅）X 705 mm（奥行）X 1105 mm（高さ）	1705mm（幅）X 705 mm（奥行）X 1105 mm（高さ）
質量（スタンド取り付け時）		130 kg	120Kg	105Kg	90Kg
環境	動作時 (*9)	温度：15 ～ 32℃（20℃以上を推奨）、 湿度：35 ～ 80%RH（ただし結露のないこと）			
	非動作時	温度：5 ～ 40℃、湿度：20 ～ 80%RH（ただし結露のないこと）			
付属品		専用スタンド、電源コード、カッター、カッターホルダー、メディアクランプ、メディアホルダー、メディア切り離し用ナイフ替え刃、ソフトウェア RIP、取扱説明書ほか			

*1
本機のメディアホルダーは、紙管内径 3 インチ専用です。 2インチのメディアを使用するには、オプション品のメディアフランジが必要です。

*2
印刷／カッティング長さは、アプリケーションソフトによる制限を受けます。

*3
・メディア種類：当社指定メディア
・温度：25℃、湿度：50%
・ロールメディアを正しくセットする。
・メディア幅に対して使用できるピンチローラをすべて使用している場合。
・サイドマージン：左右とも 25 mm 以上
・フロントマージン：35 mm 以上
・メディアの伸縮は除く
・プリントヒーターまたはドライヤーを使用する場合は保証対象外です。
・本機のすべての補正／調整機能を正しい方法で補正／調整済であること。

*4
・ 1 m印刷時

*5
・〔サキオクリ〕メニューが「ユウコウ」に設定されていること
反復精度保証範囲
64 インチモデル：
・幅 610 mm を越えるメディアの場合：長さ 4000 mm
・幅 610 mm 以下のメディアの場合：長さ 8000 mm
54 インチモデル：
・幅 610mm を超えるメディアの場合：長さ 4000mm
・幅 610mm 以下のメディアの場合：長さ 8000mm
42 インチモデル：
・長さ 3,000mm
30 インチモデル：
・長さ 3,000mm

*6
・メディア送り方向の長さが 3000 mm 以内であること
・メディアの斜行、伸縮による影響を除く

*7
・データサイズ：
64 インチモデル：メディア送り方向 1000 mm、キャリッジ移動方向 1600mm
54 インチモデル：メディア送り方向 1000 mm、キャリッジ移動方向 1346mm
42 インチモデル：メディア送り方向 1000 mm、キャリッジ移動方向 1046mm
30 インチモデル：メディア送り方向 1000 mm、キャリッジ移動方向 736mm
・ラミネート加工なし
・メディア再セット時にクロップマーク 4 点を自動検出する
・カッティング時、〔サキオクリ〕メニューが「ユウコウ」に設定されていること
・メディアの伸縮、メディアの再セットによるずれを除く

*8
・電源投入後、ウォームアップが必要です。環境によって異なりますが、5 ～ 20 分程度必要となります。
・環境温度やメディアの幅によっては、設定温度に達しないことがあります。

*9
・動作環境

この範囲内で使用してください。